

年 報

(令和 3 年度)

2021



社会医療法人大成会

FUKUOKA KINEN HOSPITAL

福岡記念病院理念

地域住民が求める安全で信頼される医療を行う

基本方針

患者様中心の医療

患者様の人格・権利を尊重します
診療内容を説明し、納得された医療を行います

適切な医療水準

専門知識・技術の習得に努め、診療の質を高めます
根拠・医の倫理に基づいたチーム医療を行います

地域との積極的な連携

医療連携を図り、地域の健康増進に寄与します
地域救急医療の中心的役割を担います

目次

福岡記念病院理念

目次

沿革

病院の年表	1
施設の概況	
許可病床数／診療科及びその他部門／定例会議／委員会	4
施設基準等承認・届出事項	5
建物の概要／配置図	7
福岡記念病院組織図	8
病院職員数	9
登録医療機関	10

活動報告

診療科	17
看護部	38
薬局	40
放射線科	41
リハビリテーション科	41
臨床検査科	42
感染制御部	44
医療安全管理室	57
栄養サポート室	66
地域医療連携室	67
福岡記念 PET・健診センター	68
臨床研修管理委員会	70

医療統計

初診患者数／延外来患者数／外来患者診療科別構成	71
新入院患者数／延入院患者数／MDC 別新入院数	72
平均在院日数／紹介患者数／逆紹介患者数	73
救急搬送件数／手術件数	74

編集後記	75
------	----

沿革

1959年（昭和34年）	大塚外科医院を開設する
1964年（昭和39年）	医療法人大成会を設立する
1965年（昭和40年）	福岡記念病院に名称変更する 病床数156床に増床する 外科、内科、胃腸科、小児科、整形外科、肛門科を開設
1967年（昭和42年）	救急告示に指定
1977年（昭和52年）	第2期増築（鉄筋コンクリート造地下1階地上5階、病床数220床、 総床面積6,734㎡（現南館）） 脳神経外科、産科、婦人科を開設
1979年（昭和54年）	オーダーリングシステムの導入を行う
1989年（平成元年）	社団法人全日本病院協会より日帰り人間ドック実施病院の指定を受ける
1992年（平成4年）	社団法人日本医療法人協会より健康審査機関の認定を受ける
1993年（平成5年）	本館完成（鉄筋コンクリート造7階建て、総床面積6,454㎡） 南館改築完了（立体駐車場40台、総床面積10,921㎡） トータルオーダーリングシステム導入（IBM）を行う
1995年（平成7年）	一般社団法人日本病院会より優良短期人間ドック施設指定を受ける
1998年（平成10年）	開放型病院 施設基準を取得する 公益財団法人日本医療機能評価機構の定める一般病院種別Bに認定される 脳死による臓器提供病院に認定される
1999年（平成11年）	総合リハビリテーション施設基準を取得 レクセルガンマナイフ設置完了
2000年（平成12年）	循環器科を開設する
2002年（平成14年）	急性期特定加算（急性特定）第5号施設基準を取得 眼科、形成外科、美容外科を開設する
2003年（平成15年）	精神科、耳鼻咽喉科を開設する
2004年（平成16年）	管理型臨床研修病院に指定される 新制度下の臨床研修を開始する
2005年（平成17年）	電子カルテの導入を行う
2006年（平成18年）	DPC対象病院になる 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設になる 日本麻酔科学会麻酔科認定病院になる 日本感染症学会認定研修施設になる 一般病棟入院基本料7対1入院基本料施設基準を取得する
2007年（平成19年）	福岡中央総合健診センター開設、PET/CT設置完了 全国健康保険協会 生活習慣病予防健診指定を受ける 言語聴覚療法室設置完了 救急救命士による気管挿管実習病院に指定される 日本内科学会認定医制度教育関連施設となる
2008年（平成20年）	8階建の管理棟（延床面積2,693㎡）を増築 社会医療法人の認定を受ける インドネシア人・フィリピン人看護師候補者受入機関の認定を受ける 病院機能評価 Ver.5へ更新する

- 2009年（平成21年） 厚生労働大臣指定「臨床修練指定病院」の指定を受ける
 ICU・CCU（南館3階、6床）を開設
 「日本形成外科学会教育関連施設」として認定を受ける
 「化学療法室」の設置完了
 島津製作所製 床置き血管撮影装置「BRANSIST Safire」へ更新
 院内助産所・レディースフロア（南館5階、15床）開設
 助産師外来を開設する
 百道寮（24室）完成
- 2010年（平成22年） 脳神経外科・整形外科にて「治験」開始
 「院内がん登録」開始
 正面入口に救急車待機場所施工
- 2011年（平成23年） 日本救急医学会救急科専門医指定施設として指定を受ける
 細菌検査室・病理検査室設置
 福岡県災害拠点病院に指定される
 3日間発電可能（連続運転）な自家発電機を新設する
- 2012年（平成24年） 南館耐震補強工事を行う
 臨床検査科、病理診断科を開設
 栄養サポート室設置
 電子カルテシステムの更新（富士通）を行う
 心臓血管外科、呼吸器内科開設（全32科）
 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設として指定を受ける
 320列CTの導入を行う
 「玄界診療所」医師派遣協力病院となる
 ガンマナイフ機器更新
 「日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設」として認定を受ける
 指定自立支援医療機関指定「心臓脈管外科に関する医療」
 タイ「バンコク病院」と提携契約を結ぶ
 DMA Tチーム養成を実施
 血管外科を開設（全33科目）
- 2013年（平成25年） 結石破碎装置更新を行う
 「藤田産婦人科医院」開設
 「Ai撮影参加施設」として認定を受ける
 福岡県へき地医療拠点病院に指定される
 「災害医療」、「へき地医療」の業務を開始
 救急外来改修
 血管造影装置増設を実施
 病院機能評価訪問審査「一般病院 Ver.1.0」として認定を受ける
 病院機能評価付加機能「救急医療機能 Ver.2.0」として認定を受ける
 「日本糖尿病学会認定教育施設」として認定を受ける
- 2014年（平成26年） 病床数239床に増床
 救急ワークステーションを設置する
 「福岡記念クリニック」を開設
 「地域医療支援病院」として承認を受ける
 福岡県DMAT指定医療機関に指定される

2015 年 (平成 27 年)	<p>リニアック棟完成 (鉄筋コンクリート造地下 1 階、地上 5 階建て)</p> <p>管理棟をリハビリ棟へ名称変更を行う</p> <p>リハビリテーション室がリハビリ棟 (旧管理棟) へ移動</p> <p>福岡県肝疾患専門医療機関として指定を受ける</p> <p>通所リハビリテーションを開設</p> <p>国際医療担当室を開設</p> <p>外国人患者受入れ医療機関認証制度 (JMIP) の認証を受ける</p> <p>HCU (高度治療室: High Care Unit) (12 床・6 床) を開設</p> <p>手術室 4 完成 (稼働)</p>
2016 年 (平成 28 年)	<p>肝臓内科、肝臓外科、脊椎・脊髄外科を開設 (全 36 科目)</p> <p>福岡県災害派遣医療チーム (DMAT) を派遣する (熊本地震)</p> <p>「ジャパン インターナショナル ホスピタルズ」に推奨される</p>
2017 年 (平成 29 年)	<p>3.0TMRI 装置導入、稼働開始</p>
2018 年 (平成 30 年)	<p>「下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施施設」に認定</p> <p>社会医療法人大成会理事長、福岡記念病院管理者・施設長に黒田康夫院長就任</p> <p>久留米大学教育関連施設になる</p> <p>一般社団法人日本専門医機構による「福岡記念病院総合診療専門研修プログラム」(プログラム責任者: 太田勇司) の承認</p> <p>「福岡中央総合健診センター」を「福岡記念病院・PET 健診センター」へ名称変更</p> <p>関連 10 学会構成 日本ステントグラフト実施基準管理委員会「腹部大動脈瘤ステントグラフト実施施設」として認定</p> <p>病院機能評価「一般病院 2」Ver.2.0 に更新</p> <p>病院機能評価「救急医療機能 Ver.2.0」を更新</p> <p>外国人患者受入れ医療機関認証制度 (JMIP) を更新</p> <p>福岡県肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業指定医療機関の指定を受ける</p>
2019 年 (平成 31 年) (令和元年)	<p>レクセルガンマナイフ装置の線源交換を行う</p> <p>クライオ装置 (冷凍アブレーション) の導入</p> <p>看護師寮の改修を行う</p> <p>婦人科外来改修</p> <p>乳腺外科・総合診療科・集中治療科を開設</p> <p>地域医療連携室患者相談窓口の改修</p> <p>電子カルテシステムの更新 (富士通) を行う</p>
2020 年 (令和 2 年)	<p>上野高史病院長就任</p> <p>治験管理室を新設</p> <p>日本集中治療医学会専門医研修施設</p>
2021 年 (令和 3 年)	<p>循環器内科外来の改修を行う</p> <p>南館 2 階病棟、南館 5 階病棟の医療ガス配管の増設を行う</p> <p>福岡県新型コロナウイルス感染症重点医療機関の指定を受ける</p> <p>外国人患者受入れ医療機関認証制度 (JMIP) を更新</p> <p>ICU・CCU の改修を行う</p> <p>眼科外来・細菌検査室の改修を行う</p> <p>内科外来診察室の改修を行う</p>

施設の概況

(1) 許可病床数

区分	病床数	病棟数	看護師の配置基準
一般	215 床	5	7 対 1
ICU・CCU	6 床	1	2 対 1
HCU	18 床	2	4 対 1
計	239 床	8	—

(2) 診療各科及びその他部門

- ・ 救急科
- ・ 外科
- ・ 消化器外科
- ・ 大腸・肛門外科
- ・ 肝臓外科
- ・ 呼吸器外科
- ・ 整形外科
- ・ 形成外科
- ・ 脳神経外科
- ・ 心臓血管外科
- ・ 血管外科
- ・ 脊椎・脊髄外科
- ・ 内科
- ・ 脳神経内科
- ・ 循環器内科
- ・ 消化器内科
- ・ 肝臓内科
- ・ リハビリテーション科
- ・ 呼吸器内科
- ・ 感染症内科
- ・ 糖尿病・内分泌内科
- ・ リウマチ科
- ・ 小児科
- ・ 婦人科
- ・ 泌尿器科
- ・ 皮膚科
- ・ 耳鼻咽喉科
- ・ 精神科
- ・ 眼科
- ・ 麻酔科
- ・ 放射線科
- ・ 歯科
- ・ 歯科口腔外科
- ・ 病理診断科
- ・ 臨床検査科
- ・ 乳腺外科
- ・ 放射線科
- ・ 栄養科
- ・ 薬局
- ・ 看護部
- ・ 感染制御部
- ・ 事務部
- ・ 診療情報管理室
- ・ 国際医療担当室
- ・ 臨床工学室
- ・ 地域医療連携室
- ・ 医療安全管理室
- ・ 視能訓練室
- ・ 歯科衛生室
- ・ 栄養サポート室
- ・ 結石破碎センター
- ・ ガンマナイフセンター
- ・ インプラントセンター
- ・ 循環器センター

(3) 定例会議

- ・ 診療連絡会議
- ・ 看護師長会議
- ・ 診療部科長会議
- ・ 医療安全推進会議
- ・ 管理運営会議

(4) 委員会

- ・ 医療安全管理委員会
- ・ 院内感染対策委員会
- ・ クリニカルパス委員会
- ・ 個人情報保護推進委員会
- ・ 診療情報管理委員会
- ・ 褥瘡対策委員会
- ・ 院内教育委員会
- ・ 栄養管理委員会
- ・ NST 委員会
- ・ 地域医療連携委員会
- ・ 医療材料物流委員会
- ・ 衛生管理委員会
- ・ 薬事委員会
- ・ 電子カルテ管理委員会
- ・ 手術室運営委員会
- ・ 輸血委員会
- ・ 診療情報提供委員会
- ・ 医療ガス安全管理委員会
- ・ 倫理委員会
- ・ 治験審査委員会
- ・ 臨床研修管理委員会
- ・ 病床管理委員会
- ・ DPC 委員会
- ・ ICT 委員会
- ・ がん診療委員会
- ・ 臨床検査適正委員会
- ・ 広報サービス委員会

- ・ 救急運営委員会
- ・ 児童等虐待対策委員会
- ・ 情報管理委員会
- ・ 臨床研修小委員会
- ・ 国際医療推進委員会
- ・ 口腔ケア委員会
- ・ 保険診療委員会
- ・ TQM 推進委員会
- ・ ハラスメント防止委員会
- ・ 患者サポート委員会
- ・ 役割分担推進委員会

(5) 施設基準等承認・届出事項

2022年3月現在

【指定】

- ・ 保険医療機関
- ・ 救急告示
- ・ 労災保険
- ・ 生活保護
- ・ 結核医療
- ・ 原爆医療
- ・ DPC 対象病院
- ・ 福岡県災害拠点病院
- ・ へき地医療拠点病院
- ・ 地域医療支援病院
- ・ DMAT 指定医療機関

【研修施設】

- ・ 厚生労働省基幹型臨床研修指定病院
- ・ 厚生労働省臨床修練指定病院
- ・ 日本外科学会専門医制度修練施設
- ・ 日本救急医学会救急科専門医指定施設
- ・ 日本整形外科学会認定医制度研修施設
- ・ 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- ・ 日本内科学会認定制度教育関連施設
- ・ 日本心血管インターベンション治療学会研修施設
- ・ 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設
- ・ 日本眼科学会専門医制度研修施設
- ・ 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
- ・ 日本神経学会専門医制度准教育施設
- ・ 日本感染症学会認定研修施設
- ・ 日本麻酔科学会麻酔科認定病院
- ・ 日本病理学会研修登録施設
- ・ 日本集中治療学会集中治療専門医研修施設

【施設認定・推奨】

- ・ 病院機能評価「一般病院2 救急医療機能」(日本医療機能評価機構)
- ・ 指定自立支援医療機関承認(育成医療・更正医療・精神通院医療)
- ・ 外国人患者受入医療機関(一般財団法人日本医療教育財団)
- ・ ジャパン インターナショナルホスピタルズ(JIH)(一般社団法人 Medical Excellence JAPAN)

【その他】

- ・ 院内感染サーベイランス事業参加(厚労省)
- ・ 病院機能評価拠点病院(全日本病院協会)
- ・ インドネシア人、フィリピン人、ベトナム人看護師候補者受入機関

【施設基準】

- ・ 急性期一般入院基本料1(215床)
- ・ 特定集中治療室管理料1(6床)
- ・ 小児入院医療管理料5
- ・ 重症者等療養環境特別加算(5床)
- ・ 救急医療管理加算
- ・ 診療録管理体制加算1
- ・ 臨床研修病院入院診療加算
- ・ 超急性期脳卒中加算
- ・ 医師事務作業補助体制加算15対1
- ・ 麻酔管理料I
- ・ 無菌製剤処理料
- ・ 心臓カテーテル法による血管内視鏡検査加算
- ・ 心大血管疾患リハビリテーション料(I)
- ・ 開放型病院 共同指導料

- ・ C T撮影及びMR I 撮影
- ・ 冠動脈C T撮影加算
- ・ 心臓MR I 撮影加算
- ・ 画像診断管理加算 2
- ・ 輸血管理料 II
- ・ 入院時食事療養(I)
- ・ 医療機器安全管理料 1
- ・ 神経学的検査
- ・ 脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)
- ・ 運動器リハビリテーション料 (I)
- ・ 呼吸器リハビリテーション料 (I)
- ・ 集団コミュニケーション療法料
- ・ コンタクトレンズ検査料 1
- ・ 大動脈バルーン・パンピング(IABP 法)
- ・ クラウン・ブリッジ維持管理料
- ・ H P V 核酸検出
- ・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
- ・ 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
- ・ 医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 手術
- ・ 入退院支援加算 1
- ・ 医療安全対策加算 1
- ・ 薬剤管理指導料
- ・ 検体検査管理加算 (IV)
- ・ 急性期看護補助体制加算 25 対 1
- ・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
- ・ 感染防止対策加算 1 (感染防止対策地域連携加算)
- ・ がん治療連携指導料
- ・ がん性疼痛緩和指導管理料
- ・ がん患者リハビリテーション料
- ・ がん患者指導管理料イ
- ・ がん患者指導管理料ハ
- ・ 処置の時間外加算 1
- ・ 処置の休日加算 1
- ・ 処置の深夜加算 1
- ・ 手術の時間外加算 1
- ・ 手術の休日加算 1
- ・ 手術の深夜加算 1
- ・ 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
- ・ 胃瘻造設術
- ・ 病棟薬剤業務実施加算 II
- ・ ダメージコントロール手術
- ・ 経皮的冠動脈ステント留置術
- ・ 経皮的中隔心筋焼灼術
- ・ ハイケアユニット入院医療管理料 1 (18 床)
- ・ 呼吸ケアチーム加算
- ・ 磁気による膀胱等刺激法
- ・ 経皮的冠動脈形成術
- ・ 医療機器安全管理料 2
- ・ 患者サポート体制充実加算
- ・ 夜間休日救急搬送医学管理料の注 3 に掲げる救急搬送看護体制加算
- ・ ヘッドアップティルト試験
- ・ データ提出加算 2 イ
- ・ 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
- ・ 病棟薬剤業務実施加算 I
- ・ 院内トリアージ実施料
- ・ 後発医薬品使用体制加算 2
- ・ 地域連携診療計画加算
- ・ 硬膜外自家血注入
- ・ CAD/CAM 冠
- ・ 小児食物アレルギー負荷検査
- ・ 精神疾患診療体制加算
- ・ 内服・点滴誘発試験
- ・ 歯科点数表の初診料の注 1 に規定する施設基準
- ・ 植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術(心筋電極・経静脈電極)
- ・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
- ・ 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極・経静脈電極)
- ・ 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術・交換術(心筋電極・経静脈電極)
- ・ 外来化学療法加算 1
- ・ 患者サポート体制充実加算
- ・ 認知ケア加算
- ・ せん妄ハイリスク患者ケア加算
- ・ 心臓ペースメーカー指導管理料の注 5 に掲げる遠隔モニタリング加算
- ・ 婦人科特定疾患治療管理料
- ・ 後縦靭帯骨化症手術(前方侵入によるもの)
- ・ 椎間板内酵素注入療法
- ・ 体外衝撃波胆石破碎術

(6) 建物の概要

福岡記念病院

本館 構造 鉄筋コンクリート造
規模 地上7階
面積 延 6,454 m²

南館 構造 鉄筋コンクリート造
規模 地下1階、地上5階
面積 延 4,663 m²

リハビリ棟 構造 鉄筋コンクリート造
規模 地上8階
面積 延 2,693 m²

リニアック棟 構造 鉄筋コンクリート造
規模 地下1階、地上5階
面積 延 1,058.24 m²

(7) 配置図

管理部門		8階		
感染制御部 医療安全管理室 診療情報管理室 臨床工学室		7階		栄養科 喫茶・売店
管理部門 国際医療担当室 電子カルテ管理室		6階		病棟（一般）
リハビリテーション室	会議室	5階	病棟（一般）	病棟（一般）
リハビリテーション室	図書室	4階	病棟（一般）	病棟（一般）
		3階	ICU 眼科・耳鼻咽喉科 病理・細菌検査室	手術室 放射線科
講義室		2階	婦人科 化学療法室 病棟（一般）	一般外来 歯科・口腔外科 中央処置室 臨床検査科・内視鏡室
MRI室 無菌製剤室	放射線治療受付 診察室	1階	HCU 結石破碎室	救急外来 薬局 医事課 初診・再診受付 会計 地域医療連携室 防災センター 設備管理課 ATM
	リニアック室	地下1階	カンマナイフセンター RI室 CT室	

【リハビリ棟】

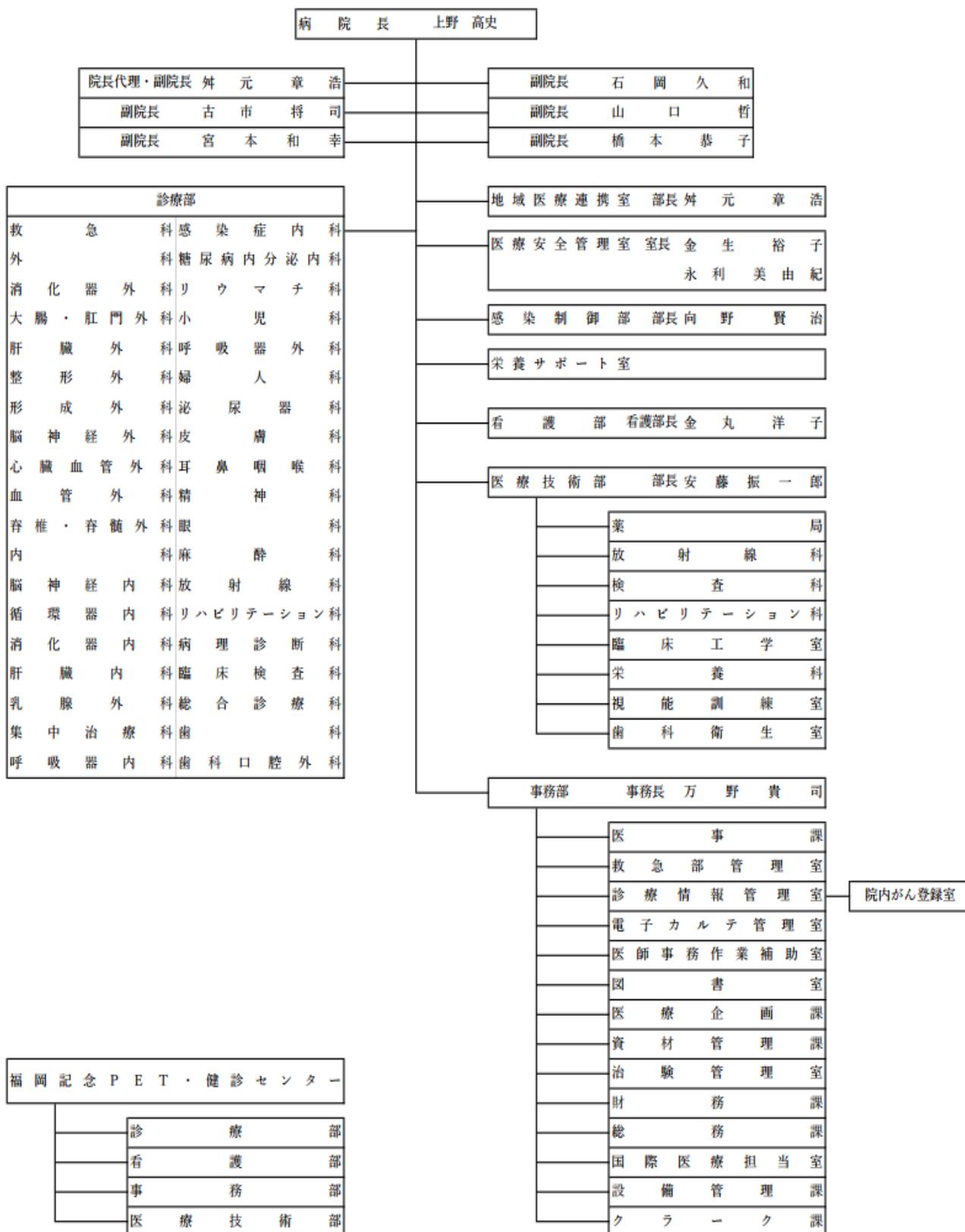
【リニアック棟】

【南館】

【本館】

社会医療法人大成会福岡記念病院組織図

2022年3月現在



病院職員数

福岡記念病院

令和4年3月31日現在

職名	現員	現員内訳	
		職員	非常勤・委託
【診療部門】			
医師	105	52	53
臨床研修医		12	
(放)放射線技師		25	
(病理)臨床検査技師		2	
(細菌)臨床検査技師	2	1	1
(検査)臨床検査技師		12	
(臨工)臨床工学技士		9	
(リハ)理学療法士		25	
(リハ)作業療法士		14	
(リハ)言語聴覚士		5	
(リハ)介護福祉士		1	
(栄養科)管理栄養士		5	
(眼)視能訓練士		2	
(歯)歯科衛生士		2	
(放)事務員		1	
医師事務作業補助者		18	
【看護部】			
看護部長		1	
副看護部長		1	
看護師長		6	
看護師	258	256	2
准看護師		16	
看護補助員	28	26	2
事務員		4	
【薬局】			
薬剤師		22	
事務員	4	2	2

職名	現員	現員内訳	
		職員	非常勤・委託
【地域医療連携室】			
ソーシャルワーカー		7	
事務員		5	
【救急部管理室】			
事務員		4	
【医療安全管理室】			
リスクマネージャー		2	
【感染制御部】			
医師		1	
看護師		2	
【診療情報管理室】			
診療情報管理士		6	
【事務部】			
事務長		1	
(医事課)事務員		23	
(設備)技術職員		3	
(電子カルテ)事務員		2	
(図書室)事務員		1	
【管理部】			
管理部長			
(総務)事務員	18	15	3
(財務)事務員		5	
(資材管理課)事務員		2	
(国際医療担当室)事務員		1	
(クラーク課)事務員		2	
(医療企画課)事務員		1	
(治験管理室)事務員		1	
合計	667	604	63

福岡記念病院 PET・健診センター

職名	現員	現員内訳	
		職員	非常勤・委託
医師	37	2	35
看護師・保健師・准看護師	9	4	5
薬剤師	1	1	
放射線技師	1	1	
臨床検査技師	1		1
事務員	12	7	5
合計	61	15	46

登録医療機関			
			令和4年3月現在
早良区			
施設名	院長名	住所	登録年月日
あきもとこどもクリニック	秋本 馨	早良区高取 1-28-24	2019年4月27日
新井眼科医院	新井 三樹	早良区次郎丸 2-10-43	2012年2月28日
川原クリニック	川原 昭夫	早良区城西 1-5-25	2001年3月29日
案浦クリニック	案浦 康高	早良区原 5-22-13	1998年2月20日
池田整形外科クリニック	池田 正一	早良区有田 7-19-33-1	2019年9月6日
稲村脳神経外科クリニック	稲村 孝紀	早良区西新 4-9-35-2F	2002年1月7日
犬丸医院	犬丸 雅比古	早良区小田部 1-6-5	1998年3月5日
井上内科クリニック	井上 橙爾	早良区田村 7-7-2	2012年2月27日
うめい内科医院	梅井 利彦	早良区昭代 3-5-15	2012年3月5日
大神内科クリニック	大神 信道	早良区高取 1-3-20-204	2014年10月1日
大木整形・リハビリ医院	大木 實	早良区藤崎 1-21-19	1998年2月20日
おおつかクリニック	大塚 誠	早良区次郎丸 2-10-43	2012年2月23日
岡田こどもクリニック	岡田 象二郎	早良区藤崎 2-11-35	2014年6月3日
おがた整形外科医院	緒方 孝俊	早良区原 7-4-18	2002年6月3日
おばた内科クリニック	尾畑 十善	早良区田村 5-16-38	2016年9月9日
加来内科・消化器科医院	加来 数馬	早良区小田部 4-19-5	2001年11月17日
香月医院	香月 祐介	早良区有田 5-1-30	1998年3月6日
かわの医院	河野 博巳	早良区荒江 2-9-13-2F	1998年3月2日
賀茂クリニック	松嶋 哲哉	早良区賀茂 4-28-1	2012年2月27日
北口内科消化器科医院	北口 安芳	早良区田隈 2-34-18	2009年7月9日
北島内科医院	北島 和彦	早良区原 1-6-5	2001年3月29日
草野医院	草野 忠良	早良区野芥 3-14-5	2016年7月6日
黒田整形外科医院	黒田 康二	早良区次郎丸 5-6-1	2006年5月9日
上月内科医院	上月 武志	早良区荒江 3-15-21	2012年2月29日
こたべ整形外科クリニック	溝上 浩士	早良区小田部 5-7-7-101	2019年8月5日
ざいつ循環器・内科	賤津 龍二	早良区飯倉 7-29-15-2F	2019年9月24日
さかうえ内科循環器科クリニック	坂上 明彦	早良区藤崎 1-1-47-2F	1998年3月6日
ささき内科・糖尿病クリニック	佐々木 修二	早良区西新 5-15-13	2019年4月19日
佐藤皮膚科医院	佐藤 一郎	早良区西新 5-1-32	2019年9月10日
さわらぐち胃腸肛門クリニック	中川 元典	早良区藤崎 1-24-19	2019年3月14日
三恵外科医院	加藤 眞理	早良区城西 2-6-21	2012年3月5日
重松クリニック	重松 勝	早良区百道 1-1-4	2001年11月21日
しばおクリニック	芝尾 敬吾	早良区百道浜 4-13-4	1998年3月2日
生野リウマチクリニック	生野 英祐	早良区西新 1-10-27-1F	2011年7月11日
白石整形外科医院	白石 光一	早良区田村 4-28-26	2019年9月13日
城谷内科医院	城谷 拓郎	早良区西新 4-8-28	2012年3月8日
菅医院	菅 康三	早良区四箇 6-14-5	1998年2月24日
すこやかクリニック	荻本 裕子	早良区百道 1-25-10	2004年10月18日
そう内科医院	曾 俊光	早良区賀茂 2-26-18	2019年8月1日
高木胃腸科内科医院	高木 孝輔	早良区高取 1-1-53	1998年2月20日
高取レディースクリニック	重松 敏之	早良区高取 1-3-20-203	2016年1月26日
高橋内科循環器科クリニック	高橋 啓美	早良区原 5-2-2-2F	2020年3月24日
高橋脳神経外科	高橋 禎彦	早良区飯倉 7-1-7	2002年11月26日
田北メモリーメンタルクリニック	田北 昌史	早良区室見 5-13-8	2012年2月29日

施設名	院長名	住所	登録年月日
武石クリニック	武石 卓	早良区西新 1-4-28	2021年1月28日
たけいち内科胃腸クリニック	武市 昌郎	早良区室見 2-15-27-1F	2016年12月7日
武田内科	武田 大輔	早良区室見 1-10-8	2019年4月18日
田中じゅんこ乳腺クリニック	田中 句子	早良区西新 4-9-35-6F	2019年4月6日
谷皮膚科医院	谷 淳二郎	早良区西新 3-2-3-2F	1998年2月19日
つかもと内科	塚本 雅俊	早良区飯倉 3-31-14	2019年4月12日
つじ耳鼻咽喉科クリニック	辻 剛二	早良区飯倉 7-3-7	2019年7月23日
つづきクリニック	都築 克幸	早良区原 4-4-15	2012年3月2日
土器医院	土器 辰雄	早良区田村 6-7-16	2019年6月27日
なかしま内科	中嶋 寿	早良区野芥 4-2-16	2019年11月28日
中手内科クリニック	中手 悟	早良区西新 4-3-22-2F	1998年2月19日
中村医院	中村 尚徳	早良区内野 2-20-10	1998年2月25日
なかよし眼科クリニック	仲吉 則雄	早良区野芥 7-19-35	1998年2月19日
なもと内科・胃腸クリニック	名本 真章	早良区南庄 5-11-15	2019年9月30日
なら林内科・循環器科医院	檜林 英樹	早良区小田部 1-13-7	2011年12月5日
南條内科・胃腸科クリニック	南條 環	早良区野芥 7-17-21	2001年12月7日
長澤医院	長澤 一成	早良区飯倉 5-15-34	1998年3月6日
西耳鼻咽喉科医院	西 憲一郎	早良区南庄 2-13-12	2019年8月20日
西新クリニック	山村 晋史	早良区西新 5-15-20	—
西内科医院	西 秀博	早良区原 3-8-23	2002年4月1日
にのさかクリニック	二ノ坂 保喜	早良区野芥 4-19-34	1998年2月20日
脳神経外科 クリニック高木	高木 忠博	早良区弥生 1-4-8	2001年11月16日
畑間内科クリニック	畑間 繁樹	早良区荒江 2-6-11	2012年3月6日
八田内科医院	八田 喜弘	早良区小田部 4-7-13	2001年11月20日
浜本整形外科医院	浜本 尚志	早良区東入部 1-3-33	2003年2月24日
疋田眼科医院	疋田 春夫	早良区西新 5-1-37	1998年2月23日
日吉内科消化器科医院	日吉 雄一	早良区有田 2-14-30	2019年9月19日
平野内科消化器科医院	平野 基	早良区曙 2-1-7	2001年12月22日
廣橋クリニック	中本 浩史	早良区東入部 6-15-9	2012年2月28日
フカガワクリニック	深川 康裕	早良区西新 2-7-8	2019年4月4日
福田心臓血管クリニック	福田 裕次郎	早良区西新 4-9-35	2019年5月29日
ふじい耳鼻咽喉科クリニック	藤井 加奈子	早良区藤崎 1-1-32-3F	2019年6月15日
藤崎メディカルクリニック	佐藤 真也	早良区藤崎 1-1-32	2019年6月11日
フジタ内科消化器科医院	藤田 晃一	早良区原 7-4-7	1998年4月16日
ふじもとクリニック	藤本 将史	早良区昭代 3-5-20	2018年2月24日
干隈すみれ内科クリニック	須貝 真生	早良区千隈 5-30-5	1998年3月5日
本多耳鼻咽喉科医院	本多 一至	早良区西新 5-1-33	2019年4月22日
まつおクリニック	松尾 勝一	早良区原 5-3-6	2013年9月26日
松口整形外科クリニック	松口 信行	早良区西新 4-9-35-3F	1998年2月23日
松田内科クリニック	松田 拓二	早良区早良 2-22-7-1	2019年9月11日
三松眼科医院	三松 栄之	早良区野芥 2-3-5	2019年4月2日
みまつ小児科皮膚科医院	三松 高一	早良区野芥 2-3-5	2019年4月2日
宮脇クリニック	宮脇 仁	早良区小田部 4-4-1	1998年3月5日
迎医院	迎 利彦	早良区南庄 2-17-7	1998年3月6日
牟田口整形外科医院	牟田口 啓介	早良区四箇 1-6-1	2006年8月7日
室見クリニック	樋口 恒夫	早良区室見 1-12-1	2012年2月23日
ももち浜クリニックTNC放送会館在	吉田 利香	早良区百道浜 2-3-2-2F	2019年10月31日
武石クリニック	武石 卓	早良区西新 1-4-28	2021年1月28日
たけいち内科胃腸クリニック	武市 昌郎	早良区室見 2-15-27-1F	2016年12月7日

施設名	院長名	住所	登録年月日
森口脳神経外科クリニック	森口 政嗣	早良区梅林 7-2-15	2019年11月15日
やすだクリニック	安田 修	早良区次郎丸 3-22-8	2020年12月14日
やすなが内科クリニック	安永 芳樹	早良区飯倉 4-8-5-2	2019年7月23日
やまうちクリニック	山内 俊彦	早良区重留 7-18-1	2019年7月9日
やまさき小児科	山崎 靖人	早良区重留 7-18-2	2019年11月18日
やまさき脳神経・内科クリニック	山崎 賢智	早良区次郎丸 4-9-10	2019年9月6日
やら整形外科	屋良 貴宏	早良区東入部 6-26-4	2019年7月10日
吉住内科医院	吉住 尚志	早良区原 6-29-10	1998年3月6日
ようこ皮ふ科	河野 容子	早良区小田部 3-17-23	2019年12月26日
よしだクリニック	吉田 正裕	早良区賀茂 4-28-19	2012年3月1日

中央区

施設名	院長名	住所	登録年月日
阿部医院	古賀 光	中央区今川 1-2-6	1998年2月18日
有村内科クリニック	有村 勝彦	中央区荒戸 1-5-28	2012年3月6日
胃腸科藤クリニック	藤 洋吐	中央区天神 3-4-8-5F	1998年3月19日
入江内科医院	入江 信行	中央区大名 2-4-22-2F	1998年3月3日
うえむら痛みのクリニック	上村 裕平	中央区六本松 2-3-6-3F	2019年8月22日
うめした内科クリニック	梅下 滋人	中央区荒戸 3-10-11-1F	2019年7月18日
大濠こどもクリニック	牛ノ濱 大也	中央区大濠 1-3-5-2F	2019年4月16日
大濠内科	井上 晃太	中央区大濠 2-13-39	2021年8月11日
大濠パーククリニック	八谷 俊朗	中央区大濠公園 2-35-2F	2019年10月9日
かきうち耳鼻咽喉科クリニック	垣内 康徳	中央区地行 4-18-21-2F	2019年4月15日
かきうち小児科	垣内 辰雄	中央区地行 4-18-21-3F	2019年5月2日
萱島外科	萱島 孝二	中央区荒戸 2-2-40	1998年3月7日
川崎胃腸科・内科クリニック	川崎 真澄	中央区赤坂 2-6-1	2014年12月9日
川嶋医院	川嶋 恒典	中央区清川 2-12-29	1998年2月19日
木村眼科クリニック	木村 一賢	中央区赤坂 1-10-23-2F	1998年3月6日
香江医院	香江 篤	中央区唐人町 1-12-12	1998年2月20日
御所ヶ谷ホームクリニック	田中 耕太郎	中央区舞鶴 1-6-1-2F	2019年10月24日
後藤整形外科医院	後藤 徳雄	中央区鳥飼 1-5-45-1F	1998年2月18日
権藤内科医院	権藤 公和	中央区今泉 2-5-24	1998年3月3日
桜坂内科循環器科	松吉 哲二	中央区警固 3-6-1	2019年11月5日
ししめ内科医院	志々目 光宏	中央区梅光園 1-3-7	1998年2月24日
島松循環器内科クリニック	島松 昌由	中央区六本松 2-8-2-1F	2019年4月16日
しまだ内科・循環器クリニック	嶋田 寿文	中央区六本松 4-2-2-2F	2019年4月16日
たかお整形外科	高尾 恒彰	中央区地行 3-1-24	2021年6月17日
武田医院	武田 良一	中央区梅光園 1-2-6	1998年2月25日
たけとみクリニック	武富 賢治	中央区輝国 2-11-13-102	2012年2月28日
たのうえメンタルクリニック	田上 伸興	中央区六本松 4-11-26	2002年4月1日
中央歯科・口腔外科クリニック	下田 恒久	中央区大名 2-8-1-4F	2005年6月1日
つのだ泌尿器科クリニック	角田 雄一	中央区笹丘 1-10-21	2019年9月24日
天神駅前まめクリニック	石川 雅俊	中央区天神 2-2-12-5F	2021年1月21日
天神頭痛クリニック	吉岡 進	中央区天神 2-14-13-1F	2019年7月23日
天神皮ふ科	松尾 眞二郎	中央区天神 2-4-20-3F	2019年10月24日
糖尿病ケアクリニック六本松	大久保 賢	中央区谷 1-9-19-2F	2019年5月30日
とみた内科クリニック	富田 直史	中央区小笹 4-4-5	2018年4月1日
とよしまファミリークリニック	豊島 元	中央区六本松 4-8-15	2012年4月6日
中垣内科小児科医院	中垣 健	中央区今川 1-24-27	1998年2月18日

施設名	院長名	住所	登録年月日
なごみ泌尿器科クリニック	御厨 学	中央区黒門 2-31-2F	2014年11月10日
梅光園 田中たもつクリニック	田中 保	中央区梅光園 2-7-6	2009年4月28日
畠山内科胃腸科クリニック	畠山 定宗	中央区桜坂 1-3-31	2019年10月21日
皮膚科・形成外科和田クリニック	和田 秀敏	中央区荒戸 1-6-10	1998年3月3日
平田内科胃腸科クリニック	平田 泰彦	中央区鳥飼 1-5-45-1F	1998年2月18日
ひろた内科クリニック	広田 雄一	中央区荒戸 2-4-14	2012年2月29日
福岡みなと在宅医療クリニック	中堀 亮一	中央区黒門 9-17	2019年4月16日
ふくだ内科	福田 敏郎	中央区赤坂 2-2-45	2019年6月26日
福浜中央クリニック	神殿 哲	中央区福浜 2-1-3	2010年8月10日
ふくろのクリニック	袋野 和義	中央区草香江 1-8-39	2019年4月15日
藤見胃腸科内科医院	藤見 是	中央区今川 2-1-15	1998年2月23日
ふなこし内科・循環器内科	舩越 元	中央区笹丘 1-4-12	2015年9月7日
別府外科医院	別府 健二	中央区平尾 2-3-14	1998年2月19日
まいづる内科クリニック	中村 東樹	中央区舞鶴 3-2-1-2F	2014年6月6日
まち神経内科クリニック	町 ミチ	中央区唐人町 1-5-1 3F	2014年1月31日
松本整形外科医院	松本 光司	中央区笹丘 1-34-2	2019年8月2日
みなと内科クリニック	大塚 大河	中央区長浜 3-11-3-2F	2019年9月26日
宮城脳神経外科クリニック	宮城 潤	中央区今泉 2-5-25	2012年3月6日
三宅内科クリニック	三宅 恒徳	中央区薬院 2-5-15	2010年9月17日
村山内科・胃腸科	村山 通秋	中央区天神 2-4-20-2F	2019年10月24日
森田クリニック	伊原 喜子	中央区大手門 1-4-21-2F	2019年10月9日
もろくまクリニック	諸隈 中	中央区梅光園 3-4-1	2012年3月1日
山田内科クリニック	山田 晋	中央区赤坂 1-10-23-5F	1998年3月3日
山本内科胃腸科クリニック	山本 勉	中央区小笹 3-11-1	2020年2月20日
吉田耳鼻咽喉科	吉田 申一	中央区赤坂 1-12-8	2012年3月13日
六本松漢方内科	久保田 正樹	中央区六本松 2-3-6-2F	2019年8月9日
六本松通りクリニック	前田 充秀	中央区草香江 2-1-6	2019年9月9日
六本松ひとみ泌尿器科	中村 仁美	中央区六本松 2-3-6-3F	2019年5月25日
六本松皮ふ科	下津浦 耕士	中央区六本松 4-2-2-2F	2019年10月11日
なごみ泌尿器科クリニック	御厨 学	中央区黒門 2-31-2F	2014年11月10日

城南区

施設名	院長名	住所	登録年月日
明石内科医院	明石 昌幸	城南区鳥飼 5-19-12	1998年2月24日
あらせ内科	守永 晋	城南区梅林 1-19-3-1F	2019年7月9日
いこいの森クリニック	橋口 庸	城南区東油山 6-19-23	2001年11月17日
石橋医院	石橋 慧史	城南区樋井川 1-24-26	1998年2月24日
内田こどもクリニック	内田 智子	城南区別府 1-21-21	2012年3月9日
江下内科クリニック	江下 明彦	城南区樋井川 1-6-26	1998年2月24日
尾野医院	尾野 健一	城南区七隈 4-3-8	2019年7月29日
かとうクリニック	加藤 功	城南区鳥飼 5-4-12	2019年4月17日
金谷内科クリニック	金谷 英樹	城南区荒江 1-25-10-101	1998年2月20日
かわなみ内科	川浪 憲一	城南区長尾 3-27-1	2019年12月23日
かわもと胃腸内科クリニック	川元 健二	城南区別府 3-2-33	2019年12月9日
くまの整形外科 スポーツ&肩クリニ	熊野 貴史	城南区南片江 1-29-25	2019年8月20日
在宅療養支援クリニック ここはる	新田 壮平	城南区南片江 2-8-6	2020年6月1日
さかい内科循環器クリニック	酒井 博	城南区長尾 1-13-23-1	1998年2月24日
しげた消化器科・外科医院	繁田 公志	城南区長尾 1-19-1	2019年8月6日
しんどう小児科医院	進藤 静生	城南区神松寺 3-22-28	2019年9月4日

施設名	院長名	住所	登録年月日
進藤整形外科クリニック	進藤 隆康	城南区茶山 5-2-6	1998年2月25日
すがお内科クリニック	菅尾 頼明	城南区七隈 4-11-3	2019年6月25日
杉田脳神経外科クリニック	杉田 俊介	城南区神松寺 2-12-6	1998年2月24日
鈴木内科医院	鈴木 続久	城南区堤 2-11-16	2012年2月28日
瀬戸循環器内科クリニック	瀬戸 拓	城南区梅林 2-27-13	2011年9月9日
だい小児科内科医院	臺 俊一	城南区別府 2-20-46-101	1998年2月25日
高宮外科内科医院	松本 朗	城南区樋井川 6-15-1	2019年9月25日
田中宏明・内科胃腸科クリニック	田中 宏明	城南区片江 4-1-6	1998年2月20日
トータルケアやまさきクリニック	山崎 繁通	城南区茶山 4-14-15	2019年5月10日
内藤胃腸科外科クリニック	内藤 英明	城南区別府 7-7-30	1998年2月25日
なかむら整形外科	中村 和史	城南区長尾 1-19-7	2019年7月10日
にしのクリニック	西野 雅博	城南区別府 4-1-25	2019年10月15日
のみやま整形外科クリニック	野見山 宏	城南区長尾 5-28-19	2019年9月24日
英内科クリニック	田中 英明	城南区茶山 2-15-1	2019年9月12日
原クリニック	原 裕介	城南区梅林 4-21-23	2019年9月4日
平川耳鼻咽喉科クリニック	平川 直也	城南区堤 1-1-1	2019年9月24日
ほりた内科・透析クリニック	堀田 義雄	城南区茶山 1-6-1-1F	2019年11月15日
堀之内胃腸科内科医院	古川 尚志	城南区東油山 2-3-7	2019年2月28日
松山診療所	瓦 隆	城南区松山 2-8-5	2010年1月12日
もとむらクリニック	本村 明	城南区干隈 2-8-28	2009年4月8日
やまぐち整形外科	山口 幸二	城南区別府 2-16-21	2019年8月6日
横山内科医院	横山 俊宏	城南区田島 4-22-40	2019年4月20日
りょうすけ内科外科	山口 良介	城南区樋井川 2-9-15	2020年3月9日

西区

施設名	院長名	住所	登録年月日
青木内科循環器科小児科クリニック	青木 真	西区姪の浜 4-9-12	1998年10月21日
阿南クリニック	阿南 健	西区愛宕浜 4-1-20	2003年2月25日
アーバンハートクリニック	渋井 俊之	西区今宿西 1-30-26	2019年7月23日
池田内科呼吸器科医院	池田 昭仁	西区姪の浜 3-39-6	2019年9月13日
井上さとし内科	井上 聡	西区戸切 2-18-2	2020年11月25日
今村内科循環器科クリニック	今村 光秀	西区拾六町 5-18-21	2019年9月30日
大内医院	大内 二郎	西区横浜 1-19-1	2019年2月25日
緒方内科医院	緒方 秀昭	西区橋本 2-17-31	2019年8月7日
おかべ耳鼻咽喉科	岡部 洋平	西区野方 1-4-7-1	2019年12月6日
岡村内科クリニック	岡村 秀樹	西区下山門 3-1-9	2010年8月3日
おにき内科クリニック	鬼木 秀幸	西区拾六町 1-3-16	2021年8月4日
学研都市クリニック	山本 博昭	西区大字徳永 1071-1	2012年2月27日
かつの整形外科リハビリテーション科	勝野 雷二郎	西区福重 4-7-6-2F	2017年6月26日
北野クリニック	北野 亀三郎	西区姪浜駅南 2-19-16	2019年8月20日
上山門クリニック	瀬戸山 浩	西区上山門 2-2-22	2016年10月26日
岸田内科医院	岸田 猛	西区姪浜駅南 2-19-22	1998年9月17日
きむらしろうクリニック	木村 史郎	西区福重 5-19-8	2020年5月7日
國崎真クリニック	國崎 真	西区今宿駅前 1-7-6	2012年3月13日
久保田クリニック	久保田 晃	西区大字小田字中間 51-1	2020年3月18日
佐野内科胃腸科医院	佐野 栄二郎	西区周船寺 1-8-39	2019年9月10日
猿田皮膚科医院	猿田 泰夫	西区壱岐団地 136-9	1998年3月2日
せんばクリニック	仙波 垂水	西区十六町団地 1-25	2019年11月12日
高松ひろこ皮フ科	高松 紘子	西区愛宕 4-13-5	2019年7月22日

施設名	院長名	住所	登録年月日
たけのしたクリニック	竹之下 博正	西区愛宕 4-13-4	2019年4月27日
ときつ医院	野村 明彦	西区内浜 2-6-7	2012年3月2日
中村クリニック	中村 秀治	西区豊浜 1-2-12	2019年6月11日
西の丘 平尾クリニック	平尾 隆	西区西の丘 2-1-1	2009年10月21日
はしぐち脳神経クリニック	橋口 公章	西区愛宕 4-14-19	2019年5月14日
ひとみの眼科	高野 豊久	西区愛宕 4-13-3	2019年5月14日
ひらやま内科クリニック	平山 裕介	西区福重 4-7-6-3F	2017年6月26日
ふかほり整形外科クリニック	深堀 雄蔵	西区拾六町 5-16-11	2019年5月27日
二田哲博クリニック姪浜	二田 哲博	西区姪浜駅南 1-2-17	2001年11月8日
福重たしろ整形外科	田代 茂義	西区福重 1-6-18	2019年8月6日
前田ごう整形外科	前田 剛	西区姪浜駅南 3-15-18	2019年10月8日
まつお内科クリニック	金沢 文高	西区上山門 1-22-5	1998年3月3日
松口胃腸科・外科医院	松口 幸邦	西区野方 1-26-12	2019年8月19日
松本内科胃腸科	松本 新一	西区姪浜駅南 1-4-1	1998年2月19日
まなべ整形外科クリニック	真鍋 尚至	西区愛宕 4-14-22	2019年5月14日
まるもと脳神経外科クリニック	丸本 朋稔	西区周船寺 1-5-25	2019年9月10日
皆川外科医院	皆川 博美	西区姪の浜 4-2-21	1998年2月20日
三宅クリニック	三宅 恵一	西区姪の浜 4-2-1	1998年2月20日
めいのはま白翠内科クリニック	武田 洋子	西区姪の浜 4-14-30	2009年10月10日
もとやま小児科クリニック	元山 浩貴	西区姪浜駅南 2-31-2	2015年2月20日
矢野耳鼻咽喉科	矢野 玄	西区姪浜駅南 2-1-34	2019年6月4日
やまだクリニック	山田 勝博	西区姪浜駅南 2-1-37-3F	2019年10月16日
やまもと内科	山本 智彦	西区今宿 3-6-2	2022年6月1日
吉永産婦人科医院	吉永 公典	西区下山門 4-14-26	1998年2月20日
ゆう内科クリニック	兪 孝一	西区野方 1-20-10	2019年7月29日
りゅう・たけだクリニック	武田 韻論	西区野方 6-26-6	2019年7月29日

南区

施設名	院長名	住所	登録年月日
大山小児科医院	橋本 信男	南区大橋 4-24-40	1998年2月25日
如月福岡クリニック	福嶋 敬愛	南区大楠 1-32-14	2019年4月19日
こうだ内科クリニック	幸田 忠裕	南区三宅 2-10-31	2012年3月7日
しばた内科クリニック	柴田 恵介	南区花畑 2-32-18	2020年2月6日
とじたま甲状腺・糖尿病クリニック	玉井 秀一	南区大橋 1-9-15-2F	2021年7月12日
長住医院	漢 幸太郎	南区長住 2-15-15	2019年9月17日
ふくだ内科循環器・糖尿病内科	福田 佑介	南区長住 2-1-11	2019年9月17日
みはら整形外科	三原 隆	南区長住 4-1-4	2019年12月18日
みやにし整形外科リウマチ科	宮西 圭太	南区桧原 3-13-17	2019年9月12日
ラ・グランメール すどうクリニック	首藤 孝夫	南区大橋 1-4-10-2F	1998年2月25日

博多区

施設名	院長名	住所	登録年月日
かなみやクリニック	金宮 八重子	博多区博多駅南 1-3-11-1F	2015年2月5日
ごんどう外科胃腸科クリニック	権藤 寿昭	博多区東雲町 2-1-18	1998年2月19日
つつみクリニック福岡	堤 光太郎	博多区店屋町 1-31	2019年5月24日
野田医院	野田 淳子	博多区千代 3-3-9	1998年3月4日
のむら内科・神経内科クリニック	野村 拓夫	博多区博多駅中央街 1-1-5F	2019年11月18日
博多駅東クリニック	山本 宗満	博多区博多駅東 1-13-9-2F	2006年4月6日

ひまわりホームクリニック	工藤 啓介	博多区千代 1-1-55	2016年3月14日
施設名	院長名	住所	登録年月日
福岡メディカルクリニック	内藤 恵子	博多区店屋町 6-18-5F	2019年5月23日
ふるかわ内科クリニック	古川 敬一	博多区板付 3-14-5	2022年6月27日
昌樹医院	川原 雅樹	博多区上川端町 5-117-2F	—

東区

施設名	院長名	住所	登録年月日
上田内科クリニック	上田 美恵子	東区雁の巣 1-4-7	2007年11月30日

糸島市

施設名	院長名	住所	登録年月日
伊都クリニック	大島 章	糸島市波多江 265-1	2012年2月27日
さくらのクリニック	鷺坂 英輝	糸島市志摩桜井 2435-17	2017年1月18日
田中耳鼻咽喉科クリニック	田中 資介	糸島市波多江南 2-1-20	2019年7月24日
筒井内科医院	筒井 隆一	糸島市波多江駅北 1-8-16	2019年11月28日
ひづめ内科	樋詰 貴登志	糸島市浦志 2-2-1	2018年12月1日
フクヨ内科医院	福與 健介	糸島市高田 4-24-1	2019年6月27日
まさき循環器科内科クリニック	眞崎 浩行	糸島市前原 1018-3	2019年1月21日
しばの循環器クリニック	芝野 竜一	糸島市波多江駅北 3-18-18	2020年1月16日

活動報告

診療科

救急科

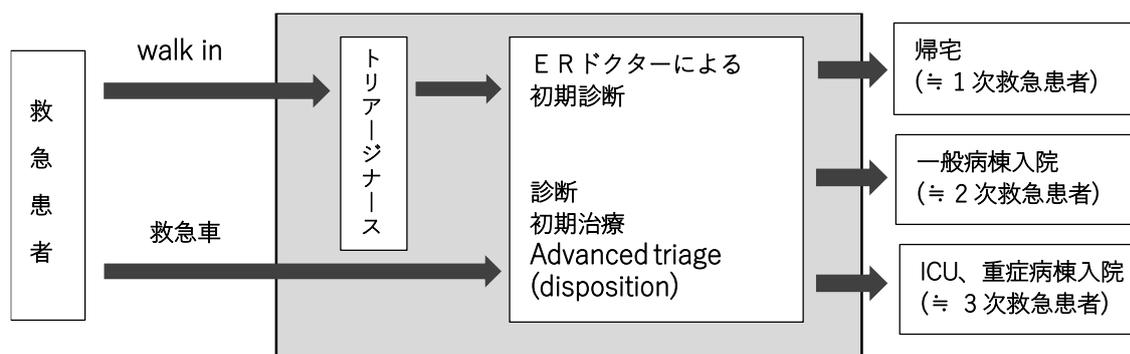
1. スタッフ

副院長 救急科部長
常勤医

山口 哲 [DMAT (災害時派遣医療チーム) 隊員]
東 貴寛 [日本本救急医学会専門医 日本外科学会専門医 日本消化器外科
学会専門医] 令和4年3月退職

2. 活動報告

ER 型救急システムは、北米の ER (救急外来) で行われている救急医療システムです。①すべての救急患者 (1 次~2.5 次まで) を断ることなく受け入れる。②ER で初期診療を行い、入院患者や手術には関与しない。③初期診療とは診断・初期治療・Advanced Triage を意味する、を満たしたものです。下図のように救急車や Walk in で来院した救急患者を ER ドクターが診療するシステムです。



当院では、ER で入院が必要と判断した場合は、各科が責任をもって患者さんを引き継ぎ、専門的な医療を提供しています。また 2015 年 4 月からは看護部も救急外来としての看護部門が外来から独立して、ER 型救急システムがより充実してきています。ER 型救急システムの充実により、全ての救急患者を受け入れ、「断らない医療」を実践していきたいと考えています。

3. 救急車搬送件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
2019年	540	403	511	484	487	463	444	535	463	439	449	472	5,690	474.2
2020年	443	444	353	29	110	314	358	480	457	415	445	440	4,288	357.3
2021年	411	439	443	465	475	427	513	568	495	493	485	509	5,723	476.9
平均	464.7	428.7	435.7	326.0	357.3	401.3	438.3	527.7	471.7	449.0	459.7	473.7	5233.7	

総合診療科

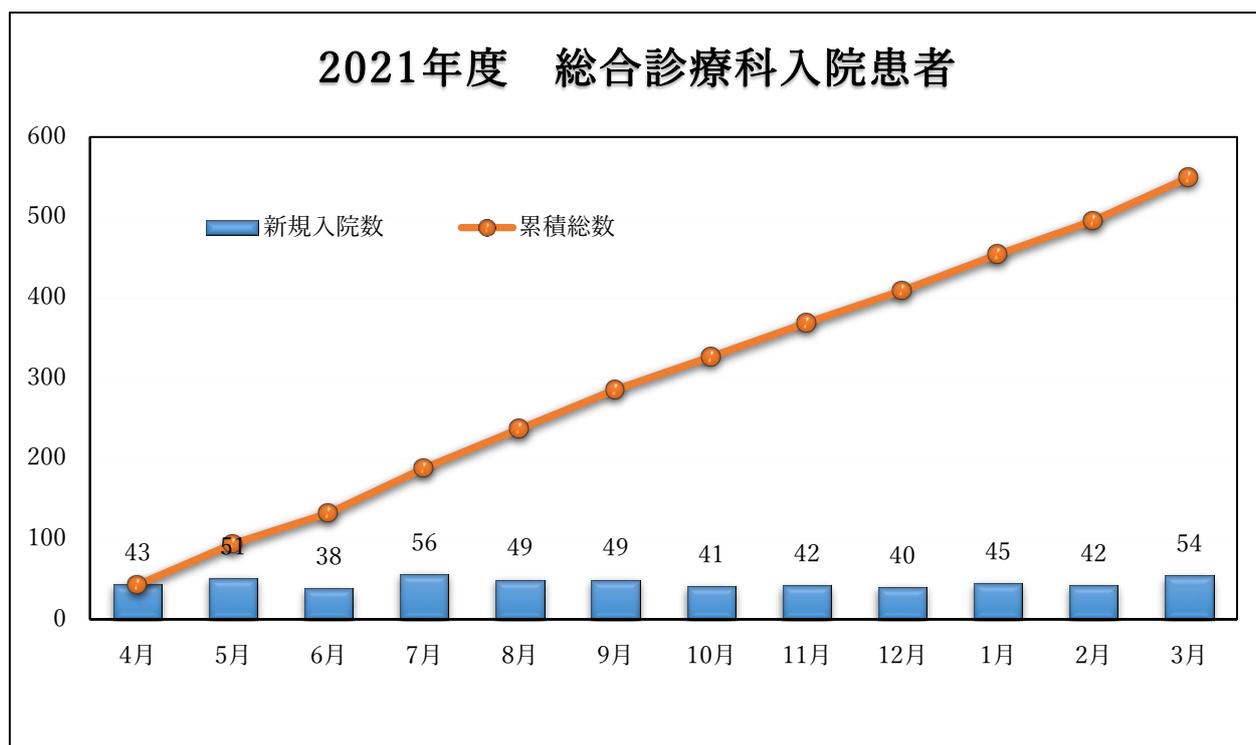
1. スタッフ

総合診療科部長	太田 勇司	[日本外科学会専門医 日本内視鏡学会指導医 日本消化器外科学会専門医・指導医 消化器がん外科治療認定医 日本気管食道学会専門医 日本大腸肛門病学会専門医・指導医 福岡県医師会認定総合医]
総合診療科部長	茂木 恒俊	[日本プライマリ・ケア学会専門医・指導医 日本内科学会総合内科専門医・指導医 京都大学小児科学非常勤講師] 令和3年4月入職
常勤医	後藤 仁典	令和3年4月入職
常勤医	鶴 将司	令和4年4月入職
常勤医	平田 慎治	令和4年4月入職
常勤医	小楠 美帆	令和4年4月入職

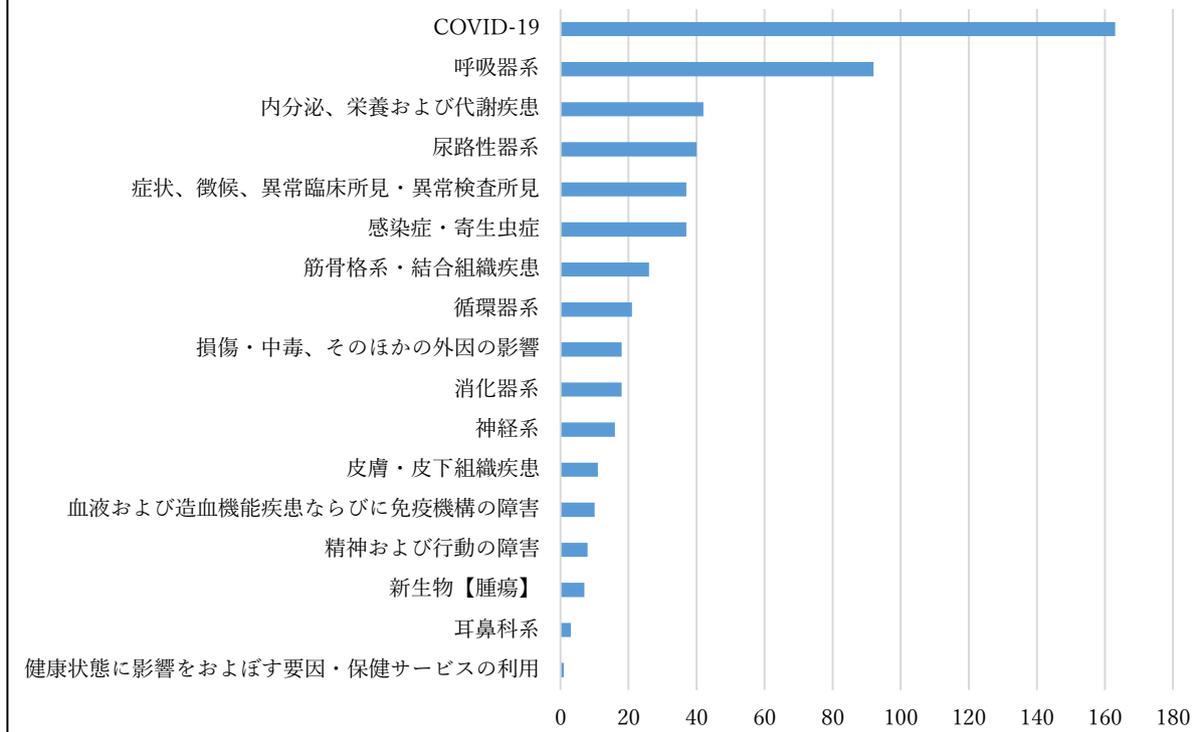
2. 活動報告

令和3年度は、スタッフが2名増えました。令和2年度に引き続き、コロナ患者の治療に積極的に関わって参りました。その他にも救急、外来、入院業務にあたり、入院数および入院時の病名（ICD-10）は以下のグラフに示す通り、総合診療科の強みを生かし、多様な病態の患者様を受け入れる努力をしております。その結果、令和3年度は月平均45名、総数550名の入院患者様の担当をいたしました。周辺クリニックからの紹介が増え、必要に応じて他診療科や高次機能病院へ紹介し、患者様が最適な医療を受けられるように、地域医療資源の有効な活用を心がけております。今後も引き続き、患者様中心の医療を提供できるように務めて参ります。「どの診療科を受診したらよいのか分からない」ときは、どうぞご利用ください。今後もよろしくお願い申し上げます。

3. 診療実績（入院）



2021/4/1-2022/3/31入院時主病名



外科・消化器外科・大腸肛門外科 肝臓外科・呼吸器外科

1. スタッフ

診療部長	城戸 英希	[日本外科学会専門医 日本消化器外科学会認定医 日本医師会認定産業医 福岡県医師会認定総合医] 令和4年5月退職
外科部長	長谷場 仁俊	[日本外科学会専門医]
外科部長	御鍵 和弘	[日本外科学会専門医]
外科部長	芝原 幸太郎	[日本外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会専門医・指導医 日本臨床腫瘍学会暫定指導医 消化器がん外科治療認定医 がん治療認定医 緩和ケア研修会修了]
外科部長	土井 篤	[日本外科学会専門医]

2. 活動報告

令和3年度外科業績を報告いたします。ウイズコロナの状況下、外科の手術症例は前年度後半から徐々に増加傾向となり、概ね例年通りに戻ったという感じでした。手術件数は321件でした。症例を個別に見てみますと胆石・胆嚢炎が最も多く、腹腔鏡下胆嚢摘出術52例、開腹胆嚢摘出術4例でした。虫垂切除は44例（2例のみ開腹手術）、大腸癌根治手術は36例（23例が腹腔鏡下手術）に行いました。イレウス解除や小腸切除が28例、鼠径ヘルニア19例、消化管穿孔に対する手術は上部6例・下部9例、他胃癌6例、肝切除2例、その他のヘルニア（腹壁癒痕ヘルニアなど）が計6例という順になっております。また、総胆管結石・胆管炎症例に対する、ERCP施行数は137件でした。その他には、CVポート造設5例、腹水濾過濃縮再静注法（CART）20件なども行いました。

救急当直におきましては、外科医が一ヶ月の3分の1程を担当させていただいており、地域医療支援病院の使命感の下、一層の地域貢献を目指します。

外科一同、今後も精進して参りますので何卒よろしくお願い申し上げます。

3. 診療実績

区分	術式	件数	区分	術式	件数
食道・胃・十二指腸	胃・十二指腸穿孔縫合術	6	小腸・大腸・直腸	腸閉塞解除術(内視鏡下2例)	20
	胃全摘術(悪性腫瘍)(腹腔鏡1例)	2		小腸切除術(悪性腫瘍以外)	6
	胃切除(悪性腫瘍)(腹腔鏡1例)	4		小腸切除術(悪性腫瘍)	2
肝臓・脾臓・膵臓	肝切除術(悪性腫瘍)	2		虫垂切除術	2
				腹腔鏡下虫垂切除術	42
胆嚢・胆道	内視鏡的胆道ステント留置術、乳糖切開術、破石術	137		結腸切除術(悪性腫瘍)	9
	腹腔鏡下胆嚢摘出術	52		腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	10
	胆嚢摘出術	4		人工肛門閉鎖術	1
	胆嚢悪性腫瘍術	1		ハルトマン手術(急性汎発性腹膜炎)	9
肛門	痔核手術	2		腹腔鏡下直腸切除・切断術(悪性腫瘍)	13
ヘルニア	単径ヘルニア根治術	15	直腸切除切断術(悪性腫瘍)	4	
	腹腔鏡下単径ヘルニア根治術	4	心臓・血管・リンパ	肛門周囲膿瘍切開術	4
	腹腔鏡下腹壁癒痕ヘルニア根治術	3		中心静脈注射用埋込型カテーテル設置	5
			その他	腹水濾過濃縮再静注法	20

整形外科 脊椎脊髄外科

1. スタッフ

整形外科部長	本家 秀文	[日本整形外科学会整形外科専門医]	令和4年3月退職
整形外科部長	樋口 健吾	[日本整形外科学会整形外科専門医]	令和4年4月より
脊椎・脊髄外科部長	隈元 真志	[日本脊髄外科指導医 日本骨粗鬆症学会認定医]	
常勤医	高島 怜史		令和4年3月退職
常勤医	末次 宏晃	[日本整形外科学会整形外科専門医]	令和4年4月入職
常勤医	宮崎 研丞		令和4年4月入職

2. 活動報告

2022年4月より整形外科樋口健吾が前任の本家秀文より整形外科部長の任を引き継ぐこととなりました。今後も整形外科・脊椎脊髄外科ともに診療レベル、実績を向上していけるよう邁進して参りますので何卒よろしくお願ひ申し上げます。

2019年よりCOVID19が蔓延し、現在はいわゆるwithコロナの時代へ突入した感があります。2019年度は当院のコロナクラスターもあり、通常診療もままならない時期を経験しましたが、現在は近隣の先生方のご協力もあり、紹介患者さんも戻り手術数も例年同様まで増えてきております。この場を借りて感謝の意を伝えさせて頂きたいと思ひます。

今年度は4月より新たに末次宏晃（すえつぎ ひろあき）先生、宮崎研丞（みやざき けんすけ）先生に赴任いただきました。新任の先生に加え昨年度同様脊椎・脊髄外科の隈元真志先生、股関節・膝関節外科（診療科長）の樋口健吾の4人体制で診療を行っております。月・水曜日に樋口が、火・金曜に末次、宮崎が診療を行い、木・土曜は交代制で外来診療を行っております。脊椎・脊髄外科は主に月、木、金の午前を中心に外来を行っております。また、引き続き佐賀大学整形外科、馬渡正明教授に木・土曜日は股関節疾患の患者様を中心に外来・手術治療を行っております。

当院整形外科の手術数は例年800～900例の手術を行っております。外傷に伴う骨折等に対する手術と股関節・膝関節、脊椎の変性疾患に対する手術が主ですが、今年度より赴任した末次先生は上肢専門（肘・手の外科）であり、診療の幅を広げているのではないかと考えています。

今後も近隣の開業医の先生方、回復期病院の先生方に患者様の治療や術後の転院などを相談させて頂くことがあるかと思ひます。ご不明な点などありましたらご意見頂けましたら幸いです。また、紹介頂いた患者様は、再度逆紹介をさせて頂くことを意識し、患者様の治療経過が把握できるよう尽力したいと考えています。重ね重ねにはなりますが、今後ともよろしくお願ひいたします。

3. 診療実績

年間新患数：487人

年間手術総数：949例（2021年度）

脊椎手術：121例

上肢手術：90例

下肢手術：207例

外傷：395例

スポーツ：6例

小児：21例

その他：109例

形成外科

1. スタッフ

形成外科部長 岡 潔 [日本形成外科学会専門医]

2. 診療内容

当院形成外科では、顔・手足（指）の骨折や先天異常（副耳や耳瘻孔、多指症など）、体表の外傷や熱傷、褥瘡や皮膚潰瘍、皮膚・皮下腫瘍、陥入爪（巻き爪も含む）などの治療を行っています。また、外傷や癌などの手術後の瘢痕・欠損・変形に対する機能や形態の再建（修正）なども行っています。患者さんの QOL（Quality of Life）の向上のために、「目立ちにくい傷あと」を目指しています。

当科は他の診療科との境界領域も多く、必要な場合は連携をとりながら治療を行なっております。日常の診療でお困りの症例などございましたら、ぜひご相談ください。

3. 診療実績（2021年1月1日～12月31日）

外来……………総数名（新患）1627（322）名

手術……………206件

手術名	件数
外傷	151
先天異常	2
腫瘍	30
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	5
難治性潰瘍	2

手術名	件数
炎症・変性疾患	4
美容（手術）	1
その他	6
Exyra.レーザー治療	5

心臓血管外科・血管外科

1. スタッフ

副院長	心臓血管外科部長	宮本 和幸	[日本外科学会専門医・指導医 日本胸部外科学会認定医、心臓血管外科専門医 心臓血管外科修練指導者 腹部大動脈ステントグラフト実施医 心臓リハビリテーション学会指導士]
常勤医		鬼塚 大央	[心臓血管外科専門医 日本外科学会専門医 日本脈管学会専門医 下肢静脈瘤血管内焼灼術指導医 臨床研修指導医] 令和4年3月退職
常勤医		米倉 隆介	令和4年4月入職

2. 診療内容

一昨年より引き続き、宮本と鬼塚の二人で診療を行っています。予定手術は九州大学心臓血管外科教室のバックアップで行っています。

昨年に比べて新型コロナウイルス感染症の影響は限定的でしたが、手術症例はほとんど変わりませんでした。しかし、2021年は緊急手術、重症症例が多かったように思います。

今後も地域の病院、当院の循環器内科と連携し手術数の増加、成績の向上に努めていきます。

3. 診療実績 (2021年1月から12月)

2021年に行った手術は71例で、昨年と同数でした。緊急手術は11例で、15.5%でした。内訳は以下の通りでした。

(1) 開心術 33例

- ・単独冠動脈バイパス術(CABG) 12例 (緊急手術2例)
- ・心破裂修復 1例
- ・弁膜症手術 12例
(AVR4例、MVP/R3例、AVR+MVP2例、AVR+CABG3例)
- ・胸部大動脈手術 4例 (A型乖離2例)
- ・心臓腫瘍摘出 3例
- ・先天性心臓病 1例 (ASD+TAP1例)

(2) 非開心術 38例

- ・腹部大動脈手術 8例 (破裂3例)
- ・末梢血管手術 17例
- ・下肢静脈瘤手術 5例
- ・その他 8例

4. 学会・講演会

開催日	演題名	発表者	名称
7月29日 ~30日	ブロッケンブロー手技による右房穿通に対する外科手術	鬼塚 大央 宮本 和幸	第54回西日本胸部外科学会九州地方会総会 (大分市)

脳神経内科

1. スタッフ

理事長	黒田 康夫	[日本内科学会評議員・指導医 日本神経学会評議員・指導医 日本認知症学会 専門医・指導医]
脳神経内科部長	長山 成美	[日本神経学会専門医・指導医 日本認知症学会専門医・指導医 日本脳卒中 学会認定脳卒中専門医 日本内科学会認定内科医]

内科・消化器内科・呼吸器内科・感染症内科

糖尿病内分泌内科・リウマチ科

1. スタッフ

診療部長	辛嶋 健	[日本内科学会認定医・総合内科専門医 日本糖尿病学会専門医 日本内分泌学会 ・内分泌代謝科専門医、功労評議員]
内科部長	藤原 英樹	[日本循環器学会専門医 日本医師会認定産業医 福岡県医師会認定総合内科医]
内科部長	松岡 浩	
感染制御部長	向野 賢治	[日本内科学会内科認定医 日本感染症学会専門医・指導医 日本リウマチ学会 専門医 日本化学療法学会抗菌薬臨床試験指導者 インфекションコント ールドクター (ICD) 日本医師会認定産業医 特別管理産業廃棄物管理責任者 第一種衛生管理者衛生工学衛生管理者]
常勤医	城 幸督	[日本内科学会総合内科専門医 日本結核病学会抗酸菌認定医] 令和3年4月入職
常勤医	岡元 寿樹	[日本内科学会認定内科医] 令和3年4月入職
常勤医	保田 秀生	令和4年4月入職

2. 診療内容

当院の内科常勤医師は4名（辛嶋、藤原、向野、松岡）です。

内科に属する専門外来は糖尿病・内分泌（月・火・水・木の午前：担当辛嶋）、リウマチ・感染症（月・火・水・木の午前：担当向野）となっています。

入院診療に関しては辛嶋、松岡、藤原が担当します。内科に入院となった症例は血糖コントロール目的以外救急患者です。当院は地域性により高齢者が多いため、多疾患を併せ持つ患者さんが多く、感染症をはじめ疾患は多岐にわたりますが、ほとんどの画像検査、生理検査は当日に施行できるため、適切に診断、治療を行い、入院の適応を判断するなどスムーズな診療が可能です。

昨年度の入院疾患は肺炎を始めとした感染症が多く、高血糖緊急症や電解質異常などの代謝性疾患、アルコール中毒を含む薬物中毒などが中心です。

超高齢化、人口減少・少子化、健康格差の拡大と社会性弱者の増加、人権意識の高まりなど、日々変化している社会への対応をしなければならない中、当院の役割は圧倒的に多い後期高齢者や超高齢者の入院症例に対応することだと考えています。その為には良好なベッドコントロールは必須です。ベッドを円滑に運営するため、地域の回復期病院、療養病院、老健施設、在宅診療医との病診連携・病病連携を密にしていくことが重要であると考えています。関係各位には更なるご支援をお願い致します。

3. 入院症例の主病名一覧（内科のみ）

区分	病名	件数	区分	病名	件数
消化器系疾患	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術	125	腎尿路生殖器系疾患	急性腎盂腎炎	19
	内視鏡的消化管止血術	85		急性腎不全	1
	内視鏡的胆道ステント留置術	16		急性細菌性前立腺炎	1
	下部消化管ステント留置術	13	リンパ組織、造血組織及び関連組織の疾患	骨髄異形成症候群	1
	内視鏡的食道静脈瘤結紮術	8		播種性血管内凝固	9
	内視鏡的結石除去術	6		薬剤性顆粒球減少症	1
	内視鏡的胆道結石除去術（胆道碎石術を伴う）	4	循環器系疾患	肺動脈血栓塞栓症	1
	内視鏡的食道及び胃内異物摘出術	2		急性大動脈解離	2
	内視鏡的胃、十二指腸ポリープ粘膜切除術（早期悪性腫瘍胃粘膜）	2	症状、徴候及び臨床検査異常	肺胞出血	1
	食道狭窄拡張術	2		痙攣	1
	出血性胃潰瘍	4	精神及び行動の障害	アルツハイマー型老年認知症	1
	穿孔性十二指腸潰瘍	1		過換気症候群	1
	上腸間膜動脈症候群	2	筋骨格系及び結合組織の疾患	RS3PE 症候群	1
	クローン病	1		痛風	1
	潰瘍性大腸炎	1		偽痛風	2
	急性虚血性大腸炎	6		皮膚筋炎性間質性肺炎	1
	癒着性イレウス	2	筋骨格系及び結合組織の疾患	リウマチ性多発筋痛	4
	大腸憩室出血	8		横紋筋融解	28
	アルコール性肝硬変	2	感染症及び寄生虫による疾患	クロストリジウム・ディフィシル腸炎	1
	総胆管結石性胆管炎	10		感染性腸炎	8
	総胆管結石	1		肺結核	1
	急性胆のう炎	1		肺非結核性抗酸菌症	2
	アルコール性急性膵炎	2		敗血症	1
		レジオネラ肺炎		1	
呼吸器系疾患	ウイルス性肺炎	1	ウイルス性髄膜炎	1	
	細菌性肺炎	14	感染症及び寄生虫による疾患	EBウイルス伝染性単核症	1
	慢性閉塞性肺疾患	1		COVID-19	69
内分泌・栄養および代謝疾患	原発性甲状腺機能低下症	1	損傷、中毒及びその他の外因の影響	食道異物	1
	甲状腺機能亢進症	1		食道癌	1
	1型糖尿病性アシドーシス	1	胃癌	4	
	2型糖尿病性ケトアシドーシス	5	肺癌	5	
	高浸透圧性非ケトン性昏睡	1	悪性胸膜中皮腫	1	
	副腎クリーゼ	2	転移性肺癌	1	
高アンモニア血症	2	転移性肝がん	1		
呼吸器系疾患	誤嚥性肺炎	158	B細胞リンパ腫	1	
	間質性肺炎	5	悪性リンパ腫	1	
	特発性器質化肺炎	1	結腸腫瘍	1	
	膿胸	4	損傷、中毒及びその他の外因の影響	急性薬物中毒	11
	緊急性気胸	1		一酸化炭素中毒	2
神経系疾患	悪性症候群	4	耳の疾患	メニエール病	2
	高度アルツハイマー型認知症	1		頭位変位性めまい	1
	レビー小体型認知症	1			
	低カリウム血性周期性四肢麻痺	1			
	低酸素性脳症	2			

循環器内科

1. スタッフ

病院長	上野 高史	[日本循環器学会専門医、日本内科学会認定医、日本心血管インターベンション学会専門医・指導医、日本心臓血管内視鏡学会専門医]
副院長 循環器内科部長 病院長代理	舩元 章浩	[日本内科学会認定・総合内科専門医・指導医 日本循環器学会専門医 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医 日本心臓リハビリテーション学会指導医 日本心血管インターベンション学会専門医 臨床研修指導医]
循環器内科部長	中村 広	[日本循環器学会専門医]
循環器内科部長	久米田 洋志	[日本循環器学会専門医]

2. 診療内容

当科の診療体制は循環器専門医4名、研修医1名で、入院・外来診療を行っております。前年と比して、冠動脈インターベンション、高周波カテーテルアブレーション件数が増加しました。非侵襲的な検査である心エコー、ホルター心電図、冠動脈MDC検査、薬物負荷タリウム心筋シンチ検査を組み合わせることにより、今まで冠動脈造影検査だけの目的で入院していただいていた症例も、入院せずに外来での精査・経過観察が可能となりましたので、患者さんによりやさしい医療を提供できるようになりました。冠動脈インターベンションも冠動脈MDCT検査所見をもとに、より詳細なstrategyをもって施行できるようになりました（末梢血管形成術も同様です）。また、高周波カテーテルアブレーションに対しても積極的に取り組み、薬剤抵抗性である不整脈の根治・寛解を目指しております。

このように(PCPS、IABPなどの)循環器救急領域から心臓リハビリテーションまで多岐にわたって、より専門的な医療を提供できるようになってきております。

3. 診療実績 (2021年1月1日～12月31日)

主な検査、治療実績	件数	主な検査、治療実績	件数
冠動脈造影	116	経胸壁心エコー	3800
冠動脈インターベンション	160	経食道心エコー	20
冠動脈CT	667	ホルター心電図	378
心筋シンチ	286	イベントレコーダー	96
下大静脈フィルター	11	カテーテルアブレーション	182
人工ペースメーカー	84		

4. 業績

学会・研究会・講演会

開催日	演題名	発表者	名称
1月23日	若年女性の心筋梗塞3症例の検討	望月 彰人 舩元 章浩 久米田洋志 中村 広 上野 高史 黒田 康夫	第332回日本内科学会九州地方会 (福岡)
1月23日	心刺激伝達障害を併発したCOVID-19肺炎の2症例	山川 曜 舩元 章浩 久米田洋志 中村 広 向野 賢治 上野 高史	第332回日本内科学会九州地方会 (福岡)

開催日	演題名	発表者	名称
1月23日	ファビピラビルが無効であった新型コロナウイルス治療にトシリズマブ投与を行った2症例についての検討	杉元悠太郎 舩元 章浩 藤澤 愛 御鍵 和弘 中村 広 石岡 久和 向野 賢治 上野 高史 黒田 康夫	第332回日本内科学会九州地方会 (福岡)
8月6日	ペースメーカーについて	舩元 章浩	マイクロポート社 Web 講演会

小児科

1. スタッフ

小児科部長 山崎 兼吾 [日本小児科学会専門医]

2. 診療内容

2016年以降小児科は常勤医3名体制でしたが、職員の退職に伴い2019年9月より常勤医1名で診療を行っております。朝8時15分から17時15分まで一般診療、予防接種、乳児健診などの外来診療を受け付けております。

入院に関しては一般病棟の個室にて対応しております。体制上対応可能な症例は限られますが、近医の先生方の外来治療ではコントロールが難しい、しかし大学病院等で治療を必要とする程ではない軽症から中等症例の受け入れを行っております。

時間外の入院・検査の御依頼、救急搬送に関しても可能な限り対応致しますのでお問い合わせください。

コロナウイルス感染症への対応といたしましては発熱外来でのPCR検査の他、入院症例では患児本人および付き添いの保護者様を対象にLAMP法によるPCR検査を施行しております。

これからも早良区・西区を中心に福岡市内の子ども達の笑顔のために地域開業医の先生方と連携を図りながら診療をしていきたいと思っております。

3. 診療実績 (2021年1月1日～12月31日) 小児科総入院数23名

主な入院病名	件数
感染性胃腸炎、嘔吐症	11
気管支炎、気管支喘息	4
痙攣、不明熱他	8

入院経路>他院からの紹介 17名

当科外来・救急外来から各3名

泌尿器科

1. スタッフ

副院長 泌尿器科部長 橋本 恭子 [日本泌尿器科学会専門医・指導医]
常勤医 堤 茂高 [日本泌尿器科学会専門医・指導医 日本麻酔科学会認定医]
令和4年4月入職

2. 診療内容

2021年の外来総数は3086名、うち新患は787名でした。入院内訳は以下のようになっています。結石治療及び尿路感染症が増加傾向にあります。当院では高気圧酸素治療が可能な為、止血困難な放射線性膀胱炎の紹介が増えています。診療体制は、2021年も変わらず常勤1名、非常勤1名でした。2022年4月より常勤2名、非常勤1名体制となります。

3. 入院実績 367例

疾患名	件数	疾患名	件数
尿路結石症	98	悪性腫瘍	37
尿路感染症（結石性腎盂腎炎含む）	157	精巣・陰囊の疾患	4
排尿障害	8	その他	63

4. 手術実績 456例

術式	件数	術式	件数
体外衝撃波結石破砕術	277	前立腺生検	9
経尿道的尿管ステント留置術等	145	膀胱瘻造設術	7
腎瘻造設術	11	膀胱腫瘍切除術	7

皮膚科

1. スタッフ

皮膚科部長 工藤 稔

2. 診療内容

当院皮膚科は常勤1名です。入院対象としては、帯状疱疹、蜂窩織炎・丹毒、アナフィラキシー、熱傷、水疱性類天疱瘡などがあります。手術は外来で行える小手術がほとんどです。中でも粉瘤が最も多く、その他、石灰化上皮腫、色素性母斑、ポーエン病、脂漏性角化症、脂肪腫、軟線維腫などがありますが、基本的には単純縫縮できるものを扱っておりますので、いつでもご相談ください。

婦人科

1. スタッフ

産婦人科部長 山口 淑恵 [日本産婦人科学会専門医 日本女性医学学会女性ヘルスケア専門医
母体保護法指定医]

常勤医 安岡 真理子 [日本産婦人科学会専門医 日本女性医学学会女性ヘルスケア専門医]

2. 診療内容

急性腹症や不正性器出血、月経困難症、更年期障害、排尿障害、子宮留膿症、外陰部異常、婦人科検診の二次精査など、様々な症状に対応していますが、緊急手術（開腹、腹腔鏡下）を要する症例や精査にて悪性腫瘍（の疑い）が判明した症例は対応可能な医療機関へ紹介しています。

当院では多言語による診療案内など体制を整えていますので、多くの外国人の方にも安心して受診していただいています。

3. 診療体制

外来診療は当院の診療時間通り、月曜から土曜日まで行っており、基本的には予約制ですが、急な受診や救急対応、当日紹介にも対応しています。

3. 今後の展望

2020年に引き続き、現在もコロナ専用病棟の運用のため婦人科外来での診療ができない状態が続いております。泌尿器科外来の内診台をお借りしながらの診療であり、一部対応できない検査もありますが、患者様方にはご理解いただきながら、また泌尿器科の先生方のおかげで問題なく診療を行うことができました。この場を借りて感謝申し上げます。今後も地域の先生方とともに地域住民に寄り添った医療を提供できるよう努力してまいります。婦人科外来での診療に戻れる見通しはたっておりませんが、日常診療においてなにか婦人科的なところでお困りのこと、心配なことがありましたら、どんなことでも是非ご相談ください。

耳鼻咽喉科

1. スタッフ

耳鼻咽喉科部長 新里 祐一 [日本耳鼻咽喉科学会専門医 日本気管食道科学会専門医]
碓 絵馬 令和3年4月入職

2. 概要

当科は平成15年6月に開設され、九州大学耳鼻咽喉・頭頸部外科の関連病院として常勤医師が勤務しています。平成29年4月に常勤医師が二名に増員となったものの、諸般の事情にて平成30年4月から常勤医師は1人体制となりました。令和3年4月から再び常勤医師が2名になっています。

3. 診療体制

令和3年も令和2年から引き続き、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響を強く受けています。

令和2年3月までの外来受診患者の延べ人数は月当たり平均270人でした。当院で外来診療がストップしたこともあり、一時外来受診数は激減しましたが、令和2年の後半3ヶ月は平均186人となっていました。COVID19以前と比較すると、令和2年の外来の受診延べ人数は7割弱程度になっています。令和3年3月まではほぼ前年と同様の状態でした。令和3年4月から常勤二人体制になって徐々に増加傾向になっていますが、それでも令和3年の後半3ヶ月は月平均252人であり、COVID-19以前の状態には戻っていない状況です。

4. 入院診療実績

福岡市内でも救急搬送の多い当院の性格上、これまで同様末梢性めまい症が最多です。めまいを訴える方のなかで、良性発作性頭位めまい症の典型的な場合は、エプレイ法等の頭位治療にて短期間で症状を軽減できる疾患ですので、見落としがないように、しかしながら検査であまり負担をかけることがないようにしたいと思っています。眼振もなく、耳鳴・難聴等の蝸牛症状のないいわゆるめまい症の方の場合は、どうしても対症療法にならざるを得ません。

基本的にはこれまでと同様、救急外来でMRI等の画像診断で脳血管障害が否定された後に当科に入院の連絡があるというパターンがほとんどです。めまいが改善せず入院適応になった場合でも、PCR検査は必要になるわけですが、救急入院が多いという当院の性格上、救急外来にて15分程度で結果が確認できるNEAR法でのPCRが可能になりました。そのため、入院までの時間がずいぶん短縮できることになりました。これは扁桃炎や扁桃周囲膿瘍の場合でも同様であり、当院では比較的迅速にCOVID-19のPCR検査がでることに対してありがたく思っています。

5. 高気圧酸素治療(HBO)について

当院は福岡市内では数少ないHBOの実施可能な施設です。他施設での初期治療例あるいはステロイド治療後の方で突発性難聴の聴力改善が思わしくない方のご紹介をいただくことがあります。

令和2年は残念ながらHBOが十分にできませんでした。令和3年は、まずはPCR検査後に入院で施行数を制限しながらHBOを施行してきました。COVID-19の流行具合やいろんな行政の制限等を勘案しながら徐々に施行数をふくめて、HBOを増やしていている状況です。しかしながら、PCR検査はまだ頻回に必要ですし、まだまだCOVID-19前と同様とはいかないのが現状です。

6. その他

診療体制はこれからもまだCOVID19の影響を受けるものと思われれます。感染予防に気をつけながら地域医療に貢献できる耳鼻咽喉科をめざしたいと考えています。

精神科

1. スタッフ

精神科部長 内田 信哉 [日本精神神経学会専門医・指導医 精神保健指定医]

2. 外来診療体制

当院精神科は完全予約制になっています。それは精神分析的な精神療法、力動精神療法が診療基盤となっている為、患者さん1人当りにかける時間が通常の精神科外来診療より長いことが特長の1つです。しかし、当院は救急病院ということもあり、身体的救急患者さんに精神疾患が併存している時には上記の限りではありません。

3. 入院診療

当院には精神科病床はない為、入院中の患者さんで精神科治療が必要である方に対しては、リエゾンコンサルテーションサービスを行っています。2021年における精神科サービスの科別詳細人数は下表のとおりです。内容としてはせん妄が最も多い症例でした。

診療科	件数	診療科	件数	診療科	件数
内科	24	脳神経外科	8	消化器内科	2
循環器内科	22	救急科	6	脊椎・脊髄外科	2
外科	19	泌尿器科	6	呼吸器内科	1
整形外科	11	心臓血管外科	5	皮膚科	1
総合診療科	11	耳鼻咽喉科	3		
脳神経内科	9	集中治療科	2		
合計					132

4. 研修医教

協力病院として油山病院にて現在は1人1か月の研修を行っています。当院精神科医も水曜日午後は研修医の講義・指導を油山病院で行う為、当院外来は、水曜日は午後休診となっています。

3. 外来患者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
新患	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	1	5
再診	110	104	126	130	108	130	126	116	111	123	98	110	1392
合計	110	104	126	130	108	130	128	117	112	123	98	111	1397

眼科

1. スタッフ

眼科部長	春野 佳子	[日本眼科学会専門医]
非常勤(手術担当)	矢部 伸幸	
視能訓練士	佐野 和子	
視能訓練士	寺崎 かおり	
准看護師	濱野 ちよ	
顧問	田村 一	

2. 診療報告

令和3年7月より眼科医が1名となりました。それと同時に日本全国で手術をされております矢部伸幸医師が手術担当として着任されました。難症例や、全身管理が必要であったり、全身麻酔下での手術をご希望の方、認知症や寝たきりの患者様の手術など、様々な患者様をご紹介頂ける事が多くなり手術症例が増えてきております。検査機器もハンフリー視野計が最新モデルとなり、電気生理学検査の網膜電位図(ERG)も皮膚電極で測定出来る新しいタイプを新規購入し、低侵襲で行える様になりました。

そしてさらに、CASIA 2という顎を置いて眼を数秒撮影するだけで、外眼部・角膜・前房・水晶体・隅角などトータル解析が出来る画期的な器械や、白内障と硝子体手術を同時に行うことが出来る最新の手術装置も導入され、診断と治療が充実致しました。

また、ICLと言う近視矯正手術が出来る様になりました。他には検査外来(眼科の検査・CT・MRI撮影)も致しており、紹介状をもっていない方も自費で視力検査や緑内障・白内障・眼底検査等が出来る様になりました。

3. 手術・入院

手術日は、月曜・木曜の午後と金曜午前中です。今年は81件と前年の2/3と大幅減でした。内訳は以下の通りで、白内障手術が最多でした。

白内障手術	89件
硝子体手術	11件
涙道手術	1件
内反症手術	2件
網膜光凝固術	1件
硝子体注射	6件
Botox	5件

3. 今後の展望

コロナの波が引いては押し寄せと言った具合で、なかなか終わりが見えない状況ですが、感染防止に努めながら患者様が喜んで頂ける医療を提供するように心掛けていきます。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

麻酔科

1. スタッフ

麻酔科部長 竹内 広幸 [日本麻酔科学会麻酔科専門医 日本救急医学会救急科専門医 日本小児麻酔学会
小児麻酔認定医 日本集中治療医学会集中治療専門医 JB-POT 認定医]

常勤医 秋吉 瑠美子 [日本麻酔科学会麻酔科専門医]
西川 文 [日本麻酔科学会麻酔科専門医]
松尾 顯 [日本麻酔科学会麻酔科専門医] 令和3年4月入職

2. 活動報告

令和3年1月1日～同年12月31日の期間（以下、本年とする）における麻酔科の麻酔実績は以下の通りである。

麻酔科管理症例数	1293件（内、手術室内 1,247件 それ以外 46件）
救急救命士による気管挿管実習	1名 修了

年間麻酔科管理症例数全体は前年と比べて約200件増加（前年1,092）した。前年は、新型コロナウイルス感染症のクラスター発生により一時的に患者受け入れができなかった期間があった。しかしながら新型コロナウイルス感染症対策を講じながら徐々に患者受け入れを回復させることができた結果であると思われる。

以下、本年の麻酔科管理症例について、いくつかの方法で分類し、それぞれの視点から見える実情と今後の課題を分析する。

【ASA-PSによる分類】

予 定	1	2	3	4	5	6*	計	合計
	225	751	129	3	1	0	1,109	
緊 急	1E	2E	3E	4E	5E	6E*	計	
	52	69	53	10	0	0	184	

*：臓器摘出を受ける脳死患者

ASA-PSの詳細は、米国および日本麻酔科学会の記述を参照のこと。

本年の手術症例は、前年と比較して予定手術、緊急手術ともに増加した。予定手術は前年比160件、約17%増加、緊急手術は41件、約12%増加という結果であった。ASA-PS別では、特に予定手術P S 2の患者が大きく増加していた。緊急手術は軽症重症に関わらず増加していた。新型コロナウイルスのクラスター発生の状態から患者受け入れの回を実感できる。

【手術部位による分類】

部位	症例数	部位	症例数
脳神経・脳血管	72	胸壁・腹壁・会陰	35
胸腔・縦隔	1	脊椎	148
心臓・血管	52	股関節・四肢（含末梢神経）	689
胸腔+腹部	0	検査	10
上腹部内臓	80	MAC	0
下腹部内臓	156	ECT	0
分娩	0	その他	8
頭頸部・咽喉部	42	合計	1,293

手術部位による分類では、前年と比較すると、おおむね件数は増加しているが、胸腔・縦隔手術は激減した。その背景は、呼吸器外科医の退職によるものである。人工心肺手術や腹腔鏡下手術の具体的な件数に関しては、それぞれの診療科の年次報告を参照されたい。

【麻酔法による分類】

麻酔法	症例数	麻酔法	症例数
全身麻酔(吸入)	379	硬膜外麻酔	2
全身麻酔 (TIVA)	243	脊髄くも膜下麻酔	173
全身麻酔(吸入)+硬・脊、伝麻	444	伝達麻酔	11
全身麻酔 (TIVA) +硬・脊、伝麻	20	その他	7
脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔 (CSEA)	14	合計	1,293

麻酔法に関しては前年と比べ全身麻酔を施行する割合が増えた。これは全身麻酔が必要な手術患者の割合が大きかったことを反映する。

【年齢構成による分類】

	男性	女性	合計
～1ヶ月	0	0	0
～12ヶ月	0	0	0
～5歳	5	0	5
～18歳	52	7	59
～65歳	238	179	417
～85歳	233	371	604
86歳～	41	167	208
合計	569	724	1,293

成人患者の件数はクラスター発生からの回復により各々増加している。一方で小児患者の件数は減少した。

以上のことを総合すると、

- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響で前年の手術件数はかなり件数が落ち込んだが、本年はある程度は回復できている。
- ・予定手術、緊急手術どちらも前年比10%以上の増加率であった。
- ・麻酔法は全身麻酔の割合が大きくなってきた。
- ・小児麻酔が減った。

本年は、何においても新型コロナウイルス感染症クラスター発生からの回復がある程度見られた年であった。しかしながらこれはまだ十分でないとする。例えば平成29年は麻酔科管理症例が1500件を超えていた。今後手術件数のさらなる増加を期待したいところであるが、やはり感染拡大を招かないように新型コロナウイルス感染症への対策として手術室の体制の整備、他部署との連携を作っていくことをこれからも継続していく必要があると思われる。

3. 業績

学会

開催日	演題名	発表者	名称
7月24日	「なまらない」動脈圧ライン確保への取り組み ー超音波ガイド下橈骨動脈穿刺の工夫ー	竹内 広幸 水山 勇人 鶴 昌太	日本集中治療医学会第5回九州支部 学術集会 (WEB開催)
9月11日	脊髄くも膜下麻酔がほぼ無効であった脊柱側弯症を合併 した大腿骨転子部骨折の一症例	秋吉 瑠美子 竹内 広幸	九州麻酔学会第59回大会 (WEB開催)
11月23日	COVID-19 軽快後に正常血糖糖尿病性ケトアシドーシス を発症した SGLT2 阻害薬使用中の一症例	竹内 広幸 鶴 昌太	第49回日本救急医学会霜害学術集 会 (東京)

放射線科

1. スタッフ

副院長 放射線科主任部長 石岡 久和 [日本医学放射線学会放射線診断専門医]
放射線科部長 國弘 敏之 [日本医学放射線学会放射線診断専門医]

2. 診療内容

画像診断としては、急性疾患を中心として撮像・読影を施行しています。一方で、精査目的の検査も施行し、複数の医療機関からの疑わしい病変についての撮像・読影のご依頼も受けています。院外の先生方からのご依頼を多く頂き、このような形での地域への貢献をできればと願っています。

CTでは、80列、320列の2台のCTを駆使して診療を行い、MRIでは3.0T、1.5T装置の2台体制で診療を行っています。これにより多くの検査を迅速に施行し、救急のみならず炎症・腫瘍を含めた多くの疾患に対応できる体制を整えています。

放射線治療としては、九州大学医学部放射線科（九州大学医学研究院 臨床放射線科学分野）から放射線治療医を派遣して頂き、リニアック装置による高いレベルの治療を行っています。福岡市に限らず県外を含めて広く篤く対応いたしますので、ご紹介を頂ければ幸いです。

今年度も新型コロナウイルス肺炎のため胸部を撮像する機会がありましたが、年度後半はオミクロン株に置き換わり、当初のような重篤な肺炎像を見る機会は減少しました。最近ではPCR陽性でも肺炎像がないかあってもわずかな場合が多く見受けられます。

一方で、救急疾患での搬送例がコロナ以前と同程度に増え、また炎症・腫瘍をはじめとする重要な疾患の撮像も以前と同程度に増えています。

画像診断・放射線治療の2本の柱で、これまでと同じ堅実な姿勢で院内の各科先生方、院外の多くの先生方からのご依頼に応え、この地域で頼りになる福岡記念病院放射線科を目指していきたいと考えています。

3. 診療実績

放射線科業務実績（2021年）

種別	件数	種別	件数
一般撮影	23,224	CT撮影 頭頸部	5,254
乳房撮影	31	軀幹	8,234
骨塩定量測定	1,013	四肢	460
造影撮影 (DIC, IVP, ERCP など)	1,631	CT撮影 計	13,948
消化管撮影 上部・下部消化管	28	MR撮影 頭頸部	3,144
その他	64	軀幹	1,358
血管造影 (含 頭部)	42	四肢	369
軀幹・四肢	42	MR撮影 計	4,871
循環器	674	核医学検査 (RI)	407
血管造影 計	758	放射線治療 ガンマナイフ	107
		リニアック延照射数	580

歯科・歯科口腔外科

1. スタッフ

副理事長 大塚 秀一 [歯学博士]
常勤医 大塚 智子

2. 診療内容

歯科医師2名、歯科衛生士2名の体制にて診療を行っています。診療としては一般歯科治療、口腔外科、歯科インプラント治療、入院患者（希望者）の口腔ケア、摂食機能療法、歯科健診、口臭測定等を行っています。

診察時間	
平日	8:30～17:00（16：30 受付終了）
土曜日	8:30～12:00（11：30 受付終了）

3. 診療実績

病名	件数	病名	件数
歯周病	218	顎関節症	7
義歯作製	40	歯牙脱臼	10
智歯周囲炎	23	歯槽骨骨折	5
歯牙破折	13	口腔裂創・挫創	4
顎骨骨折	8		

4. 勉強会

開催日	名称	テーマ
2021年5月31日	歯科勉強会	低ホスファターゼ症
2021年10月31日	歯科勉強会	産婦歯科検診

5. 今後の方針

近年患者様のQOL向上のために、嚥下や口腔内環境が大きく関与していると言われていています。そのため入院の患者様に対しての、口腔ケアや嚥下訓練を行う、摂食機能療法を行っております。また口腔内疾患と全身疾患との関連性も多数報告されています。このようなことを患者様や多くの方々に知ってもらい、歯科治療に対する関心を持って頂きたいと思えます。

新型コロナウイルスの感染対策として、標準予防策の遵守、患者ごとの環境消毒の配慮、エアロゾル対策として口腔外バキュームを導入しコロナ禍でも患者様に安心して受診して頂ける環境を整えています。

臨床検査科

1. スタッフ

臨床検査科部長 塚本 良樹 [日本医学放射線学会放射線専門医]

看護部

○ 看護部の理念

常に社会と医療の動向に目を向け、安全で信頼される良質の看護を提供します。

○ 看護部の基本方針

1. 患者さんの人間性を尊重し生命の安全を確保します。
2. 患者さんの意志決定の支援を行います。
3. 地域との連携を密に行い、継続看護の充実を図ります。
4. 自己研鑽を重ね、専門職としての能力開発の向上に努め、組織の活性化につなげます。
5. 情熱と誇りを持った看護人を目指します。

○ 令和3年度看護部の目標

1. 接遇意識を高め、一人一人が病院の顔であることを自覚し、患者様にはつねに親切丁寧な看護を提供する。
2. 地域医療機関との連携を取り、退院調整、退院支援の充実を図る。
3. エビデンスに基づく質の高い看護・医療安全の視点に基づき、安全で安楽な看護を提供する。
 - ・根付かせよう確認・規則・手順・守って・見直して
4. 業務改善を行い、長時間勤務の減少、離職防止
 - ・患者様には丁寧に、業務は機敏に
 - ・他部門との話し合い

目標1については、患者様に対して思いやりの心で、一人ひとりが患者さんに向き合う時どうするべきか、「患者さんに安心してもらえる看護とは何か」自分が行う看護を考え、行動できるように指導してきました。今後も患者さんやご家族にとって安心が得られる看護を提供していけるように教育していく。

目標2について病床利用率 90%を目標にしていたましたが、令和3年度は、97.9%の利用率となり、また在院日数も13.8日と昨年と比較すると2.1日短縮できました。令和4年度は13日以下を目標にしていきベッドコントロールがスムーズに行われるように調整し、退院予定の把握、地域連携室との話し合いを密に行い、転院がスムーズに行えるようにしていきたい。救急搬送患者入院患者様をお断りすることがなく受け入れが出来るようにベッド調整をしていく。次年度も地域連携室との連携を密に入退院調整を行っていく。

目標3については、年間ラダー別の医療安全研修を行い医療安全マニュアルの徹底、インシデント報告の共有など安全に対しての意識教育を行ってきた。確認不足によるインシデントもあり、さらなる教育を行うようにする。

目標4に対し、今後も働き方改革に向けた業務負担の軽減、長時間労働減少により退職者の減少に努めたい。看護師が定着するためには、やる気、モチベーションが持てるような体制作りをしていく。コロナ禍ということもあり集合研修、院外の研修が減少していますので、令和4年度は学研ナースングサポートを導入しラダーレベルに応じたe-ラーニングで知識や技術を繰り返し学習し臨床に活用していくように取り組んでいきたい。

短時間で学べることで働き方改革にもつなげていければと思います。

○看護師の入退職の動向

令和3年度は4月入職者は、新卒者46名 既卒者12名採用であった。

コロナ禍でインターンシップ中止、病院見学も中止となりましたが予定人数の新人看護師確保は出来ました。看護学生時代に実習が十分に出来ないで就職してくるので、教育体制の変更を行い働きやすい職場づくり、ワークライフバランスを考慮した配慮を行い、退職者軽減のために勤務体制のあり方、有給休暇所得率90%と働き方改革に向けた業務改善を主任会を中心に行った。看護補助者の業務を見直しで少しでも看護師の負担が軽減し、専門的業務ができるように年2回師長会で見直しを行った。

重症度・医療・看護必要度においては、IIの基準へ変更し看護師の負担も軽減できた。「評価者院外指導者研修」を3名終了させ、全職員研修実施した。

急性期看護補助者夜勤加算を取り入れることで入院報酬の算定ができ、また看護師の負担軽減及び処遇改善に資する体制を確保できた。

令和4年度は、各病棟クラークを1名ずつ配置し看護業務の負担軽減・時間外労働の軽減に努めていきたい。

○活動内容

1. 看護教育活動

1) クリニカルラダー教育

各ラダー別研修の開催回数および延べ参加者数

	開催回数	延べ参加者数
ラダーⅠ研修	10回	247名
ラダーⅠ-b研修	6回	157名
ラダーⅡ研修	5回	261名
ラダーⅡ選択研修	7回	191名
ラダーⅢ研修	4回	141名
ラダーⅢ選択研修	6回	99名
ラダーⅣ研修	3回	49名
トピックス研修	2回	282名
平均参加率	必須30研修	73.9%
選択3研修達成率	選択13研修	90.6%

4) 地域連携施設対象看護研修会

・ERにおける感染対策 救急外来看護師 前川 由莉絵

5) 新人看護師BLS研修 46名参加

6) 主な院内研修修了および資格取得者

・静脈注射エキスパートナース指導者講座修了認 11名

7) 院外研修参加者 128名

8) 学会発表

・第19回 福岡県看護学会発表 (ナースプラザ福岡)

「効果的で安全な患者情報の共有方法の検討」 手術室看護師 深川 友美

・医療安全管理者研修 布田 めぐみ

9) 実習校受入れ実績

福岡医療看護専門学校 看護学科1学年～3学年

基礎看護Ⅰ・Ⅱ 成人看護Ⅰ・Ⅱ 統合 計 延べ875名

薬局

1. 活動報告

当院では、薬剤師 23 名が 24 時間体制（2 交代制）で業務にあたっています。

2008 年 7 月より、入院患者に対する医薬品安全管理の向上を目指して、一病棟から薬剤師の配置を開始し、徐々に全病棟へと拡大してきました。現在は ICU や HCU にも薬剤師を配置しております。2021 年度は薬剤管理指導件数 9,048 件、退院時指導 2,974 件の薬学的管理を行うことができました。また、入院患者全てを対象に 24 時間体制で持参薬の鑑別を行うことで、医師・看護師への情報提供に役立っています。その他にも病棟では、注射薬の手技、投与ルート、相互作用、配合変化、投与順序の確認、点滴時間の振り分け等も行っていきます。薬剤師が関与することで病棟での Medikation エラーの減少につながっています。

また、適正使用が特に推奨されている抗 MRSA 薬の処方設計や、抗がん剤のミキシングも行っており、高度な専門知識が求められる場面で薬剤師が活躍しています。

2021 年 5 月からは新型コロナウイルスワクチン接種について、地域の集団接種会場へ薬剤師を派遣して参りました。当院においても集団接種会場が設けられ、ワクチンの調製に関しては薬剤師が担っております。

今後も地域における基幹病院としての役割を果たせるよう薬剤師一同努力してまいります。

2. 業務集計

	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
服薬指導	10,601	10,096	9,740	7,861	9,048
退院時指導	3,006	3,001	3,021	2,523	2,974

TDM・無菌調製・化学療法件数

	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
TDM	225	176	221	191	265
無菌調製	714	387	484	165	23
化学療法	222	152	123	190	271

PET-CT 件数（FDG 製造・合成）

	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
PET	1,618	1,805	1,706	1,336	1,184

3. 業績

演題	演者	開催日	学会・研修会名称
防煙教室	魚住 秀親	2022 年 1 月 14 日	有住小学校（5 年生）

4. 専門・認定薬剤師数

名称	人数
栄養サポートチーム専門療法士	4 名
外来がん治療認定薬剤師	1 名
がん薬物療法認定薬剤師	1 名
日本糖尿病療養指導士	1 名
福岡糖尿病療養指導士	1 名
認定実務実習指導薬剤師	3 名
核医学認定薬剤師	1 名
日病薬病院薬学認定薬剤師	1 名
医療薬学専門薬剤師	1 名

放射線科

1. 活動報告

2021年は、2名の新人技師を迎え、総勢26名の体制で、福岡記念病院と福岡記念PET・健診センターの放射線検査・治療業務を担当いたしました。

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症にともなう感染対策最優先での業務体制となりましたが、検査件数等はコロナ以前よりもむしろ増加しており、これはスタッフ各々が感染対策の徹底と日々の安全対策、そして迅速な検査結果のご提供という課題にしっかり取り組んだ結果によるものだと考えております。

これからも、当院が掲げる「安全で信頼される医療」の一翼を担うべく、日々患者さまと向き合い、業務に励んでいきます。

2. 設置機器

設置施設	種別	台数	種別	台数
福岡記念病院	一般撮影装置	3台	核医学診断装置	1台
	乳房撮影装置	1台	循環器対応血管造影装置	2台
	骨塩定量測定装置	1台	移動型外科用イメージ	3台
	X線TV	1台	ポータブル撮影装置	3台
	80列MDCT	1台	ガンマナイフ	1台
	320列MDCT	1台	リニアック	1台
	1.5テスラMR装置	1台	CRシステム	3台
	3.0テスラMR装置	1台	DR (FPD) システム	2台

設置施設	種別	台数
福岡記念 PET・健診センター	一般撮影装置	1台
	乳房撮影装置	1台
	骨塩定量測定装置	1台
	X線TV	1台
	PET-CT装置	1台
	サイクロトロン	1台
	CRシステム	1台

リハビリテーション科

1. 施設基準

- ・脳血管疾患等リハビリテーション料 I
- ・呼吸器リハビリテーション料 I
- ・廃用症候群リハビリテーション料 I
- ・がん患者リハビリテーション料
- ・運動器リハビリテーション料 I
- ・集団コミュニケーション療法
- ・心大血管疾患リハビリテーション料 I

2. 人員配置

2021年度は、新規に7名を採用しました。

	理学療法士	作業療法士	言語聴覚療法士	介護要員	非常勤
人数	25	14	5	1	0

常勤合計 45名

3. リハビリテーション料年間実績

患者実数： 5,719 名

年間累計単位数： 150,701 単位

臨床検査科

1. 活動報告

生理検査（院内と福岡記念 PET・健診センター）・細菌検査・時間外日当直検査は当院検査技師 12 名が担当しており、検体検査は LSI メディエンス検査技師 3 名が対応しています。

臨床検査適正委員会を 2 ヶ月毎に開催し、業務内容・査定状況・精度管理・インシデントやクレームへの対応について検討しています。外部精度管理は日臨技臨床検査精度管理、日本医師会精度管理に参加しましたが、本年も特に問題を指摘されませんでした。

輸血部門は生理部門技師が兼務し依頼・発注・受付・交差試験・製剤管理を行っています。医師との連携を図り、日赤との連絡も取り合いながら臨機応変に対応しており、心臓血管外科・救急患者等の大量輸血も迅速な対応を行っています。

細菌検査部門は専任技師 1 名+1 名（パート職員）で、近隣病院との相互ラウンドも実施され、委員会等においても院内感染対策にも大いに貢献しています。

時間外検査件数につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響による救急受診の件数減少に伴い、時間外検査件数も減少しております。生理検査部門では新卒技師を 2 名採用しており、当直体制から夜勤体制への移行出来る体制を整えることが出来る様教育を行っています。また、増員によって更なる検査内容の充実、及び各々が超音波検査士等の各種認定技師取得を目標に頑張っており、更なる検査の質の向上を目指しております。

2. 令和 3 年業務集計

検体検査件数(LSI メディエンス)

院内検査	837,153 件
外注検査	13,984 件
計	851,137 件

細菌検査

一般細菌	4,542 件
抗酸菌	1,505 件
COVID-19(スマートジーン)	4,685 件
マイコプラズマ(LAMP 法)	7 件
結核菌(スマートジーン)	31 件
その他	166 件
計	10,936 件

当直時間帯での検査件数

生化学検査	6,931 件
血算	6,825 件
免疫	1,465 件
凝固	2,790 件
血液型判定検査	416 件
交差適合試験	190 件
生理検査	289 件
心臓カテーテル検査	45 件
その他	1,038 件
計	19,989 件

輸血検査

RBC	1,515 件
FFP480(FFP240)	393(1)件
PC10	124 件
自己血全血(使用量)	14 件
計	2,046 件

生理検査（福岡記念病院）

破棄		RBC 22 /FFP480 1
心電図		5,180 件
トレッドミル		16 件
ホルター心電図		412 件
イベントレコーダー		110 件
ABI		257 件
肺機能検査		239 件
脳波		363 件
その他		7 件
エコー	腹部	2,037 件
	心臓	3,851 件
	頸動脈	1,548 件
	乳腺	63 件
	甲状腺	334 件
計		14,417 件

生理検査（福岡記念 PET・健診センター）

心電図		7,691 件
眼底撮影		1,740 件
眼圧測定		1,143 件
ABI		340 件
エコー	腹部	1,814 件
	心臓	41 件
	頸動脈	439 件
	乳腺	854 件
	甲状腺	63 件
計		14,125 件

感染制御部

【会議】

ICC 会議 第4木/毎月 16:00 から開催している
 ICT 会議 第1火/毎月 16:00 から開催している
 ICT 活動 (ラウンド) 木/毎週 14:15 から実施している

【目標】

ICC : 院内感染対策委員会規定に準じ、討議・検討し、活動を推進する
 ICT : ICC で推進された事項を ICT 規定に準じ、感染対策活動を実施する

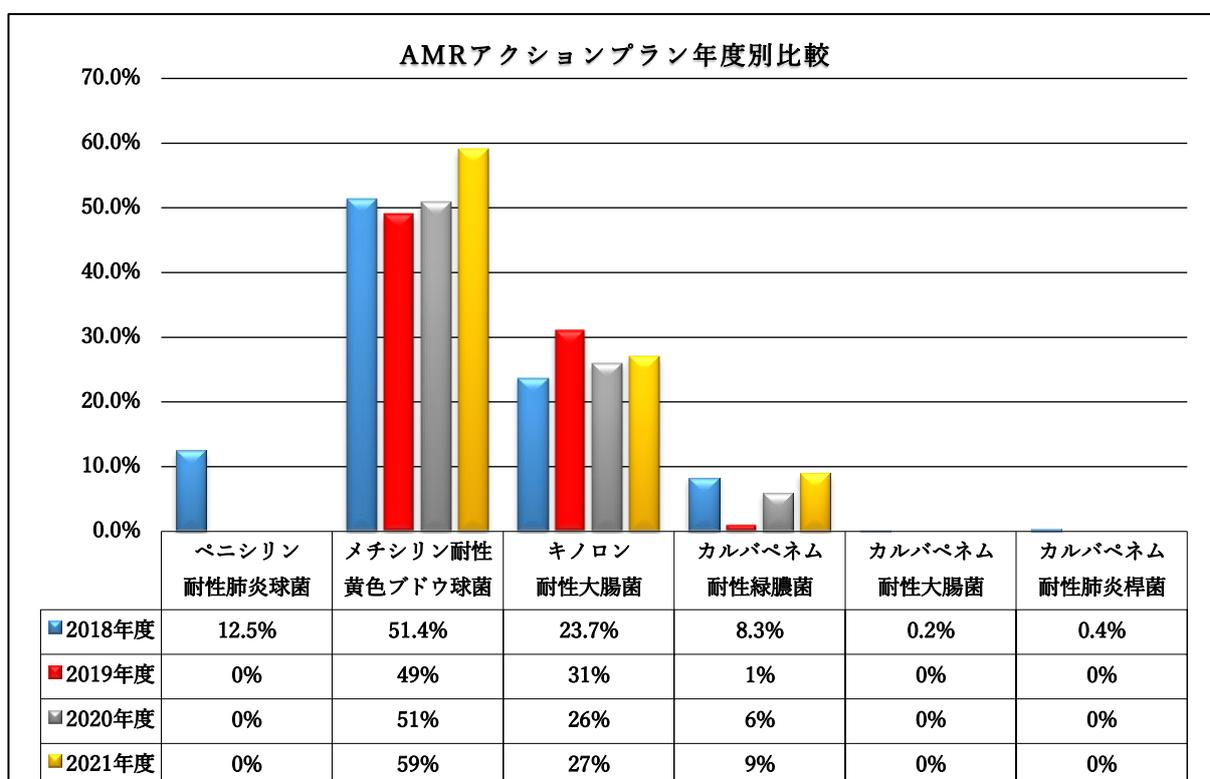
1. 新型コロナウイルス感染のクラスターを二度と起こさない
 感染対策の日を策定し (28日~3日程度) 感染対策に目を向ける
 感染対策の日の中で感染対策に関する知識・技術を盛り込み研修を行なう
 1) 2021年度は COVID-19 のクラスターは発生していない

2. ICT 活動を継続する

- 1) AMR 対策 (2016年-2020年) を継続する

国の薬剤耐性菌減少目標値に向けての成果指導の報告

肺炎球菌	ペニシリン耐性	⇒15%以下
MRSA		⇒20%以下
大腸菌	フルオロキノロン耐性	⇒25%以下
緑膿菌	カルバペネム耐性	⇒10%以下
肺炎桿菌	カルバペネム耐性	⇒10%以下



【評価】2021年度 AMRA 対策

肺炎球菌 ペニシリン耐性：0%、MRSA：59% (目標 20%以下)、大腸菌 フルオロキノロン耐性：27%、緑膿菌 カルバペネム耐性：9%、肺炎桿菌 カルバペネム耐性：0%、MRSA 増加率 67% (2021年度と2020年度比較)

2) 抗菌薬適正使用支援（AST）活動の確立

AST メンバー：専従（薬剤師）、兼任（医師、看護師、臨床検査技師）

2021年4月1日～ 加算取得開始

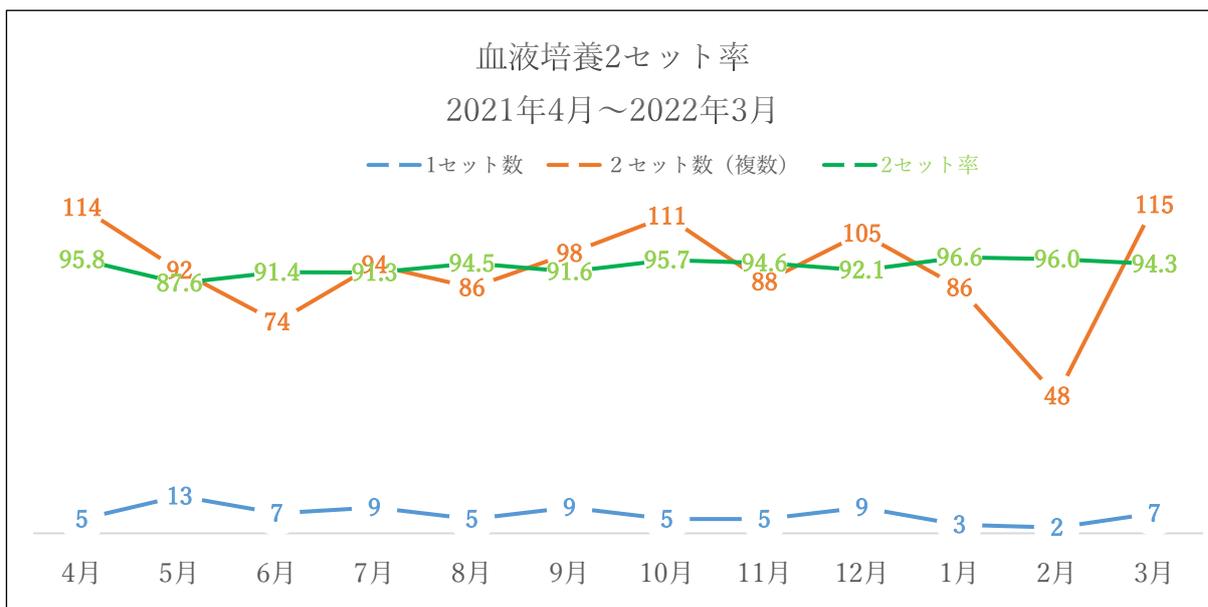
【抗菌薬適正使用の監視と指導】

- ・ 薬剤耐性及び抗微生物剤の使用量を継続的に監視、薬剤耐性の変化や拡大の予兆を適切に把握。
- ・ 特定抗菌薬使用患者（届出制・許可制薬剤）、菌血症患者を早期よりモニタリングし、必要に応じてフィードバックを行った。
- ・ 2020年度 AUD は平均 15.8、DOT は平均 30.1。
- ・ 2021年度 AUD は平均 18.7、DOT は平均 33.5。
- ・ 2020年度はコロナも影響があるので単純には比較できないが、DOT は他施設と比べても高い傾向にあるので、今後は適正使用を推進し、DOT を低下させるための働きかけが必要である。
またアンチバイオグラムを作成し、連携施設にも紹介を行った。
- ・ 外来における急性気道感染症及び急性下痢症の患者数、経口抗菌薬の処方状況については診療情報管理室から情報を得て把握を行っているが、病名と薬剤の紐付けについて状況確認が必要と考えられ、次年度の課題とする。
- ・ 2021年12月9日には「外来気道感染症における抗菌薬適正使用について」をテーマに福岡西部地区医療連携講演会を行った。
- ・ 抗菌薬採用については、2021年12月開催の薬事委員会でオグメンチン配合錠 250RS が採用になりユナシン錠が採用中止、その他第2世代セフェム系抗菌薬のセフゾンカプセルとメイアクトMS小児用細粒、リンコマイシン系抗菌薬のダラシカプセルが採用中止となった。
また、以前の薬事審議会で採用中止が決定していた第2世代セフェム系抗菌薬のセフォチアムが在庫終了に伴い、採用中止となった。

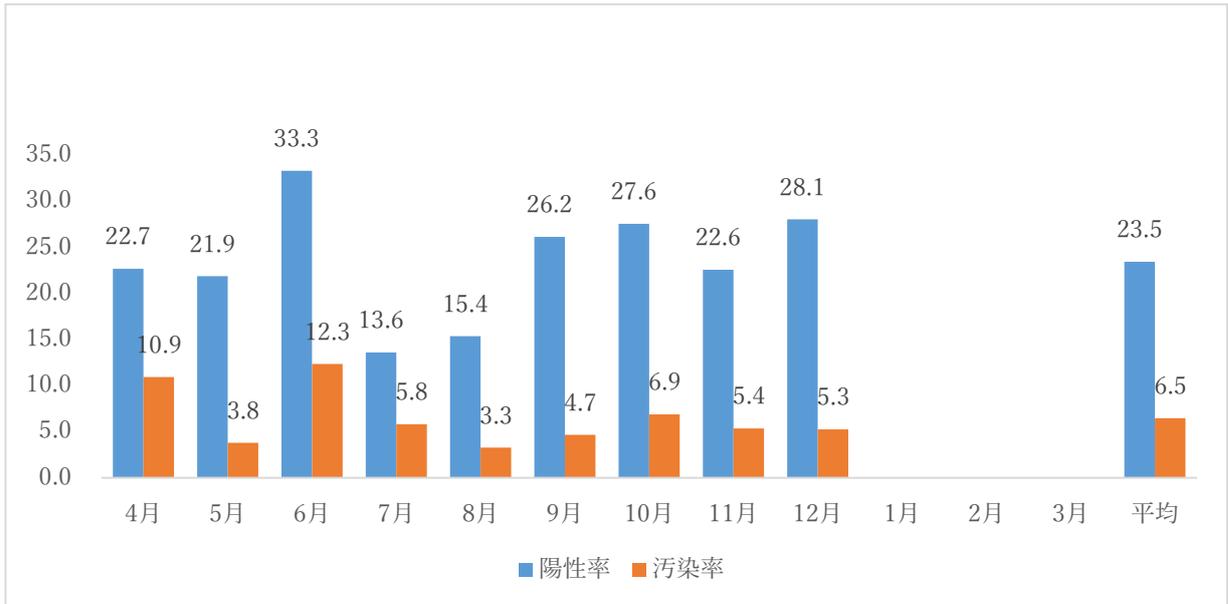
血培2セット率（目標90%以上）

汚染率低減に向けての取り組み（2022年1月～）

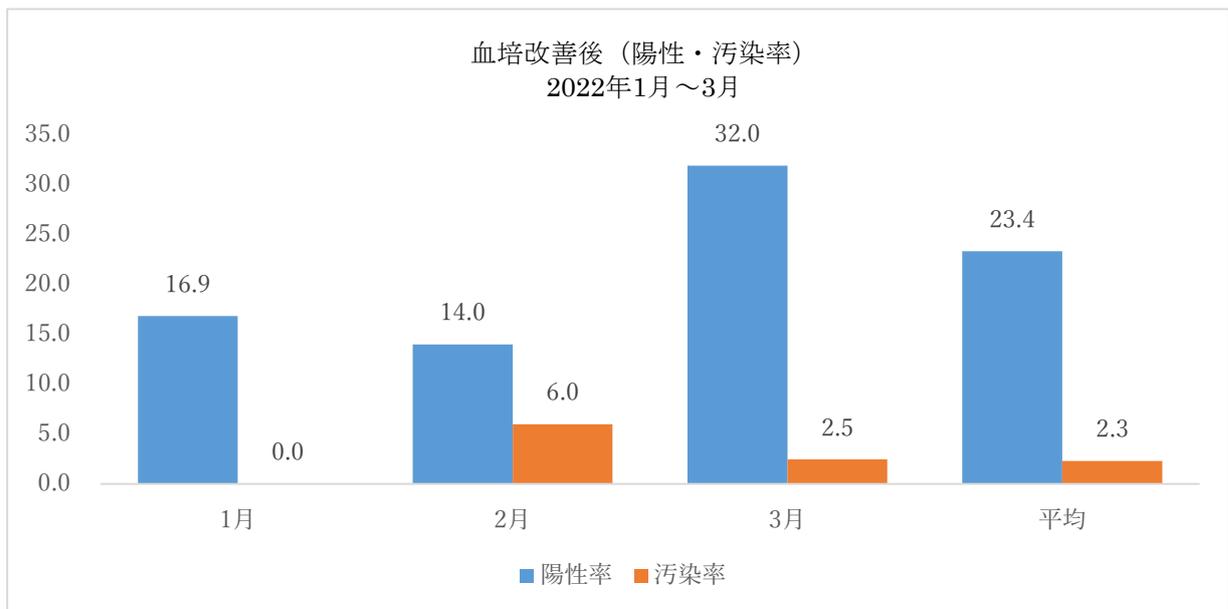
- ① 血液培養での汚染率調査
- ② 皮膚消毒剤、採取手順、血培採取の適正化
- ③ 改善前後結果報告（院内研修）



【評価】 2021 年度 2 セット率：93.4% （2019 年度 2 セット率：91.3%）



【評価】 改善前陽性率と汚染率：陽性率：23.5%、汚染率：6.5%



【評価】 改善後（3 ヶ月）陽性率 23.4%、汚染率 2.3%と汚染率は減少傾向

陽性率は改善前と変化無く 23%と高い

減少 = (6.5-2.3)/6.5 (64.6%)

（ガイドライン陽性率 5～15%、汚染率 2～3%が適切と言われている）

【評価】 取り組みは継続し陽性率の調査（汚染菌が含まれていないか？）を見ていく

3) 手指消毒剤使用量を西部地区サーベイランスの 2020 年平均値（15ml）以上にする

3. 細菌検査部門での活動

- 1) 薬剤耐性菌サーベイランスの継続
- 2) JANIS サーベイランス継続
- 3) COVID-19 抗体価検査を開始（機器導入には至らなかった）
- 4) J-SIPHE サーベイランスの継続
- 5) 遺伝子検査機器の導入

2020年5月にLAMP法でのリアルタイム濁度測定器を導入

2021年7月にRT-PCR法を行うスマートジーンを導入

2021年8月、10月にNEAR法で測定を行うID-NOWを導入

2022年3月にRT-PCR法の測定を行うジーンキューブを導入

4. 感染防止対策加算 I の継続

1) 感染防止対策加算 1-1 相互ラウンド(ZOOM)

和白病院 ←————→ 福岡記念病院

開催日：2021年11月18日 14:00～15:30

コロナ禍のため、事前に双方に質問等を提示しZOOM会議で回答を行い後日評価提出とした。

2021年度相互ラウンドでの指摘項目（課題）改善の取り組み

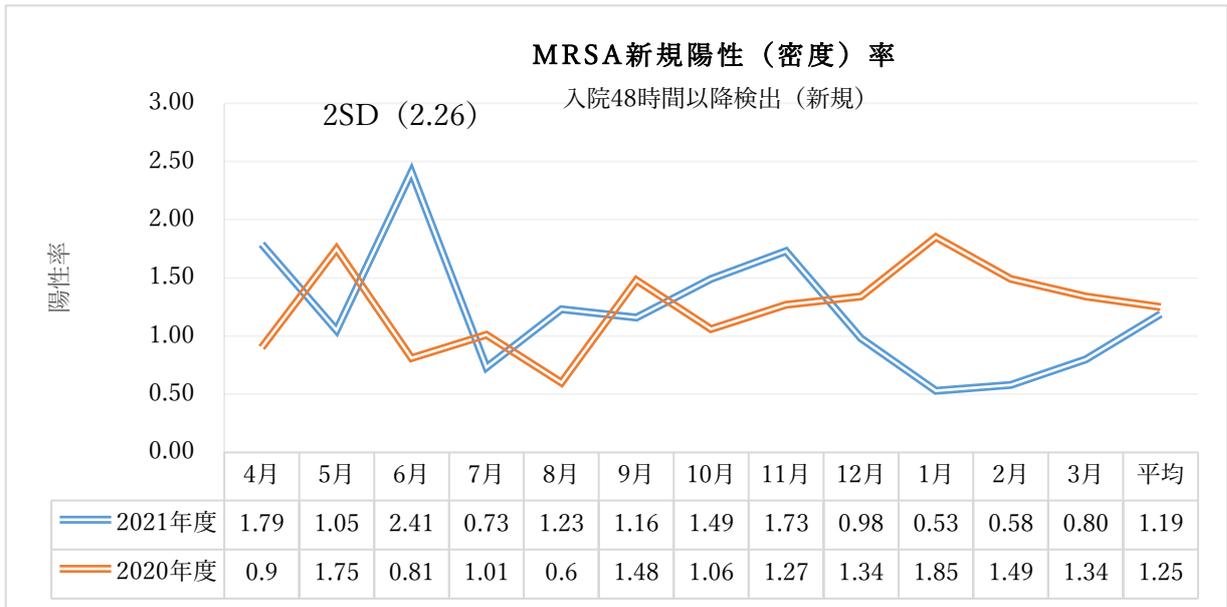
2) 感染防止対策加算 1-2 連携

- ① 年4回福岡記念病院主催でカンファレンスを行ない施設間の感染対策実施状況について意見交換を行なう
- ② 連携施設
感染防止対策加算 1 福岡記念病院
感染防止対策加算 2 博愛会病院、南川整形外科病院、福岡山王病院
(福岡山王病院：自施設での感染対策向上加算 1 取得に向け脱退予定)
- ③ 福岡記念病院主催カンファレンス 4回/年実施
第1回：6月2日（火）17:00～ZOOM会議
第2回：10月5日（火）17:00～ZOOM会議
第3回：12月7日（火）17:00～ZOOM会議
第4回：令和4年3月 日（火）17:00～ZOOM会議
- ④ 西部地区合同カンファレンス
4月27日（火）福岡大学病院担当 実施
- ⑤ 福岡地区ネットワーク(ICT交流会)
10月
2月頃

5. 院内サーベイランス

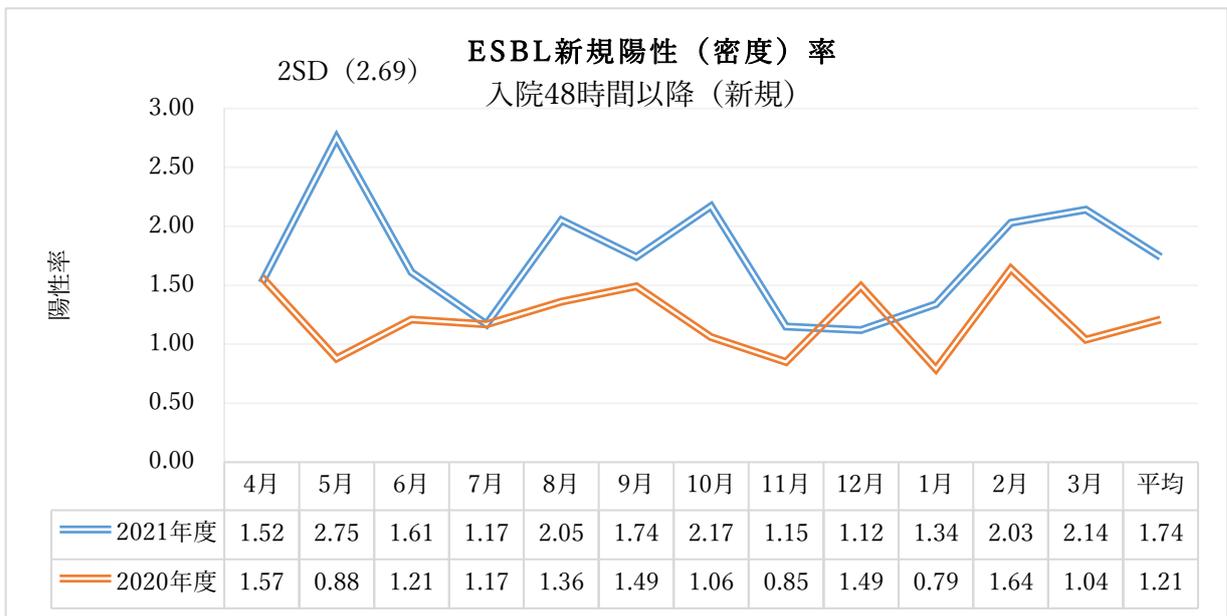
1) 薬剤耐性菌サーベイランス

① MRSA 新規陽性率



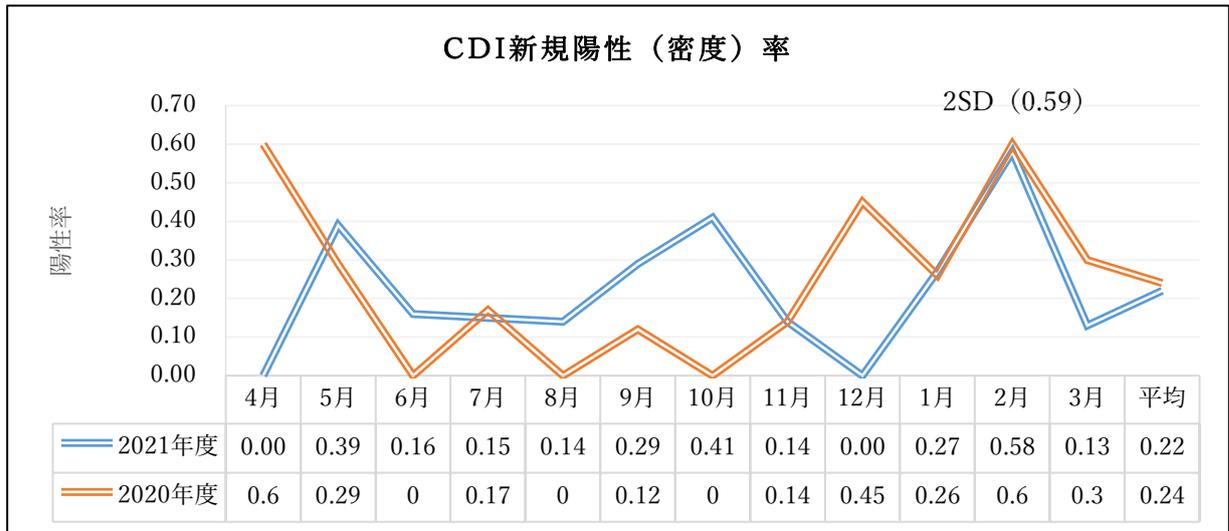
【評価】2021 年度発生率：平均 1.19、（2020 年度発生件数平均：1.25）で変化無く推移
6月の発生率：2.41、2SD：2.26 超を示した

② ESBL 産生菌新規陽性率



【評価】2021 年度発生率平：平均 1.71、（2020 年度発生率：平均 1.21）若干上昇傾向で推移
5月発生率 2.75、2SD：2.69 の近位置を示した

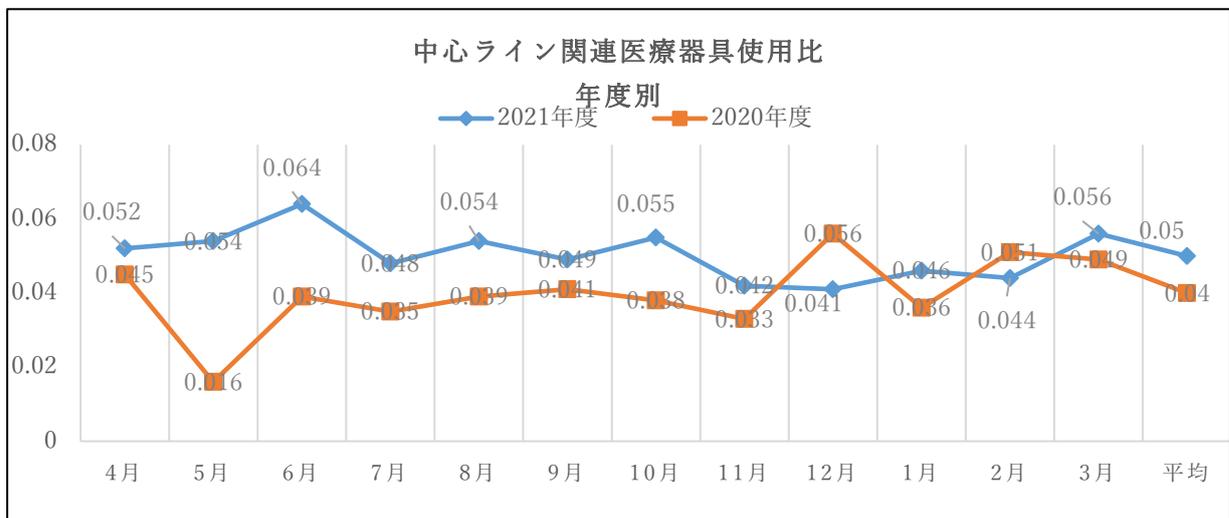
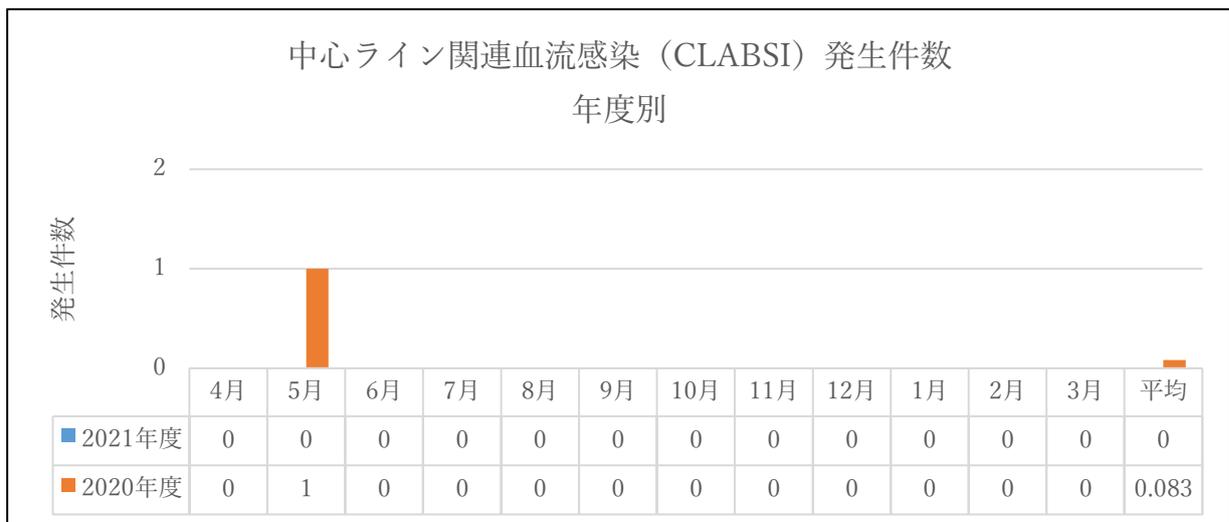
③ CDI 新規陽性率



【評価】 2021 年度発生率：平均 0.22 （2020 年度発生率：0.24）と変化無く推移
2 月発生率 0.58、2SD：0.59 を示した

2) 医療関連感染サーベイランス

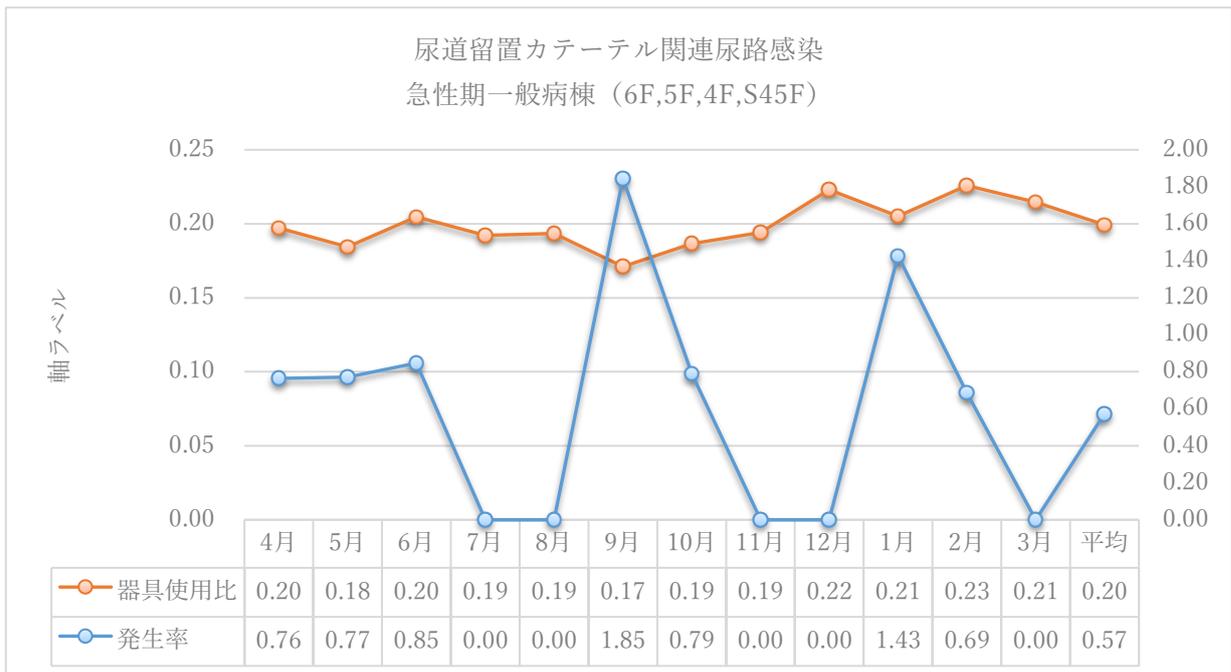
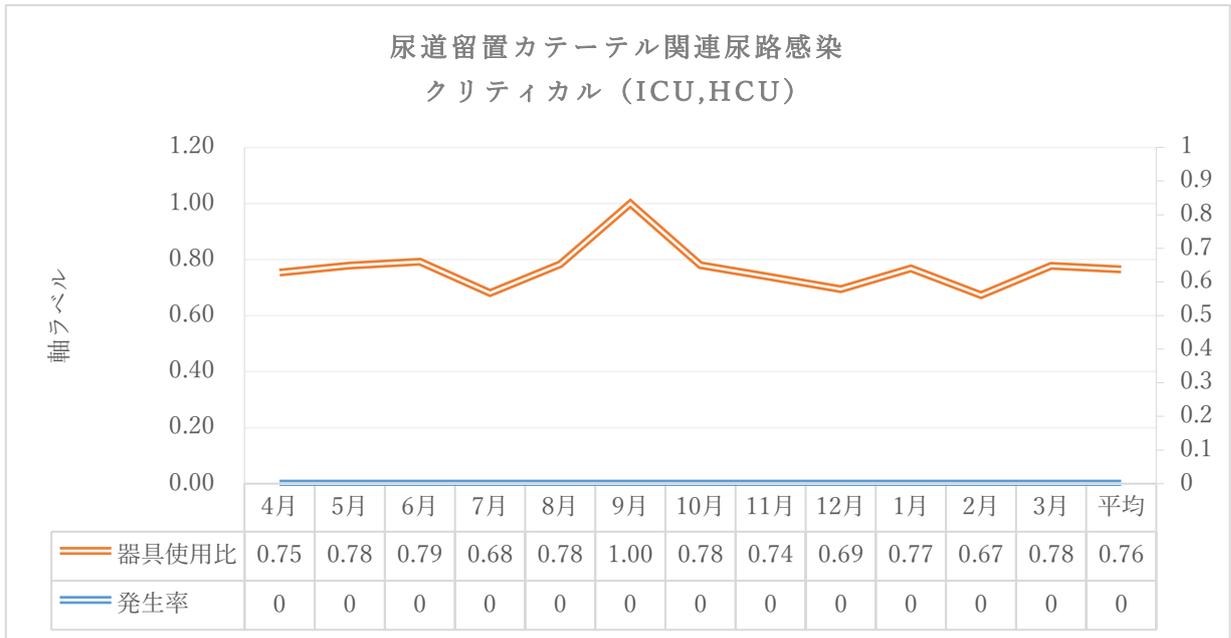
中心ライン関連血流感染発生率（対象：CV、バスキャス）



【評価】 2021 年度 CLABSI 発生 0 件（2020 年度 CLABSI 発生 1 件）

中心ライン関連医療器具使用比：2021 年度平均 0.05 （2020 年度平均 0.04）

① UTI 発生率、器具使用比



【評価】 2021 年度クリティカル使用比 0.76 発生率 0（2020 年度使用比 0.76、発生率 0.23）

2021 年度 2020 年度 器具使用比に変化無し、発生率 0 件で減少

2021 年度急性期一般病棟 使用比 0.20 発生率 0.57（2020 年度使用比 0.21、発生率 0.49）

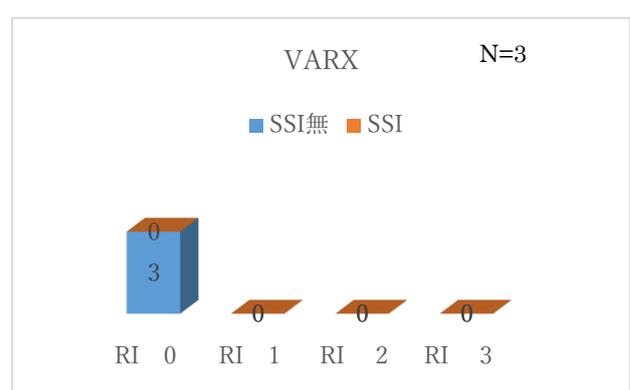
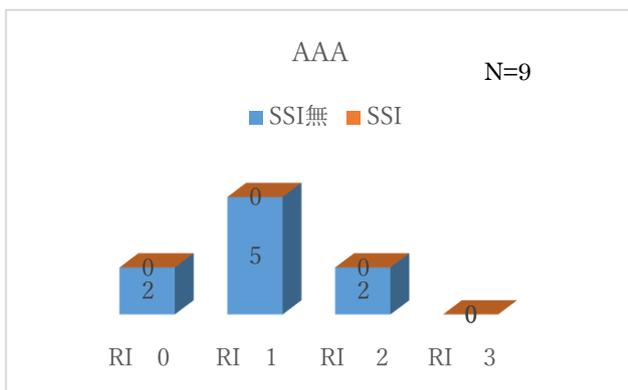
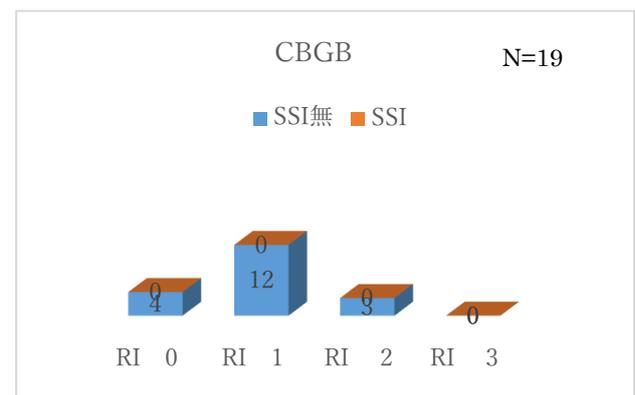
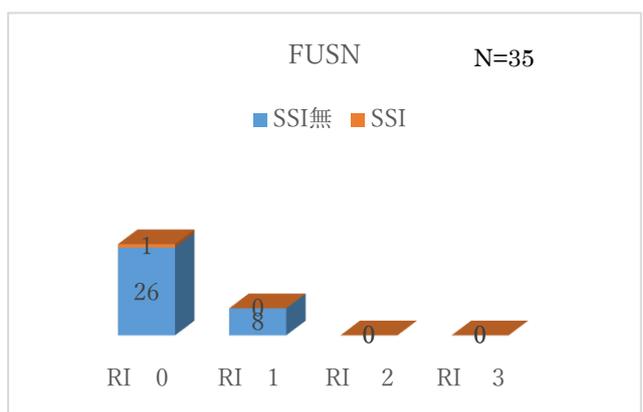
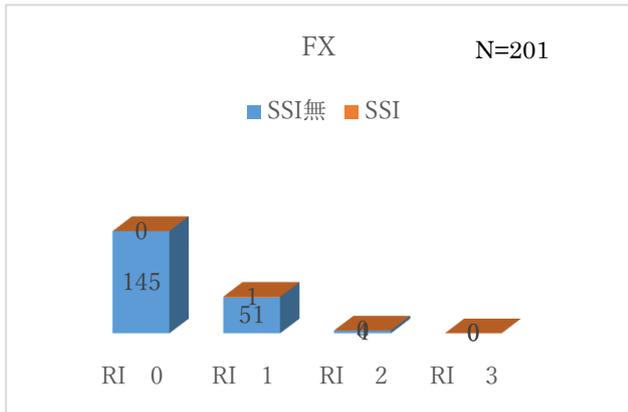
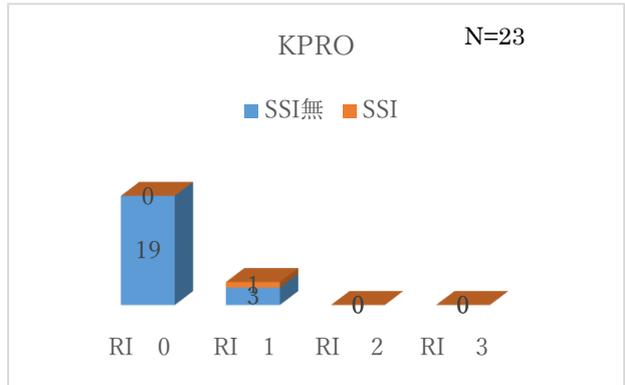
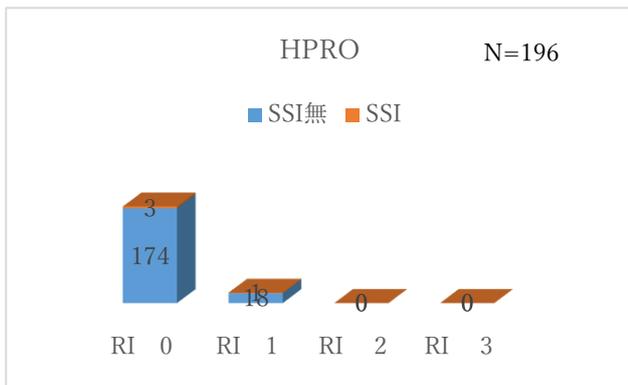
2012 年度 2020 年度 器具使用比は変化なし、発生率はわずかに減少

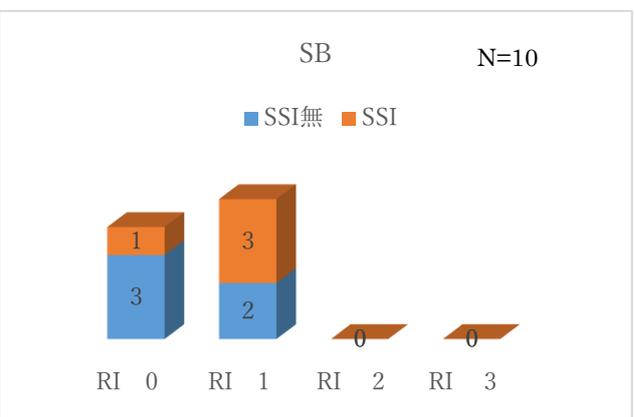
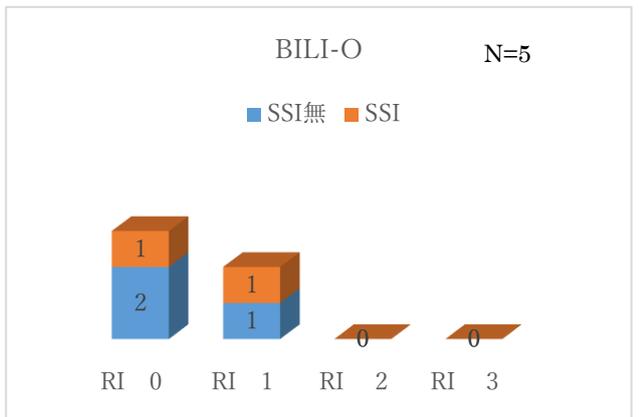
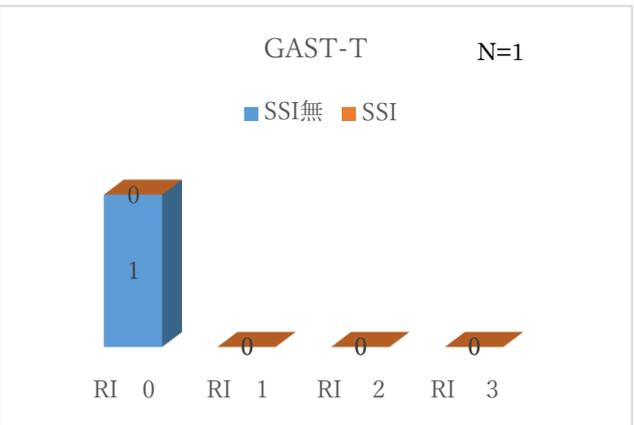
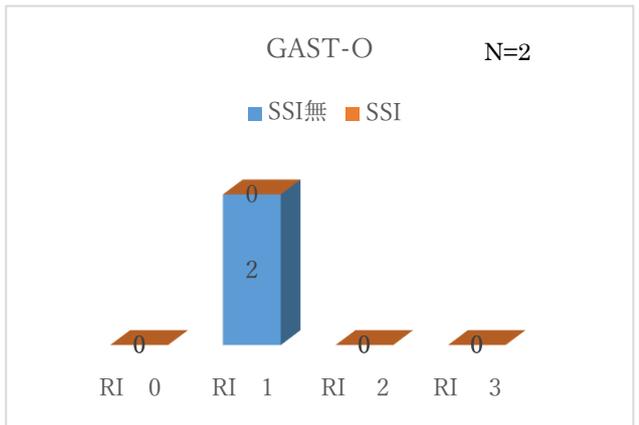
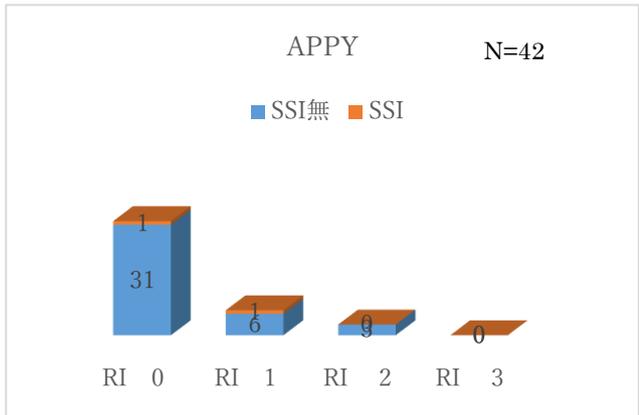
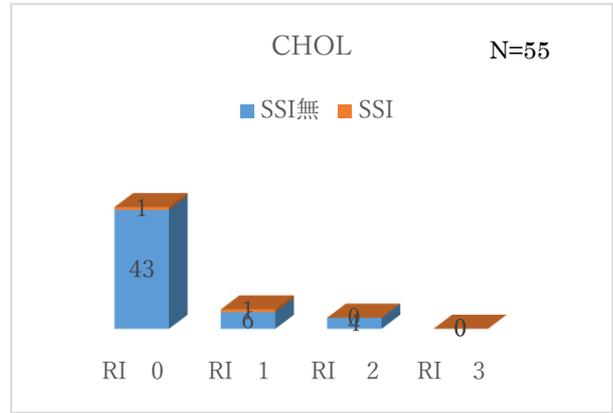
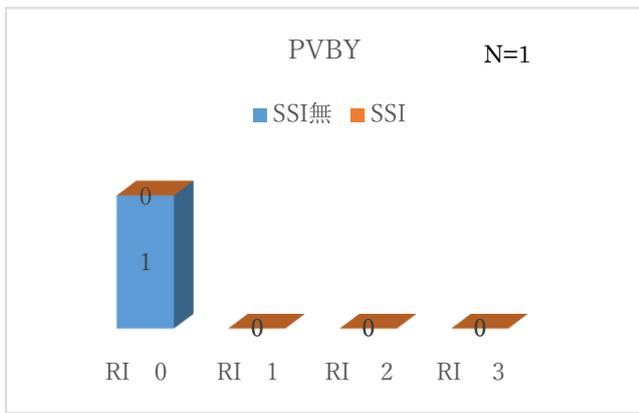
② 手術創感染（SSI）

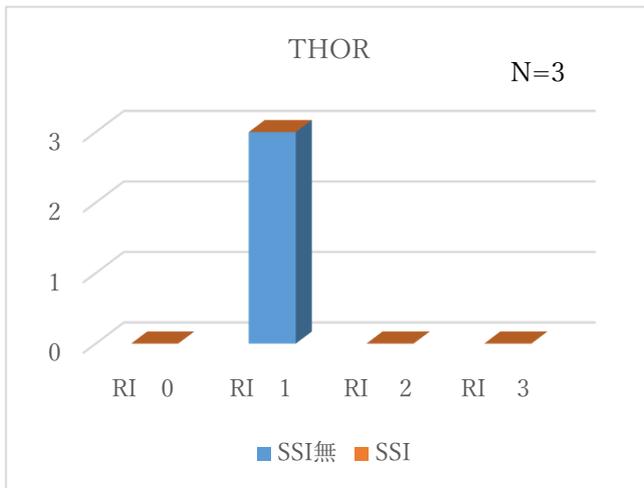
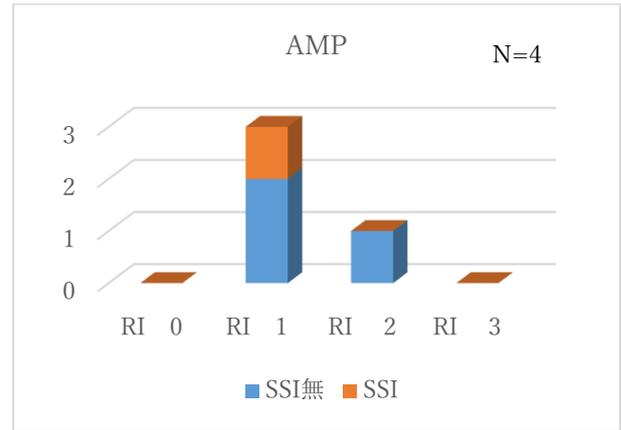
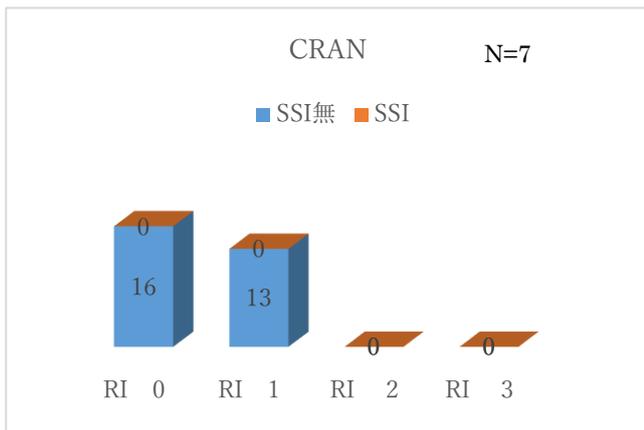
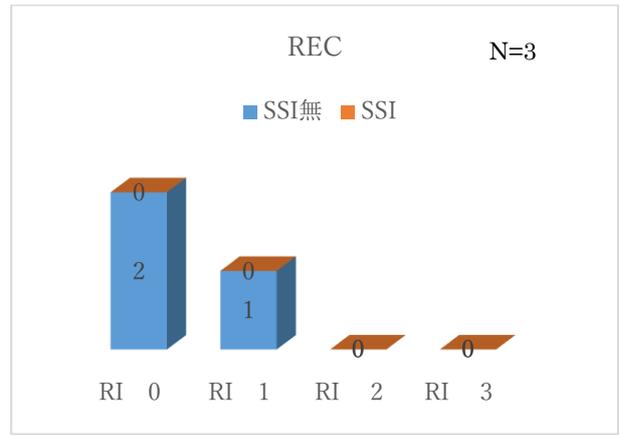
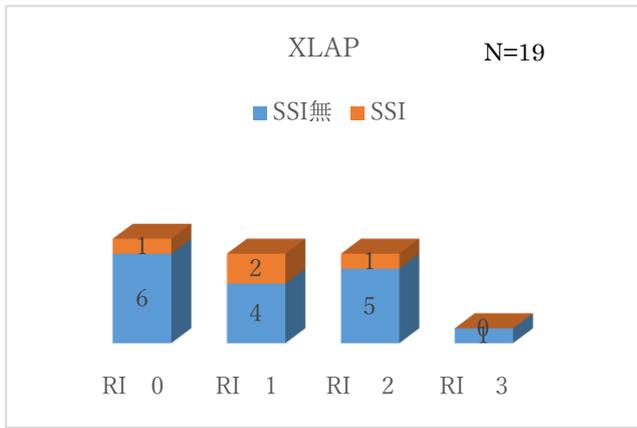
リスクインデックス（Risk Index:RI）による分類

ASA（米国麻酔学会）の身体状態分類（0 点または 1 点）＋創分類（0 点または 1 点）＋手術時間（0 点または 1 点）

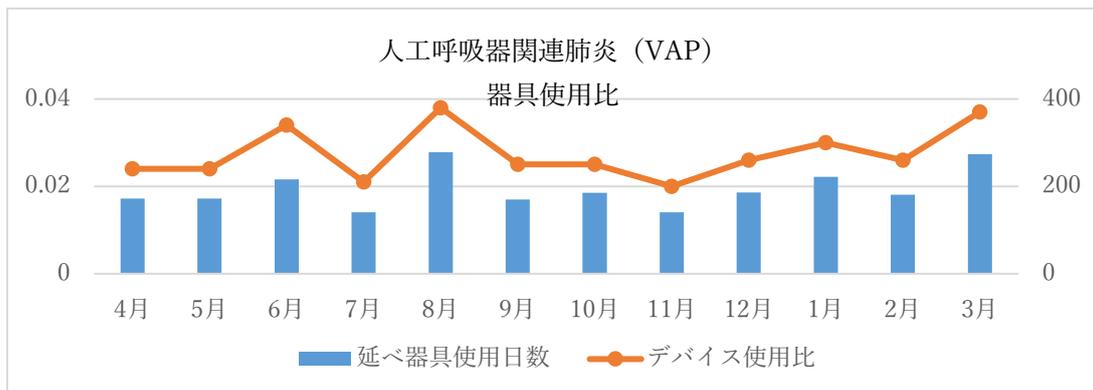
この総得点（0 点～3 点）をリスクインデックスという







① VAE 発生率

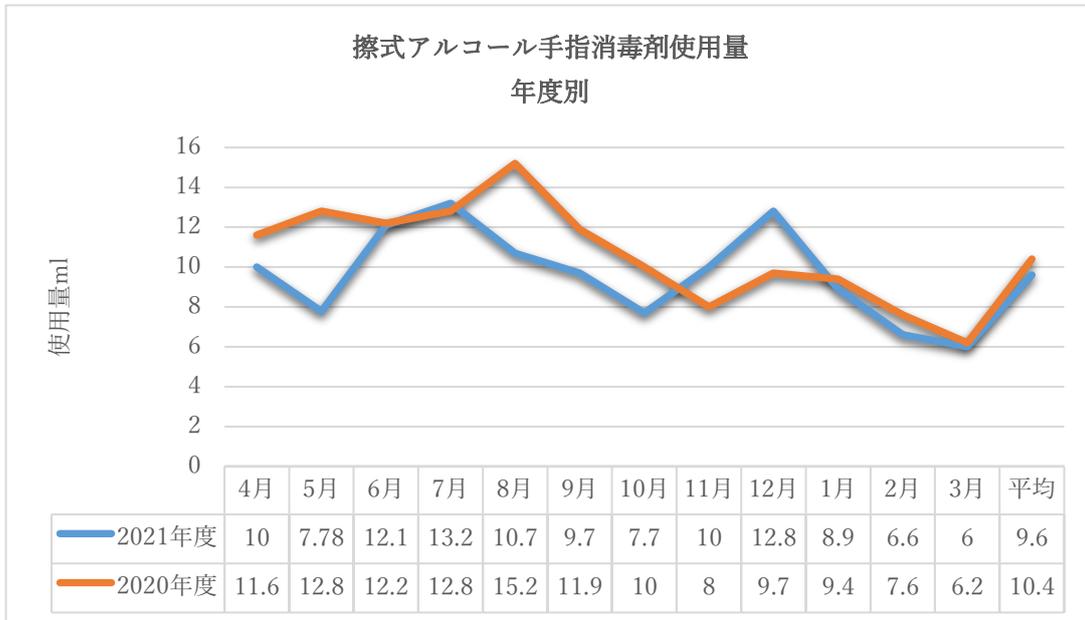


【評価】2021年度VRP器具使用比0.028、VAP発生みられず
 VAE：人工呼吸器関連事象サーベイランスとして実施
 ※評価が不十分なので令和4年度の課題とする

3) 手指消毒剤使用量サーベイランス

① 2021年4月～2022年3月使用量

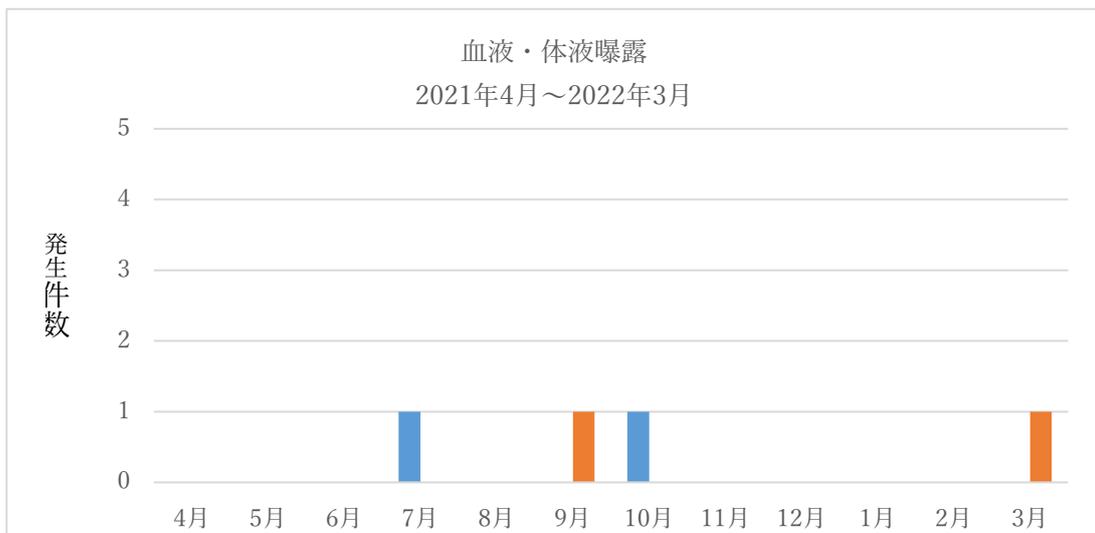
月別払い出し量/月別入院患者延べ患者×1000（1日/1患者の使用量）



【評価】2021年度使用量：平均9.6ml/1患者/日（2020年度平均使用量：平均10.6ml）
年間目標15ml/1患者/1日としていたが目標使用量に至らず

4) 血液/体液曝露サーベイランス

- ① 針刺し事例件数
- ② 粘膜曝露事例件数



【評価】2021年度針刺し事例2件、粘膜曝露2件（2021年度針刺し10件、粘膜曝露2件）
 針刺し80%の減少【減少=(10-2)/10×100】、粘膜曝露変化無し

針刺し分析



【課題】安全装置付き血液ガス採取キットの検討

5) マニュアル作成及び改訂

- ① 院内感染対策マニュアル
- 6) JANIS サーベイランス参加(SSI)予定
- 7) J-SIPHE に参加

6. 全職員への教育研修

研修参加率 100%

2021年度 感染防止対策研修(全体) 総数 657名、2回参加 644名 **参加率 98%**

部署	人数	2回参加数	2回参加率	部署	人数	2回参加数	2回参加率
医師	55	54	98.2	外来	26	26	100.0
研修医2年	6	6	100.0	救急外来	23	23	100.0
研修医1年	6	6	100.0	OPE	21	21	100.0
診療部合計	67	66	98.5	ICU	20	20	100.0
薬局	24	24	100.0	HCU12	25	25	100.0
放射線科	26	26	100.0	HCU6	14	14	100.0
臨床検査科	15	15	100.0	南4F	29	29	100.0
臨床工学技士室	10	10	100.0	南5F	14	14	100.0
リハビリテーション科PT	27	27	100.0	4F	37	37	100.0
介護福祉士	1	1	100.0	5F	51	51	100.0
リハビリテーション科OT	13	13	100.0	6F	49	46	93.9
リハビリテーション科ST	4	4	100.0	看護部	309	306	99.0
栄養科	5	5	100.0	看護部長室	2	2	100
視能訓練士室	1	1	100.0	医療安全管理室	1	1	100
歯科衛生士室	2	2	100.0	感染制御部	2	2	100
医療技術部合計	128	128	100.0	その他	5	5	100
部署	部署数	2回参加数	2回参加率	部署	部署数	2回参加数	2回参加率
事務長	1	1	100.0	図書室	1	1	100.0
総務課	19	19	100.0	電子カルテ管理室	2	2	100.0
医療企画課	1	1	100.0	診療情報管理室	6	6	100.0
国際医療担当室	2	2	100.0	地域医療連携室	5	5	100.0
財務課	4	4	100.0	医療ソーシャルワーカー	6	6	100.0
設備管理課	3	3	100.0	救急部管理室	4	4	100.0
資材管理課	2	2	100.0	事務部合計	95	93	97.9
医事課	20	18	90.0	2回参加率	314	311	99.0
医師事務作業補助室	19	19	100.0				

部署	人数	2回参加数	2回参加率
ソラスト	11	11	100.0
JR九州セコム	4	4	100.0
ダスキンヘルスケア	19	14	73.7
安田建物管理	3	2	66.7
日清医療食品	16	15	93.8
委託業者	53	46	86.8
全体参加率	657	644	98.02

【評価】 目標研修参加率（2回/1人/年）100%→98%ほぼ達成

全体研修					
開催日	研修項目	対象	人数	時間	担当
4/1	オリエンテーション	令和3年度新入職者	101名	9:40~10:00	向野医師、河野
4/2	マスク/3密対策	全職員	名簿	イントラネット	感染対策委員会
5/2	感染経路別予防策/変異株	全職員	名簿	イントラネット	感染対策委員会
6/2	COVID-19受け入れの現状 イベルメクチン単独療法	全職員	名簿	イントラネット	感染対策委員会
7/2	COVID-19患者へのNHF使用 NHFを用いたCOVID-19肺炎救命症例	全職員	名簿	イントラネット	感染対策委員会
8/2	1から学ぶ細菌学/アンチバイオグラム	全職員	名簿	イントラネット	感染対策委員会
8月	新型コロナウイルス感染症に関する特別講習会				感染対策委員会
9/2	当院における抗菌薬感受性の動向	全職員	名簿	イントラネット	感染対策委員会
10/2	薬剤耐性菌対策1・薬剤耐性菌対策2	全職員	名簿	イントラネット	感染対策委員会
11/2	検体別薬剤耐性菌検出状況 βラクタム系抗菌薬 他	全職員	名簿	イントラネット	感染対策委員会
12/2	血液培養検査：陽性率と汚染率 血液培養検査：採取方法の適正化	全職員	名簿	イントラネット	感染対策委員会
1/2	結核菌検査・ 肺結核（疑い）感染防止対策	全職員	名簿	イントラネット	感染対策委員会
2/2	MRSA 検出状況 抗MRSA薬,TDMについて	全職員	名簿	イントラネット	感染対策委員会
3/2	血培検査汚染防止・血培検査採取手順	全職員	名簿	イントラネット	感染対策委員会
看護部研修					
4/1	看護部集合研修	新入看護者	58名	14:15~15:15	河野
6/18	感染管理 I-B	レベル1-B	27名	17:00~17:20	河野
8/4	感染管理	看護補助者		15:00~15:30	河野
12/17	感染管理 II	レベルII	113名	17:00~17:30	河野
9/23	感染管理 III	レベルIII	44名	17:00~17:30	河野
10/29	感染管理 IV	レベルIV	19名	17:00~17:30	加村
12/3	感染管理 I	レベル1		17:00~17:30	河野
R4/3/24	静脈エキスパート	エキスパート	11名	17:00~17:40	加村
委託業者向け研修					
12/3	感染管理	ダスキン	14名	11:30~12:00	河野
12/3	感染管理	安田建物管理	2名	11:30~12:00	河野
3/30~31	感染管理	ダスキン	19	11:30~12:00	河野
3/30~31	感染管理	安田建物管理	2	11:30~12:00	河野
学校講師					
11/11	感染管理	2期生	78名	9:00~12:10	加村

7. 学会参加

- 1) 日本環境感染学会 参加せず
- 2) 感染管理認定看護師学術集会 参加せず
- 3) 第 95 回日本感染症学会学術講演会 / 第 69 回日本化学療法学会回日本化学療法学会 合同学会参加

8. 感染管理認定看護師 10 月取得予定

取得

医療安全管理室

1. 病院理念と医療安全に関する活動

○活動目標

- 1) チーム医療の強化・多職種でのカンファレンス実施。職種間のコミュニケーションと連携を図る
- 2) インシデントアクシデント報告を積極的に行なう職場風土の構築
- 3) レベル 3a 以上の件数を前年度より 3a : 20 件、3b : 10 件減少させる
- 4) 5S 活動を推進し、患者が安全で快適に過ごせる環境整備を職員全員で取り組む事ができる
- 5) 医療安全に関するマニュアルの見直し及び周知

○活動計画

- 1) 当院の現状把握と部署別のリスクを把握し、医療安全管理委員会・医療安全推進委員会と連携を図りながら医療安全活動を推進していく
- 2) 集計結果を毎月イントラに掲載し当院の現状を職員と共有する
- 3) 偶数月に医療安全ニュースを発行する
- 4) e-learning を活用し、医療安全に関する院内研修の実施
- 5) 日本医療機能評価機構や PMDA、医療事故調査センターなどからの医療安全に関する情報をイントラネットへ掲載し提供する

○目標評価

- 1) 多職種でラウンドを実施しているが、毎月指摘される場所は同じで改善がみられなかった。結果を部署に伝えるだけでは改善がないためどのようにアウトプットしていけばよいか課題である。1 年間通して改善したい項目を絞って、どのように取り組み改善されているかを評価できるようにしていく。また改善がみられない場合はどこに問題があるかをカンファレンスしていく。
- 2) 部署別の報告件数は下記表の通りである

医師	4 階	5 階	6 階	S4 階	S5 階	ICU	H12	H6	S2	救外	外来	オペ
27	215	72	133	55	21	121	18	11	25	89	28	11
薬局	検査	臨工	放科	リハ	栄養	医事	総務	医補	設備	看護部		
81	11	7	37	29	13	21	0	4	2	1		

前年度に比べると全体的に報告数が増加。特に医師・医事課の報告書提出件数が増加しており、今後も、報告書の提出が増加するよう働きかけていく。

- 3) R3 年度の報告書総数は 982 件。

レベル 3a : 95 件、レベル 3b : 20 件、オカレンス 9 件

(前年度レベル 3a : 61 件、レベル 3b : 23、オカレンス 11 件) 目標達成はできず。

- 4) 5S 活動を推進しているが、継続が困難。特に設備関連の問題が多く、引き続き環境整備を徹底し、環境要因による転倒事案が減少できるように継続した取り組みが必要と考える。
- 5) 医療安全に関するマニュアル改訂は必要時実施

2. 医療安全における教育活動

○全職員合同研修参加率 60%以上

2020年度は COVID-19 クラスター発生、感染拡大防止のため研修は中止となった。

2021年度も COVID-19 感染拡大防止のため集合研修ではなくイントラネット上で各自研修とした。

第1回 閲覧期間 2022年2月18～2月26日

第2回 閲覧期間 2022年3月23～3月31日

○結果：2月 計593名 閲覧数540名 閲覧率91%

3月 計582名 閲覧数486名 閲覧率83%

・看護補助者：集合研修 7月21日 計26名 参加数26名 参加率100%

・看護部ラダー別（I、I-b、II、III、IV）集合研修実施 ※ラダーI-bのみ資料配布（課題）

看護部対象トピックス研修（心電図モニター、輸液ポンプ・シリンジポンプ、人工呼吸器）

全職員研修は集合研修ができずあくまでもパソコン上での閲覧率。

集合研修が未だに困難であるため、動画を取り入れながら研修方法や内容を検討する必要があると考える。

【研修開催日とテーマ一覧表】

開催日	研修テーマ	参加者数	講師
4月1日	新入職 オリエンテーション	新入職員	金生裕子、永利美由紀
4月1日	新人看護師研修	新人看護師 50名	金生裕子、永利美由紀
6月4日	看護部クリニカルラダーI	新人看護師 50名 48/50 (96%)	永利美由紀
7月21日	看護補助者	看護補助者 26名 26/26 (100%)	永利美由紀
8月26日	看護部医療機器研修 トピックス 生体情報モニター 資料配布、アンケート収集	新人看護師 前回欠席者 69名 63/69 (91%)	臨床工学技士 山内・鈴木・高宮
8月26日	看護部医療機器研修 トピックス 生体情報モニター 資料配布、アンケート収集	新人看護師 前回欠席者 69名 63/69 (91%)	
9月28日	看護部クリニカルラダーI-b	看護師 31名 29/31 (93%)	永利美由紀
11月25日 12月2日	看護部クリニカルラダーII	看護師 75名 75/114 (65%)	永利美由紀
12月27日	看護部クリニカルラダーIV	看護師 19名 15/19 (78%)	永利美由紀
1月18日	看護部医療機器研修 シリンジ・輸液ポンプ ※資料配布	新人看護師 前回欠席者 69名 69/69 (100%)	臨床工学技士 山内・鈴木・高宮
2月18日 ～2月26日	全職員 ※イントラネット	全職員 593名 540/593 (91%)	永利美由紀、下山真智子
2月18日	地域連携施設	地域連携スタッフ	永利美由紀、上釜育美
3月18日 ～3月30日	看護部クリニカルラダーIII ※資料配布、資料にて研修終了の報告義務	看護師 43名 40/43 (93%)	永利美由紀
3月23日 ～3月31日	全職員 ※イントラネット	全職員 582名 486/582 (83%)	永利美由紀、下山真智子
3月23日	静脈注射におけるリスクマネジメント	看護師 11名 11/11 (100%)	永利美由紀

3.医療安全に関する会議報告

<医療安全管理委員会>

毎月第3金曜日開催（定例会議12回開催）。

○構成委員：理事長、病院長、副院長（7名）、院長補佐、看護部長、薬局長、放射線科技師長、医療技術部長、臨床工学技士長、事務長、医事課長、経営企画課長、総務課、国際医療担当室、医療安全管理者の計21名。

○定例会議出席率

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
85%	80%	61%	71%	66%	66%	71%	76%	71%	71%	71%	66%

平均 71.25%

○臨時会議開催4回（4/12, 4/13, 10/29, 1/20）

<医療安全推進会議>

毎月第2金曜日（定例会議12回開催）。

○構成委員：医師2名、看護師11名、医療技術部6名、事務6名、医療安全管理者の計26名

○定例会議出席率

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
80%	96.1%	81.4%	100%	76.9%	88.4%	96%	92.3%	96%	92.3%	84.6%	88.4%

<専門部会>

1) 転倒転落予防検討部会

目標：① 転倒転落件数135件以下、レベル3a以上を前年度より5件以下減少

月別転倒転落発生率 2.17 以下

② ベッドサイドの環境整備

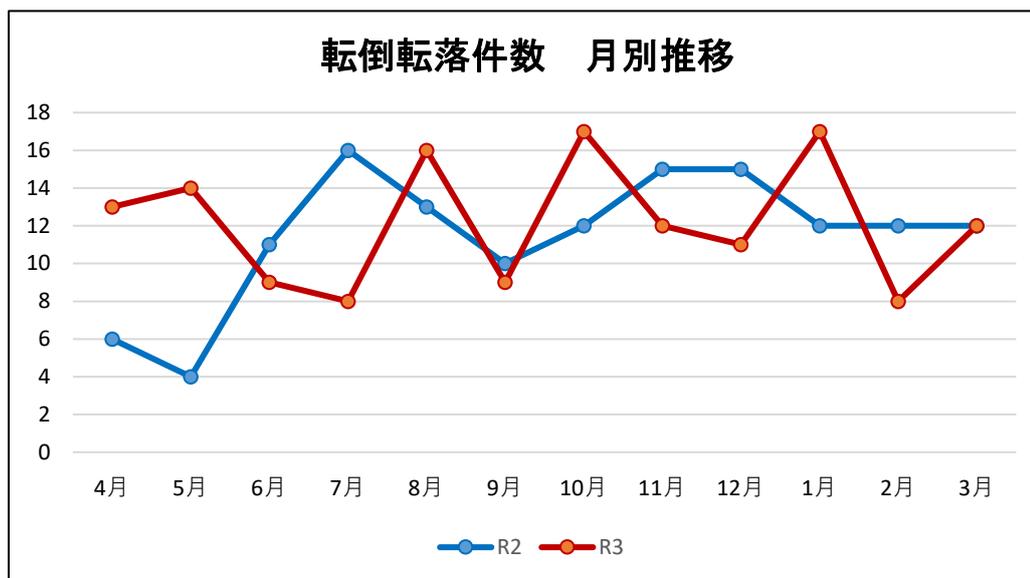
- ・ベッドのストッパーをかける。
- ・床頭台のストッパーをかける。
- ・尿器の位置を使いやすい場所に置く。
- ・排泄介助にはそばを離れない

活動内容：第1火曜日 16:00～16:30 複数部門ラウンドを実施

※中間・年間活動評価の実施

結果：令和3年度月別転倒報告

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
件数	13	14	9	8	16	9	17	12	11	17	8	12	146
発生率(%)	1.79	1.83	1.44	1.17	2.18	1.3	2.3	1.73	1.53	2.27	1.15	1.6	1.69



- ・転倒転落件数は、R3年度 146 件（R2 年度 139 件）未達成
- ・レベル 3a:13 件、レベル 3b:7 件（R2 年度 3a:5 件 3b:3 件）未達成

事象レベル別

	1	2	3a	3b	
転倒	76	29	9	6	120
転落	15	6	4	1	26
計	91	35	13	7	146

骨折件数 6 件（0.07‰）うち、手術となった件数 5 件（0.058‰）

頭蓋内出血 1 件（0.011‰）

- ・月別転倒転落発生率 2.17 以下：9/12 ヶ月達成 年間平均転倒転落発生率 1.69%

評価

①数値上は未達成。しかし、レベル 3 ab の転倒転落は 90 歳代以上が約半数を占めている結果からも、入院患者における年々の高齢化に対応した目標設定が必要と考える。

今後は、転倒転落件数のみに視点を当てるのではなく、事象レベルの低値化や全国・周辺病院との比較を行い、目標・対策を検討していく必要がある。

機器の不備や物品不足などハード面が問題の事案は積極的に対応して、改善していく。

②ベットサイドの環境整備

- ・ベッドのストッパー外れがラウンドで 1~2 件あり、適時声かけを継続する。
- ・床頭台のストッパーはまれにあり、また固定されていても容易に動く
- ・尿器の位置の不備で 1 件報告あり、しかし尿器の破損や老朽感が見られるため、購入検討
- ・排泄介助にそばを離れたことによる転倒 1 件、しかし排泄以外では 5 件あり
- ・介助方法の共有手段（ADL 一覧表）があるが院内で使用されていないことがある

2) 注射与薬検討部会

目標：①与薬忘れ（注射・内服）30 件以下

②与薬量・薬品間違い 10 件以下

③リーダーチェックの徹底

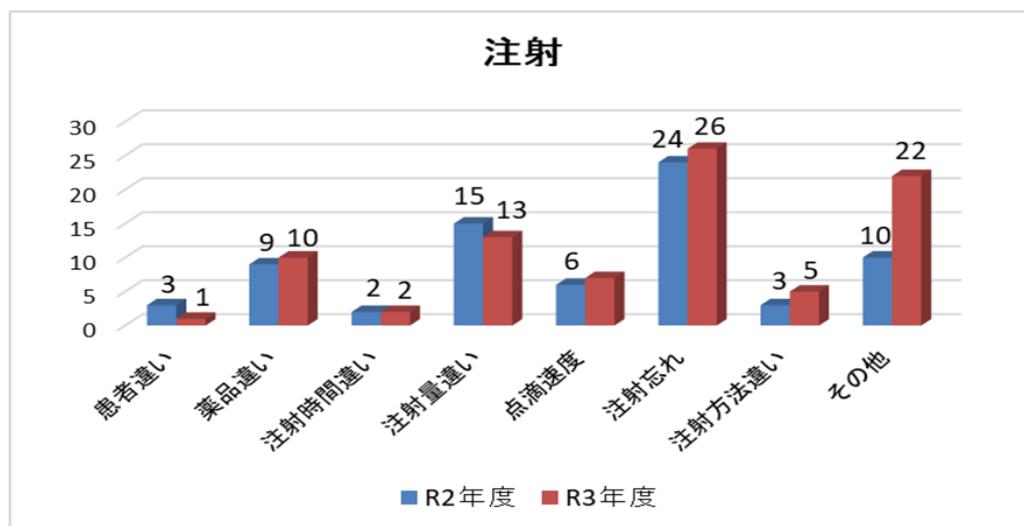
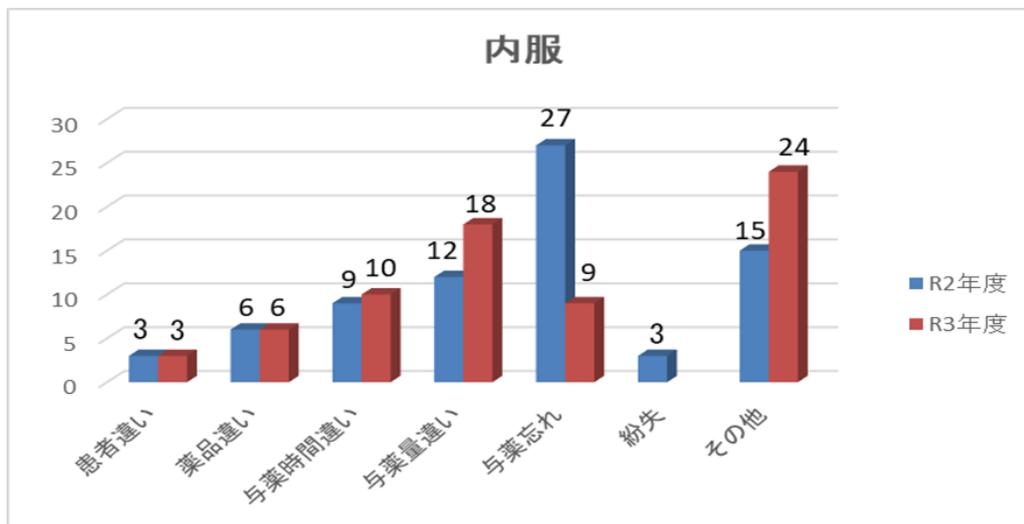
④ダブルチェックの徹底

- ・ハイリスク薬
- ・指示簿チェック
- ・6Rをラウンド時にヒヤリング

活動内容：第2火曜日 16：00～16：30 複数部門ラウンドを実施

※中間・年間活動評価の実施

結果：



評価

①与薬忘れ

内服 9件（前年度-18件）、注射 26件（前年度+2件）

内服は食前薬・貼付薬、注射はインスリンや時間指定の薬剤、冷所保管薬の投与忘れが多く見られた。

②与薬量/薬品間違い

内服 24件（18/6）（前年度+6件） 注射 23件（13/10）（前年度-1件）

シングルチェックによる思い込みが多かった。

③リーダーのチェック徹底

与薬忘れを防ぐためにチェックが始まったが、チェック漏れのために与薬忘れに気づかなかつた例もあり。

病棟によって徹底できている部署、毎回チェック漏れが多く指摘される部署が同じで

ある。リンクナースを中心にリーダー同士で注意し合う。

冷蔵庫内の薬剤、貼付薬等の通常の内服以外でチェックが漏れるため投与忘れに気づかず、翌日の薬剤投与時に前日の物が残っている、と気づくことが大半を占めた。

④ダブルチェックの徹底

ハイリスク薬表を作成し各部署の注射台に掲示しているが、ダブルチェックはしていたとしても、ラベルへのサインが徹底されていない。管理職、リーダークラスでも徹底できていないため、まずはその指導を行い、リーダークラスが他スタッフを指導できるようにしなければならない。ダブルチェックも「誘導」にならないように各自が指差呼称でチェックできるようになるとよい。

ハイリスク薬「インスリン・ドルミカム・プロポフォル・KCL・麻薬」についてはダブルチェックと注射ラベルへサインの徹底

- ・6Rについて、各病棟にポスター掲示中。ラウンド時に6Rの質問をするがスムーズに言えるスタッフの方が少ない現状であった。薬剤名、用量が特に確認漏れが目立った。いずれも「思い込み」で確認しているつもりでしっかりできていなかった。来年度も継続する。
- ・患者間違いは内服3件（前年度±0件）、注射1件（前年度-2件）
同姓同名患者ではなく、思い込みにより患者名確認をせずに投与している。
認時は指差し呼称の徹底と注射認証の徹底を周知していく。
- ・指示簿チェックは評価困難であるため、来年度は評価項目から外す

3) 医療機器・チューブ類トラブル予防検討部会

目標：①医療機器

始業点検の実施率を70%にする

設定ミスのインシデント報告を10件以内にする。

シリンジ、輸液、ベットサイドモニターなどの貸し出し機器の終業点検実施率90%
(血液、薬液拭き忘れ、故障していないか等)

②チューブ類

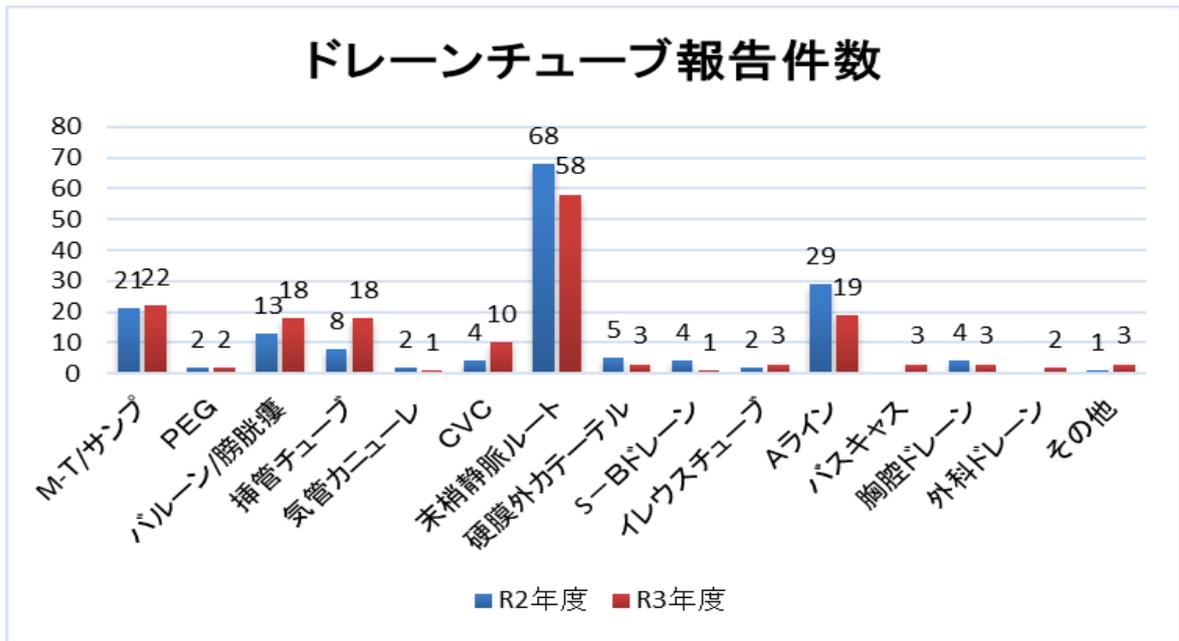
挿管チューブ、Aライン、マーゲンのチューブ類の固定方法一覧見直しラウンドする。

昨年より事故件数を減らす。

活動内容：第3火曜日ラウンド、輸液・シリンジポンプの始業・終業点検表の見直し

※中間・年間活動評価の実施

結果：



評価：

①医療機器

- ・輸液、シリンジの始業点検、終業点検の実施率 各病棟 90%以上→目標達成
昨年より清掃されて返却される数も増加しており、今後も継続していきたい。
- ・医療機器設定ミスのインシデント報告：0件→目標達成
今後も継続していきたい
- ・モニターアラーム対応が遅く、アラームが鳴っていても気にしていない、すぐに対応に行かない等がある。また、不必要患者にも装着しておりモニター装着患者が多いことも理由の一つ。
しかし、心電図モニター除去基準を検討したが各科で基準が異なるため、結局統一はできず医師確認となった。
- ・臨床工学技士による医療機器研修会（人工呼吸器・輸液ポンプ・シリンジポンプ・心電図モニター）を実施した。継続して研修を実施していく。

②チューブ類

- ・ドレーンチューブ 166 件（前年-3 件）
- ・事象レベル 3a：54 件 3b：6 件と全体の 36%を占めている。事象レベル 3a の主な報告は動脈ライン関連、イレウスチューブや膀胱留置カテーテル等のチューブ抜去関連であった。
- ・事象レベル 3b は気管チューブ関連、輸液の血管外漏出による潰瘍形があった。
特に ICU はドレーンチューブ類の取扱いが多いため、報告も 62 件（全体の 41%）を占めているがトラブルを軽んじず、観察と管理の徹底が早期に発見できているためである。
気管チューブ関連に関して、半数が ICU からの報告であるが例年と大きく変化はなし。気管チューブのトラブルは呼吸状態への影響が著しいため、自己抜管が減少するとよい。自己抜管の背景には身体抑制をしているにも関わらず自己抜管に至っているため、まずは身体抑制の適正な使用方法と管理が必要と考える。これにより気管チューブだけでなく、栄養チューブ等の他のドレーンチューブの自己抜去も軽減できると考える。
- ・末梢静脈ルート関連（点滴漏れや静脈炎含）58 件（前年度-10 件）しかし、実際にはまだ多い。

輸液管理に関して勤務交代時（朝夕）、輸液交換時で最低限輸液確認するようにマニュアルを改訂した。

- ・使用していないドレーンやチューブは早期に抜去を検討、整理整頓することで異常を早期に見つけることができるようにする。

4) 患者誤認事故防止検討部会

目標：①患者間違い検査・内服ともに5件/年以内

検体採取時はラベルと患者氏名の照合を徹底する

放射線関連検査及び生理検査関連検査時はフルネームでの氏名確認を徹底する

②同姓同名患者表記の徹底

③事務部門における患者間違い・宛先間違い・入力間違い0件

事務部門における入力間違い防止等に関連したマニュアル作成する

活動内容：第4火曜日ラウンド

※中間・年間活動評価の実施

結果：患者間違い16件（事象レベル0：3件除外）

検査9件 放射線関連4件 内服3件 注射1件 配膳1件

①患者間違い検査・内服ともに5件/年以内→計4件であり目標達成

- ・全症例において患者名確認ができていない（思い込み）。放射線科からの報告は全例、患者を呼び入れた際に違う患者が入ってきている。患者は違う名前でも似た名前や母音が似ていると自分が呼ばれたと思ってしまうため、必ず患者からフルネームで名乗ってもらうことを徹底する
- ・注射認証に関してベットサイドでの認証がされておらず、まとめて手入力をしていた実態がわかった。注射の1件もベットサイドで認証が実施されていなかった。電子カルテ管理室に協力を仰ぎ、実態調査実施。注意を繰り返し、最終的に個別指導まで行いベットサイドでの注射認証率が改善した。

②同姓同名患者表記

同姓/同名表記は実施されているが、退院後もそのまま注意テープが貼られたままということが多くあった。

③事務部門

患者誤認0件

4.インシデントアクシデント事例に関する活動

- ・事故報告書に基づき、院内ラウンド実施
- ・報告者または所属長へ情報収集
- ・原因分析結果に基づく改善策の査定
- ・院内でのインシデントアクシデント事例報告件数や共有事例、警鐘事例についてはイントラへ掲載し情報提供
- ・医療事故調査制度へ届出症例に対し、院内調査委員会開催

(2019.4.26 発生事例→申し立て期日 2022.4.30)

5.患者相談窓口との連携

相談報告書提出件数：30件

診療に関する相談	5件	看護に関する相談	15件
接遇に関する相談	1件	保険・診療費に関する相談	1件
設備・環境に関する相談	1件	その他	7件

相談内容とその対応については毎月、医療安全推進委員会、医療安全管理委員会で報告。委員会で出た意見は各部署へ持ち帰り通知。また、情報共有としてリンクナースが伝達。

※相談窓口対応 総数 1353件

6.医療安全マニュアルの作成・改訂

- ・セーフマスターシステムバージョン変更
- ・医療安全管理室の構成員改訂

7.物品

- ・エピペン配置（院内3カ所）

8.リスクマネージャーとしての能力向上に関する活動

日時	研修・セミナー名	企画者
11/30	令和3年度九州・沖縄地区医療安全に関するワークショップ	厚生労働省九州厚生局

栄養サポート室

当院の栄養サポートチーム（以下 NST：Nutrition Support Team）は平成 17 年 12 月より活動しています。

患者様の病状に応じた最もふさわしい栄養管理の提言を通じて栄養状態の改善に努め、治療効果の向上、合併症の予防および QOL の向上を図ることを目的としています。

1. 委員会構成員

診療部	内科医師(2名)、歯科医師(1名)
看護部	病棟看護師(9名)
医療技術部	管理栄養士(5名)、薬剤師(4名)、理学療法士(1名)、歯科衛生士(1名)
事務部	総務課(1名) (日本静脈経腸栄養学会 NST 専門療法士 6名含む)

2. 活動内容

1) 毎月第一金曜日 NST 会議

先月の活動内容の報告、今後の予定について話し合います。

2) 毎週水曜日 カンファレンス・病棟回診

病棟をまわり、患者様の栄養状態の把握や食事摂取量、点滴メニューなどを確認し、適切であるかどうか検討しています。

NST 対象患者に対する検討事項	1. 適切なエネルギー量、タンパク質量、水分量および電解質量の把握
	2. 経静脈栄養から経腸栄養への移行の可能性
	3. 経静脈栄養、経腸栄養から経口摂取への移行の可能性
	4. 食事摂取不良患者や低栄養患者への具体的な栄養計画の提案
	食事摂取不良患者における、食事形態および使用薬剤等の検討
	経管栄養時、流動食を投与する際の適切な投与速度の検討
経管栄養化で下痢が持続する患者へのシンバイオティクスの導入	
褥瘡患者への摂取タンパク質量の検討や亜鉛・銅・ビタミン強化の必要性の検討	
経静脈栄養時における脂肪乳剤使用の推奨	
電解質異常時における適切な輸液・薬剤への変更提案	

3. カンファレンス・病棟回診実績

1) カンファレンス・病棟回診回数 48 回

対象患者数 37 人

2) NST 介入終了理由

栄養状態改善（目標達成）12%

転院 50%、死亡 13%、その他（治療方針変更など）25%

4. 勉強会開催

栄養についての知識の向上を目指すことを目標に NST 委員会主催の勉強会を開催していますが、2021 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。

地域医療連携室

1. 医療連携のつどい

地域医療連携室が主催となり、毎月様々な分野の講演会を当院にて実施しております。

2021年度も多彩な講演内容で開催する予定でしたが、新型コロナウイルス拡大の影響により、残念ながら多数の講演の開催を中止致しました。一刻も早く新型コロナウイルスが収束し、以前のように顔の見える連携が出来るように願っております。

2. 実施内容

開催日	テーマ	講師
9月9日	福岡西部地区医療連携講演会 一般演題 最新の心不全治療と地域連携の重要性	座長：福岡記念病院・循環器内科 副院長 舩元 章浩 演者：九州大学病院・循環器内科 藤野 剛雄
10月26日	福岡西部地区医療連携講演会 一般演題 行く末を見据えた日常の高血圧診療	座長：福岡記念病院・循環器内科 院長 上野 高史 演者：久留米大学医療センター・循環器内科 教授 藤野 剛雄
11月29日	福岡西部地区医療連携講演会 一般演題 片頭痛に関する話題	座長：福岡記念病院・脳神経内科 部長 長山 成美 演者：筑波大学附属病院・水戸地域医療教育センター・水戸協同病院・脳神経外科 頭痛外来教授 柴田 靖
12月9日	福岡西部地区医療連携講演会 一般演題 外来気道感染症における抗菌薬適正使用について 尿より分離されたESBL産性大腸菌の薬剤感受性について	演者：福岡記念病院 薬剤師 酒見 真也 演者：福岡記念病院・リウマチ科・感染症内科 部長 向野 賢治
1月25日	福岡西部地区医療連携講演会 一般演題 最新の糖尿病・心不全治療戦略	座長：福岡記念病院・循環器内科 副院長 舩元 章浩 演者：佐賀大学医学部内科学講座 主任教授 野出 孝一
2月18日	福岡西部地区医療連携講演会 一般演題 当院の転倒事例紹介～転棟による外傷と経過～ 身体的側面から見た転倒防止	講師：福岡記念病院・医療安全対策室 室長 永利美由紀 講師：福岡記念病院・理学療法士 主任 上釜 育美
2月24日	福岡西部地区医療連携講演会 一般演題 超高齢者社会における脳梗塞慢性期治療 ～脳梗塞予防と頭蓋内出血回避を如何に両立させるか～	座長：福岡記念病院・脳神経外科 副院長 古市 将司 演者：国立病院機構九州医療センター・臨床研究推進部長 脳血管・神経内科 矢坂 正弘
3月2日	福岡西部地区医療連携講演会 一般演題 急性期病院が取り組む目標設定型アプローチによる 心臓リハビリ 高齢者心不全の現状と課題～治療目標を考える～(仮)	座長：福岡記念病院・リハビリテーション科 澤村 翔吾 演者：都城市郡医師会病院・ 総合リハビリテーション室 室長 花田 智 座長：福岡記念病院・循環器内科 院長 上3野 高史 演者：九州大学大学院医学研究院循環器病免疫制御研究 講座 准教授 井出 友美
3月18日	福岡西部地区医療連携講演会 一般演題(テーマ：慢性疼痛と漢方) 当院ペインクリニックの紹介 レーダーチャートで読み解く痛みの治療戦略	座長：福岡記念病院 副院長 山口 哲 演者：福岡記念病院・麻酔科・ペインクリニック科 松尾 顯 演者：東京医科大学病院麻酔科兼任講師温知堂矢数医院 副院長 矢数 芳英
12月9日	病理症例検討会(CPC) 死亡から数時間が経過していると考えられた死因不明の症例	久留米大学医学部病理学講座 講師 眞田 咲子 大学院生 近藤 慧一 福岡記念病院 副院長 救急科 山口 哲 研修医 入江 香里

福岡記念 PET・健診センター

社会医療法人大成会福岡記念PET・健診センターは、地域の皆様の健康増進に寄与すること及び地域医療機関の診療支援に貢献することを事業理念として2007年11月開設されました。

三大死因といわれている「がん」「心筋梗塞」「脳卒中」をはじめ生活習慣病対策に照準を合わせ、PET-CT、マンモグラフィ撮影装置、CT装置、X線透視・撮影装置、超音波診断装置、上部・下部内視鏡装置等々の健診装置を完備すると共に専任スペシャリストの医師、放射線技師、臨床検査技師及び保健師、看護師を配し、地域の皆様及び地域医療機関のご期待に沿えるよう万全の体制を確保しています。

1. 令和3年度の主な事業活動

1) 地域活動

- ・公民館及び自治協議会の健康講座事業支援（新型コロナウイルス感染拡大の為中止）
- ・高取公民館 健康講話事業の実施（新型コロナウイルス感染拡大の為中止）

2) 職域活動

- ・各地域の商工会議所厚生サービス支援事業の実施（福岡、早良、糸島、唐津）
- ・産業医契約の強化を行い、個人から職場までのトータル管理ケアの実施
- ・契約事業所のストレスチェックの実施

3) 保険診療

- ・PET-CT紹介元医療機関での放射線科医の読影会の参加（顔が見える連携の推進）の定着化
- ・紹介元医療機関へ半導体PET-CT導入メリットの周知活動

4) 新型コロナ対策

- ・感染対策を行い、受診者・従業員の安全を考慮した環境の整備の実施。

5) 食品試験の実施

- ・食品の臨床試験（特定保健用食品・機能性表示食品）を実施。

6) 健診システムの更新

2. 令和4年度の主な事業活動

- ・新型コロナウイルス対策を行い安全・安心を提供できる健診センターとして全職員一丸となり受診の健康増進に寄与してまいります。
- ・昨年より実施しておりますPETドック、人間ドック、各種健康診断のコースの見直しを段階的にを行い受診者が受けやすく、検査する事の意義が分かるコース設定を行います。また結果返却の時間短縮を目指します。
- ・健診システムの更新を行う事で無駄のない予約枠の設定、検査報告書のリニューアルを行います。
- ・PETドックの予約枠の増、受診しやすい価格設定など他施設との差別化を目指します。
- ・食品の臨床試験症例数を十分な感染対策を行いながら増加させます。

1) 地域活動

- ・福岡記念病院地域連携室と共同して現在出来る範囲にて地域活動を展開します。

2) 職域活動

- ・福岡商工会議所、早良商工会議所、糸島商工会議所、並びに唐津商工会議所支援事業を引き続き行って参ります。
- ・産業医契約のニーズに応える枠組みの策定
- ・Withコロナを見据えた事業展開の策定を行います。

3. 福岡記念 PET・健診センターの特色

1) 施設環境

- ・アクセスに優れ福岡西部の中心的位置にあり非常に利便性に富んでいます。
- ・中央区でありながら駐車場が確保され、車での来院が可能で利便性を高め評判になっています。
- ・健診建屋は、コンパクトにまとめられ、清潔感にあふれ受診者の皆様に喜んでいただいています。

2) 健診センターの施設と体制

- ・半導体PET-CT等の検査・健診機器をそろえ、ご期待にお応えしており好評を載っています。
- ・健診にかかる専門の医師を配して健診の徹底を期しています
- ・女性医師9人を配し、女性の健診に配慮しています。

3) 受診者エスコート

- ・予約・健診相談・総合案内・受付・受診者案内等、受診者の目線、立場を尊重信頼・安全・安心に心がけています。
- ・待ち時間を極力なくし、受診者の不安解消に努めています。
- ・PET/CT 検査で医療機関からの紹介による患者様には、希望に応じて自宅又は病院への送迎を実施しています。

4) 健診結果・検査結果の措置

- ・健診結果については、親切、丁寧を旨とし、判りやすく納得のいく説明を行っています。
- ・紹介頂いたPET/CT所見については、翌営業日中にご紹介頂いた医師に返却しています。

4. PET/CT 検査紹介医療機関一覧

医療機関名	件数	医療機関名	件数
福岡赤十字病院	347	藤沢内科クリニック	2
浜の町病院	285	九州国際重粒子線がん治療センター	1
九州中央病院	192	JCHO 九州病院	1
福岡大学筑紫病院	63	神代医院	1
福岡記念病院	53	森田クリニック	1
白十字病院	47	松本整形外科医院	1
福西会病院	36	熊本赤十字病院	1
原三信病院	34	青木優美クリニック	1
三恵外科医院	21	めいのはま白翠内科クリニック	1
九州医療センター	18	さく病院	1
福岡歯科大学医科歯科総合病院	13	福岡大学病院	1
佐田病院	10	小倉記念病院	1
福岡記念PET・健診センター	7	吉村病院	1
ウエルネス天神クリニック	7	喜多村クリニック	1
畠山内科胃腸科クリニック	6	及川病院 六本松乳腺クリニック	1
福岡大学西新病院	5	松口外科胃腸科医院	1
パピオン乳腺クリニック	3	川崎胃腸科・内科クリニック	1
九州大学病院	3	かわもと胃腸科内科クリニック	1
広瀬病院	3	吉村内科	1
西福岡病院	2	ICVS 東京クリニック	1
木村病院	2	糸島医師会病院	1
ふじ養生クリニック福岡	2	酒井胃腸内科・内科クリニック	1
福岡病院	2		
合計 1,184 件			

臨床研修管理委員会

2022年3月、第17期生6名は初期臨床研修を無事終了し、4月よりそれぞれの施設で後期研修に入りました。現在第18期生6名は協力病院・施設での2年目の研修を行っています。引き続き本年もご指導・ご鞭撻のほど、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

そして、2022年4月より第19期生7名が入職致しました。2020年度よりすべての研修施設で研修医評価がEPOCによる評価に代わりました。新型コロナウイルスの影響もあって臨床研修プログラムの下、日夜研修に励み日々切磋琢磨しております。初期臨床研修は、プライマリーケアの診断能力（態度・知識・技能）の修得は勿論大事ですが、更に、医師として社会人としての人格を涵養していただきたいと思っております。

17期生 2020年4月 研修開始	研修医氏名	後期研修先
	内村 萌人	久留米大学麻酔科
	岡本 菜奈	九州大学病態制御内科学（第三内科）
	葛山 巧	産業医科大学産業医コース
	後藤 崇	福岡大学形成外科
	杉元 悠太郎	福岡大学腎臓・膠原病内科
	望月 彰人	福岡大学腎臓・膠原病内科

18期生 2021年4月 研修開始	研修医氏名	出身大学
	石井 雄大	福岡大学
	木村 知代	長崎大学
	繁永 直樹	久留米大学
	的野 渚千	産業医科大学
	山崎 晃平	福岡大学
吉村 修一	久留米大学	

19期生 2022年4月 研修開始	研修医氏名	出身大学
	石川 洋平	金沢医科大学
	木野 裕磨	大分大学
	住田 祐太	産業医科大学
	仲 碧子	大分大学
	西賀 琢真	久留米大学
	二宮 あかね	産業医科大学
八谷 祥	長崎大学	

1. 協力型臨床研修病院

施設名	施設長名	郵便番号	住所
医療法人浜江堂油山病院	入澤 誠	814-0171	福岡市早良区野芥5丁目6-37
福岡大学病院	岩崎 昭憲	814-0180	福岡市城南区七隈7丁目45-1
久留米大学病院	志波 直人	830-0011	福岡県久留米市旭町67

2. 協力型臨床研修施設

施設名	施設長名	郵便番号	住所
介護老人保健施設からぎステーション	稲津 佳世子	814-0171	福岡市早良区野芥5丁目6-37
医療法人にのさかクリニック	二ノ坂 建史	814-0171	福岡市早良区野芥4丁目19-34

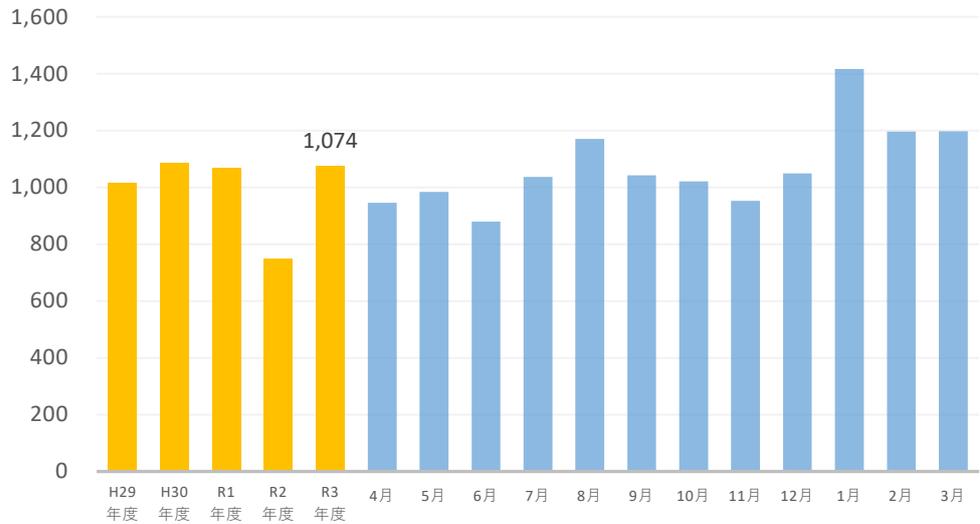
医療統計

【初診患者数】

年度データ（黄色棒グラフ）は月平均

令和2年度はコロナ元年、かつ選定療養費の引き上げ

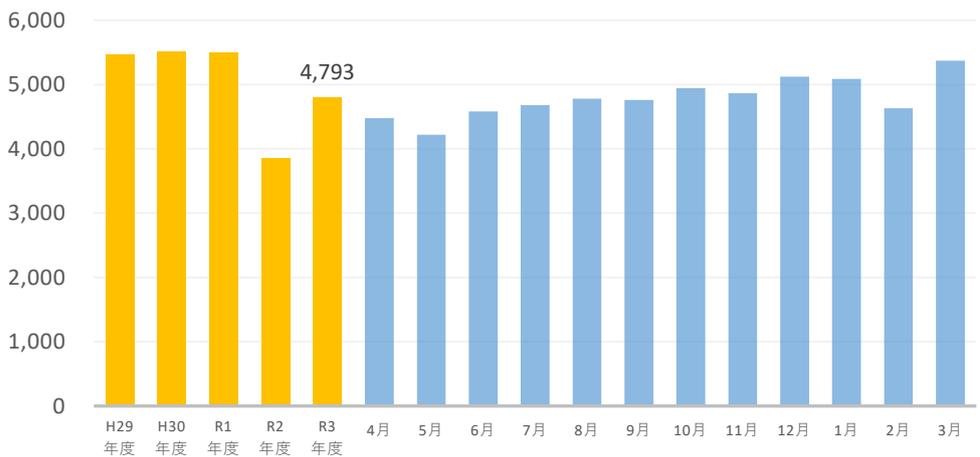
今年度は発熱外来受診もあり増加



【外来患者数】

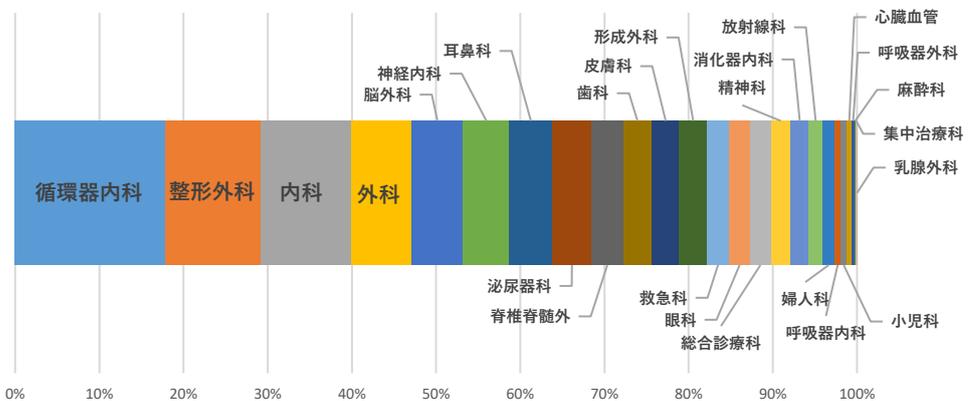
年度データ（黄色棒グラフ）は月平均

受診控えの影響あり、コロナ禍前まで回復していない



【外来患者構成】

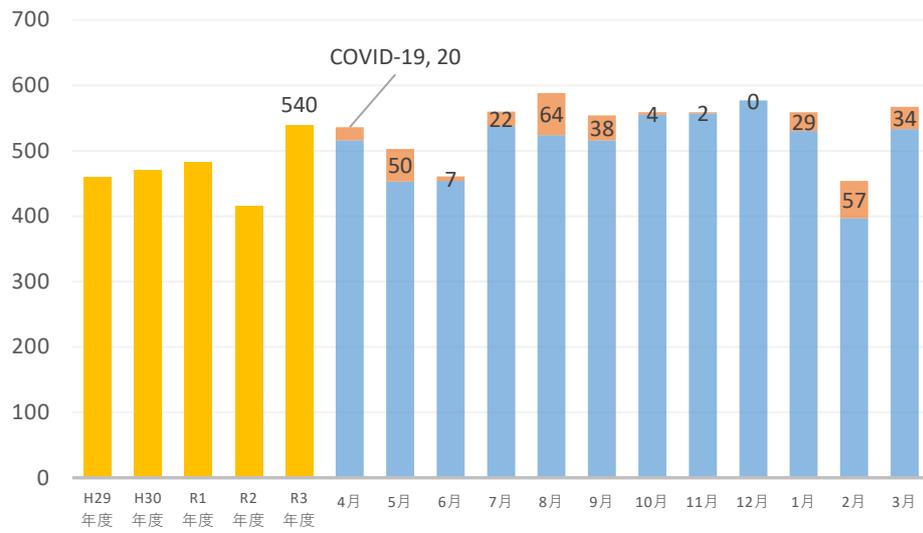
時間外を含む



【新入院患者数】

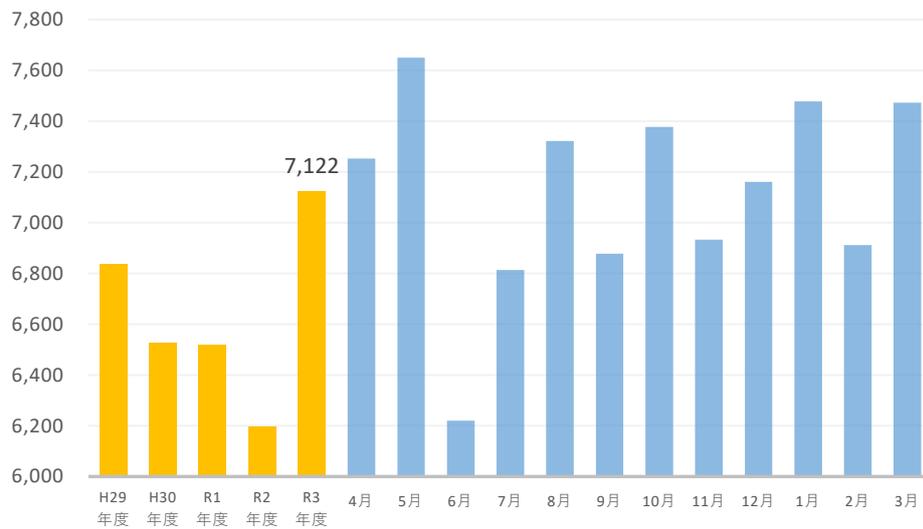
年度データ（黄色棒グラフ）は月平均

COVID-19 患者数は「入院契機」がCOVID-19の患者数



【延入院患者数】

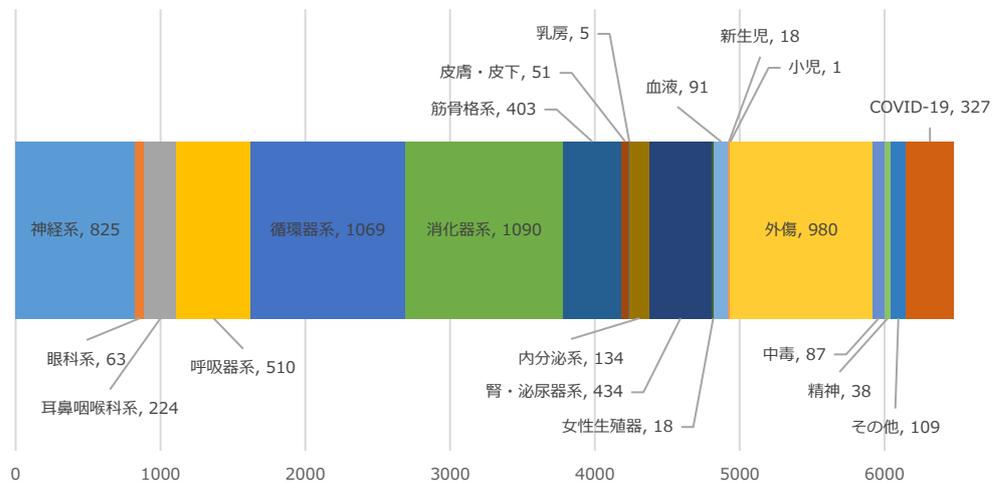
年度データ（黄色棒グラフ）は月平均



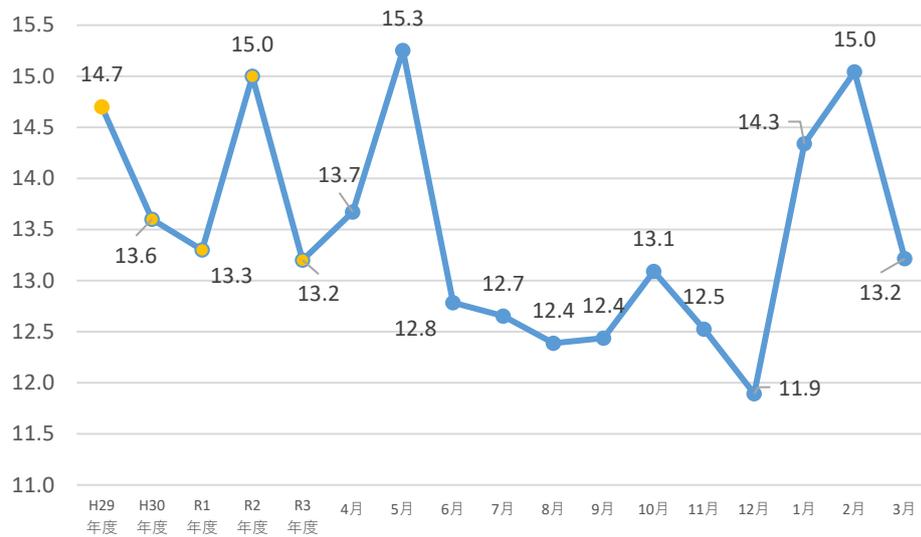
【MDC別新入院数】

左から分類コード順

COVID-19 患者数は「入院契機」がCOVID-19の患者数



【平均在院日数】

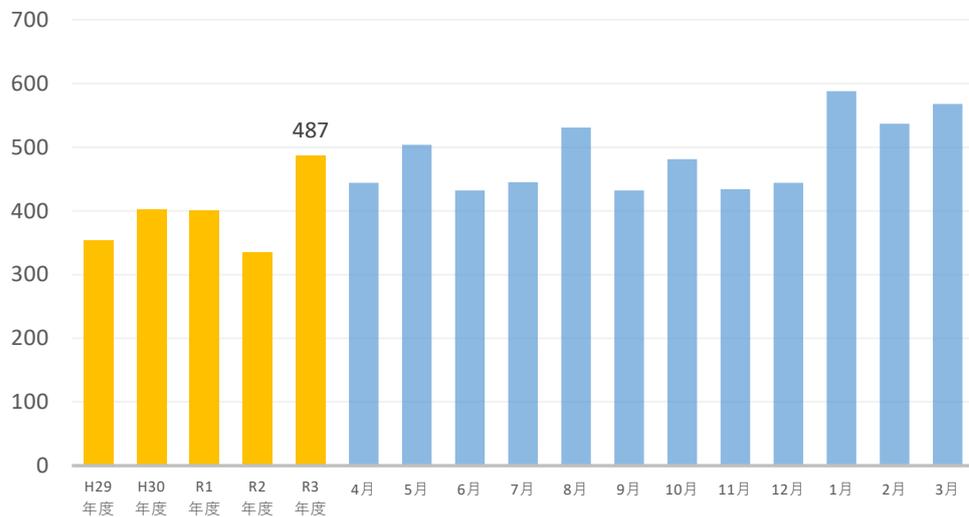


【紹介・逆紹介】

【紹介患者数】

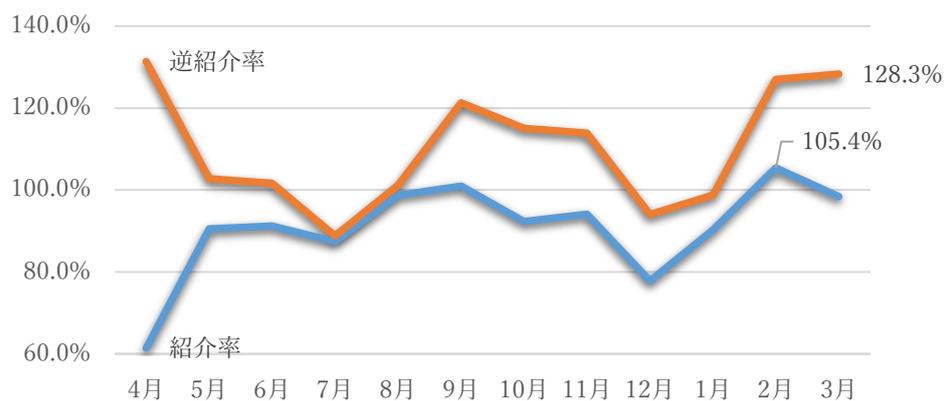
年度データ（黄色棒グラフ）は月平均

※初診のみ



【地域医療支援病院紹介率・逆紹介率】

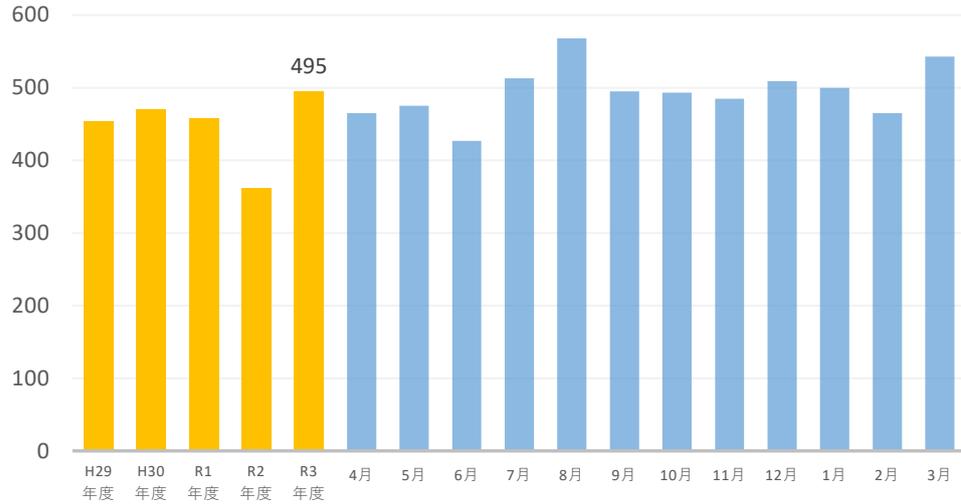
紹介率
紹介初診／初診
（救急初診・時間外初診除く）
逆紹介率
逆紹介／初診数
（救急初診・時間外初診除く）



【救急患者数】

【救急搬送件数】

過去年度は月平均



【手術件数】

主要手術	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	R03年度
閉鎖循環式全身麻酔	1,359	1,221	1,238	1,013	1,229
経皮的カテーテル心筋焼灼術	93	121	157	127	182
経皮的冠動脈ステント留置術	171	122	122	98	138
経皮的冠動脈形成術	23	30	23	27	23
ペースメーカー移植術	40	38	61	39	81
冠動脈バイパス移植術	7	7	11	14	17
弁形成術/弁置換術	7	3	11	13	10
骨折観血の手術	243	248	285	213	254
関節内骨折観血の手術	55	66	79	43	79
人工骨頭挿入術	61	80	84	53	76
人工関節置換術（股・肩・膝）	235	188	177	137	128
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術	65	68	91	75	93
頭蓋内血腫除去術	26	28	22	12	16
脳動脈瘤頸部クリッピング	9	13	9	8	8
脳血管内手術	5	6	4	1	10
水晶体再建術	12	53	48	29	89
悪性腫瘍手術	31	39	31	36	26
腸切除術	55	29	21	17	33
腹腔鏡下手術	82	81	128	104	124
内視鏡下手術	193	302	403	296	484

編集後記

皆様に無事令和3年度の年報がお送りできることに感謝いたします。

令和3年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルス肺炎への対処が業務の大きな部分を占めていましたが、年度後半からはオミクロン株に置き換わり、以前のような重篤な肺炎像を見ることは少なくなりました。この編集後記を記載している現在も PCR 陽性の患者様は来られますが、胸部 CT では多くが肺炎像がないかあっても軽度の症例が大部分を占めています。全国的にも感染者が減少傾向にありましたが、現在はまた少しずつ増加の傾向にあり、まだしばらく予断を許さない状況と考えています。

令和3年度（令和3年4月～令和4年3月）の救急搬送件数は5938人で、前年度の4341人よりも大きく増加しました。前年の令和2年度は新型コロナウイルス肺炎による4月・5月の激減が大きく影響しましたが、今年度はコロナ前の令和元年度の5476人よりも多く、当院における救急受け入れ件数の最高を更新しました。

当院の柱である救急医療です。当院の特色である救急疾患の診療にこれまで以上に積極的に取り組み、地域医療に貢献をしたいと考えています。

連携病院施設の皆様には時にご不便をおかけすることがあるかとも思いますが、何卒お力を頂きたくお願い申し上げます。

最後に精魂傾けて原稿整理をして下さった総務の藤田さん、医局の本多さん、データを提供いただく診療情報室の平川さん、いつもありがとうございます。

病院年報編集委員長 石岡 久和

2021年 社会医療法人大成会年報

発行：令和4年6月

編集・印刷：年報編集委員

委員長 石岡 久和

委員 平川 英武

本多 佳奈子

藤田 拓也

綿田 一